

館報 2005 54

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報 2005 54

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団 ブリヂストン美術館
石橋財団 石橋美術館

館報54号(2005年度)

編集・発行

石橋財団ブリヂストン美術館
〒104-0031 東京都中央区京橋1-10-1

石橋財団石橋美術館
〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015

印刷
株式会社昭和堂

2006年12月発行

Annual Report of Bridgestone Museum of Art &
Ishibashi Museum of Art No. 54 (2005)

Edited and published by

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation
1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839-0862, Japan

Printed by
Showado Co., Ltd.

©2006
Bridgestone Museum of Art,
Ishibashi Museum of Art,
Ishibashi Foundation

目次 Contents

1	設立趣旨、機構・運営	4
	Brief Histories of the Museums, Organization and Management	5
2	展覧会	
	• プリヂェストン美術館	
	・ 特集展示	6
	・ コーナー展示	9
	・ 拡大常設展	13
	• 石橋美術館	
	・ 特別展	26
	・ コーナー展示	30
	・ テーマ展示	38
	・ 常設展示	49
3	教育普及	
	• プリヂェストン美術館	53
	• 石橋美術館	57
4	入場者数	60
5	新収蔵作品 New Acquisitions	61
6	新収図書	
	• プリヂェストン美術館	71
	• 石橋美術館	71
7	修復記録	72
8	作品貸出記録	
	• プリヂェストン美術館	115
	• 石橋美術館	117
9	刊行物一覧	
	• 展覧会カタログ	119
	• その他の刊行物	123
10	研究報告	125
11	美術館案内 Guide to the Museums	133
12	石橋財団職員	134

設立趣旨

ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は、株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎(1889-1976)が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を、社会公共のため、広く一般の鑑賞に供し、文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき、1952(昭和27)年1月8日、ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956(昭和31)年4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し、1961(昭和36)年9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお、2003(平成15)年1月に一階部分の増床工事を行い、ティールームを開設した。

石橋美術館

石橋美術館は、石橋正二郎が1956(昭和31)年4月26日、同社の創立25周年を記念して、社会公共の福祉と文化向上のために、郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977(昭和52)年、石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ、同年4月以降、久留米市の要請により、石橋財団がその管理運営に当たっている。

なお、本館に付随する別館は、1995(平成7)年1月8日、石橋正二郎によって蒐集された石橋コレクションのうち、書画・陶磁器類を収蔵展示する施設として石橋幹一郎により久留米市に建設寄贈され、一年余の養生期間を経て1996(平成8)年10月17日に開館した。

機構・運営

石橋財団

(2005年12月31日現在)

理事長	石橋 寛						
理事	鵜澤昌和	加嶋昭男	加瀬英明	中山 暁	富山秀男	平野 実	
監事	亀徳正之	唐澤高美	湯淺達祐				
評議員	石井公一郎	高碕芳郎	高階秀爾	石樽和夫	村上 浩	小林 忠	石橋知子
	水戸岡鋭治	遠藤長夫					

美術館運営委員会

委員長	石橋 寛					
委員	嘉門安雄	高階秀爾	小林 忠	島田紀夫	富山秀男	平野 実

寄付助成委員会

委員長	鵜澤昌和				
委員	加嶋昭男	村上 浩	富山秀男	平野 実	

常務理事	中山 暁	富山秀男	
------	------	------	--

事務局

事務局長	遠藤長夫
------	------

ブリヂストン美術館

館長	富山秀男
----	------

石橋美術館

館長	平野 実
----	------

Brief Histories of the Museums

Bridgestone Museum of Art

On January 8, 1952, ISHIBASHI Shojiro (1889-1976), the founder of the Bridgestone Corporation, wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public a museum of art within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the “Bridgestone Gallery”. The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, ISHIBASHI donated the works in the Gallery to the Foundation. In January 1968, the English name was changed from the “Bridgestone Gallery” to the “Bridgestone Museum of Art”. In January 2003, the ground floor was enlarged and a tea room was opened.

Ishibashi Museum of Art

On April 26, 1956, in commemoration of the 25 th anniversary of the Bridgestone Corporation, ISHIBASHI Shojiro donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foundation with the management of the Museum.

On January 8, 1995, ISHIBASHI Kan'ichiro, son of ISHIBASHI Shojiro donated to the city of Kurume a new museum especially designated to exhibit Shojiro's collection of Asian Arts, such as brush painting, calligraphy, porcelain works. It has been open to the public since October 17, 1996.

Organization and Management

Ishibashi Foundation

(As of December 31, 2005)

President of the Board of Directors	ISHIBASHI Hiroshi			
Directors	UZAWA Masakazu	KASHIMA Akio	KASE Hideaki	NAKAYAMA Akira
	TOMIYAMA Hideo	HIRANO Minoru		
Auditors	KITOKU Masayuki	KARASAWA Takami	YUASA Tatsusuke	
Council Members	ISHII Koichiro	TAKASAKI Yoshiro	TAKASHINA Shuji	ISHIKURE Kazuo
	MURAKAMI Hiroshi	KOBAYASHI Tadashi	ISHIBASHI Tomoko	MITOOKA Eiji
	ENDO Takeo			

Executive Committee of the Museums

Chairman	ISHIBASHI Hiroshi			
Members	KAMON Yasuo	TAKASHINA Shuji	KOBAYASHI Tadashi	SHIMADA Norio
	TOMIYAMA Hideo	HIRANO Minoru		

Program Development Grant Committee

Chairman	UZAWA Masakazu			
Members	KASHIMA Akio	MURAKAMI Hiroshi	TOMIYAMA Hideo	HIRANO Minoru

Managing Director	NAKAYAMA Akira
Art Director	TOMIYAMA Hideo

Administration

Executive Secretary	ENDO Takeo
----------------------------	------------

Bridgestone Museum of Art

Director	TOMIYAMA Hideo
-----------------	----------------

Ishibashi Museum of Art

Director	HIRANO Minoru
-----------------	---------------

〈特集展示〉

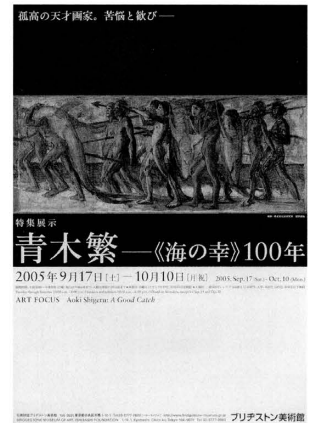
青木繁—《海の幸》100年

2005年9月17日(土)－10月10日(月・祝)

会場：第1室－2室

出品内容：油彩16点，水彩など紙作品7点，借用作品6点，資料9点 計60点

入場者総数：14,487人(1日平均659人)



展覧会チラシ

出品目録：

1. 《自画像》 / 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm / 石橋美術館
2. 《閻威弥尼》 / 1903年 / 油彩・板 / 14.7×10.3cm / 石橋美術館
3. 《輪転》 / 1903年 / 油彩・カンヴァス / 26.8×37.8cm / 石橋美術館
4. 《天平時代》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm / プリヂストン美術館
5. 《春》 / 1904年 / 水彩，パステル・紙 / 17.1×33.7cm / 石橋美術館
6. 《海》 / 1904年 / 油彩・板 / 10.3×14.7cm / 石橋美術館
7. 《海の幸》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 70.2×182.0cm / 石橋美術館
8. 《農家》 / 1904年 / 油彩・板 / 23.3×33.0cm / 石橋美術館
9. 《木立(森の暮色)》 / 1904年 / 油彩・板 / 33.0×23.0cm / 石橋美術館
10. 《女の顔》 / 1904年 / 油彩・板(羽子板) / 33.0×9.5cm / 石橋美術館
11. 《風景》 / 1904年 / 水彩・絹(扇面) / 15.6×51.2cm / 石橋美術館
12. 《海景(布良の海)》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.0×73.0cm / プリヂストン美術館
13. 《水浴》 / 1904年 / 水彩・紙 / 19.0×34.2cm / 石橋美術館
14. 《海》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.5×73.0cm / 石橋美術館
15. 《房州絵入書簡》 / 1904年 / 墨・紙 / 各17.0×47.0cm(4枚) / 個人蔵
16. 《光明皇后》 / 1905年 / 油彩・カンヴァス / 37.6×71.0cm / 石橋美術館
17. 《大穴牟知命》 / 1905年 / 油彩・カンヴァス / 75.5×127.0cm / 石橋美術館
18. 《雪景》 / 1906年 / 油彩・板 / 23.0×32.8cm / 石橋美術館
19. 《狂女》 / 1906年 / 水彩・紙 / 29.1×15.5cm / 石橋美術館
20. 《わだつみのいろこの宮》 / 1907年 / 油彩・カンヴァス / 180.0×68.3cm / 石橋美術館
21. 《月下滞船図》 / 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm / 石橋美術館
22. 《春》 / 1908年 / 水彩・布(襖布) / 直径44.3cm / 石橋美術館
23. 《秋》 / 1908年 / 水彩・布(襖布) / 直径44.4cm / 石橋美術館
24. 《鶴代，たよ子宛書簡》 / 1910年11月22日付 / 17.4×220.9cm / 石橋美術館

-
25. 1905年3月発行の雑誌『明星』己歳第3号掲載の《海の幸》
 26. 作者不詳《青木繁「海の幸」模写》 / 1940-50年代 / 油彩・カンヴァス / 70.0×182.0cm / 太田記念美術館
 27. 《海の幸》カラー画像(原寸大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 28. 《海の幸》反射赤外線画像(原寸大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 29. 《海の幸》透過赤外線画像(原寸大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 30. 《海の幸》カラー画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 31. 《海の幸》反射赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 32. 《海の幸》透過赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 33. 《海の幸》カラー画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 34. 《海の幸》反射赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 35. 《海の幸》透過赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 36. 《海の幸》カラー画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 37. 《海の幸》反射赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 38. 《海の幸》左辺部分画像 / 画像パネル / 2004年石橋財団撮影
 39. 《海の幸》顕微鏡画像(赤線と黒線の部分) / 画像パネル / 2004年石橋財団撮影
 40. 《海の幸》顕微鏡写真(金色の背景) / 画像パネル / 2004年石橋財団撮影
 41. 布良の地図
 42. 「布良海岸千葉県館山市布良」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 43. 「布良鼻灯台より望む布良海岸」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 44. 「青木繁らが滞在した小谷家」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
 45. 「福田たね肖像写真」 / 1903年頃 / 栃木県芳賀町教育委員会
 46. 福田たね《女良の思いで》 / 1960年 / 水彩・紙 / 27.7×39.5cm / 栃木県芳賀町教育委員会
 47. 福田たね《50年前の布良》 / 1960年 / 水彩・紙 / 25.0×36.3cm / 栃木県芳賀町教育委員会
 48. 福田たね《館山の茶屋》 / 1962年 / 水彩・紙 / 27.5×39.5cm / 栃木県芳賀町教育委員会
 49. 「茨城県下館市(現在の筑西市)にある『海の幸』陶板」 / 画像パネル / 2004年石橋美術館撮影
 50. 「栃木県芳賀町にある『海の幸』陶板レリーフ」 / 画像パネル / 2004年石橋美術館撮影
 51. 「けしけし山(久留米市)の青木繁碑」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供

出品参考資料

『青木繁画集』 / 政教社 / 1913年4月

『世界美術全集第31巻』 / 平凡社 / 1928年9月

『明治美術名作大展示会図録洋画彫刻工芸』 / 1944年12月
『青木繁』 / 美術家シリーズ1 / プリヂストン美術館 / 1954年
「海の幸」重要文化財指定書 / 1967年
北川晃二『青木繁その愛と彷徨』 / 講談社 / 1973年
松永伍一『青木繁その愛と放浪』 / 日本放送出版協会 / 1979年
『明星』 巳歳第3号 / 1905年3月(1980年1月, 臨川書店による復刻版)
中島美千代『青木繁と画の中の女』 / TBS ブリタニカ / 1998年12月

関連事業：

土曜講座「《海の幸》100年」 → p.54

広報記録：

新聞・雑誌：

「展覧会紹介」『新美術新聞』 no.1060, 2005年7月1日号
西田健作「一展逸点」(文化欄)『朝日新聞』2005年9月30日夕刊
「アートニュース」『一枚の繪』第410号, 2005年10月号

〈コーナー展示〉

絵のなかのふたり—シャガールから鬚嘸まで

2005年7月16日(土)–9月11日(日)

会場：第1室–第2室

主催：石橋財団ブリヂストン美術館 / 石橋財団石橋美術館

出品内容：油彩15点, アクリル1点, グワッシュ1点, 素描2点, 版画55点,
彫刻3点, 陶器1点 計78点

入場者総数：19,602人(1日平均384人)



絵のなかのふたり—シャガールから鬚嘸まで
2005.7/16土—9/11日 TWO BY TWO
石橋財団石橋美術館 主催
石橋財団ブリヂストン美術館 協賛
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 石橋美術館
TEL 03-5561-1111 FAX 03-5561-1112
http://www.ishibashi-art-museum.jp

展覧会チラシ

出品目録：

1. 恋人たち

1. フェリックス・ヴァロットン《信頼する人》/ 1895年 / 木版 / 17.9×22.3cm
2. ペーター・バーレンス《接吻》/ 1897年 / 木版 / 27.4×21.7cm / 文芸誌『パン』(1898年第4年次第2号)より
3. モーリス・ドニ《慈愛》/ リトグラフ / 30.2×25.2cm / マルティ版『レスタンブ・オリジナル』(1893年第1号)より
4. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》/ 1907-10年 / 石膏 / H.28.0cm
5. マルク・シャガール《恋人たちとマーガレットの花》/ 1949-50年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×47.0cm / ポーラ美術館
6. マルク・シャガール《ヴァンスの新月》/ 1955-56年 / グワッシュ / 64.9×50.1cm
7. マルク・シャガール《枝》/ 1956-62年 / 油彩・カンヴァス / 146.0×114.0cm / 三重県立美術館(助岡田文化財団寄贈)
8. アンドレ・マッソン《木の葉の上の男女》/ 1954年 / エッチング / 30.8×25.8cm
9. 村井正誠《モードの二人》/ 1986年 / 油彩・カンヴァス / 227.8×181.9cm / 世田谷美術館
10. ジョン・マーチン《人間の墮落》/ メゾチント, エッチング / 18.3×29.2cm / 『聖書』より
11. ジョン・マーチン《神の裁き》/ メゾチント, エッチング / 19.0×29.0cm / 『聖書』より
12. ジョン・マーチン《楽園追放》/ メゾチント, エッチング / 19.6×29.1cm / 『聖書』より
13. 鬚嘸《アダムとイヴ》/ 1963-67年 / 油彩・カンヴァス / 192.0×134.5cm / 東京国立近代美術館
14. フェルナンド・ボテロ《アダムとイヴ》(2点1組) / 1979年 / 油彩・カンヴァス / 各237.5×各120.6cm / 世田谷美術館

2. ふたりの物語

15. オノレ・ドーミエ《山中のドン・キホーテ》/ 1850年頃 / 油彩・板 / 39.6×31.2cm
16. オディロン・ルドン《神秘的語り》/ 油彩・カンヴァス / 52.1×31.5cm

-
17. オディロン・ルドン《供物》/ 油彩・厚紙 / 33.2×13.7cm
 18. ヴィルヘルム・フォルツ《サロメ》/ リトグラフ / 27.3×18.7cm / 文芸誌『パン』（1896年第2年次第3号）
 19. ルイ・アンクタン《騎士と乞食》/ 1893年 / リトグラフ / 36.7×50.1cm / マルティ版『レスタンプ・オリジナル』（1893年第1号）より
 20. ベン・シャーン《思いがけぬ邂逅》/ リトグラフ / 24.6×37.3cm / 『リルケ「マルテの手記」より一行の詩のために…』（1968年刊行）より
 21. ベン・シャーン《遠くから近づいてくるのが見える別離》/ リトグラフ / 47.4×41.3cm / 『リルケ「マルテの手記」より一行の詩のために…』（1968年刊行）より
 22. ベン・シャーン《心を悲しませてしまった両親のこと》/ リトグラフ / 38.6×34.0cm / 『リルケ「マルテの手記」より一行の詩のために…』（1968年刊行）より
 23. ベン・シャーン《愛に満ちたあまたの夜の回想》/ リトグラフ / 43.7×37.1cm / 『リルケ「マルテの手記」より一行の詩のために…』（1968年刊行）より
 24. 鬚嘸《絵物語 ミズ・アンド・ミスター・レインボー(No.1~10)》/ 1974年 / アクリル・カンヴァス / 146.6×427.2cm / 福岡市美術館

3. 母と子

25. シャルル・ポール・ルヌワール《踊り子と母親》/ リトグラフ / 47.3×34.6cm / 『レスタンプ・オリジナル』（1894年第8号）より
26. シャルル・モーラン《母と子》/ ソフトグランドエッチング / 24.5×18.2cm / 文芸誌『パン』（1896年第2年次第1号）より
27. エドヴァルト・ムンク《病める子》/ 1894年 / ドライポイント / 36.0×27.1cm
28. モーリス・ドニ《無題(母と子)》/ 1897年頃 / リトグラフ / 24.6×17.5cm / 文芸誌『パン』（1897年第3年次第3号）より
29. アンドレ・ドラン《聖母子》/ 1913年頃 / 油彩・板 / 27.0×21.6cm
30. 藤田嗣治《母子像》/ リトグラフ / 48.8×35.5cm / 石橋美術館
31. オシップ・ザツキン《母子》/ 1919年 / 着色されたセメント / 48.6×25.0cm
32. 伊原宇三郎《母と子》/ リトグラフ / 44.9×30.3cm
33. ヘンリー・ムア《波を背景にした母と子I(ハードグレー)》/ 1976年 / リトグラフ / 17.6×26.6cm / 『生誕80年記念版画集』（1978年刊行）
34. ヘンリー・ムア《波を背景にした母と子II(イエロー)》/ 1976年 / リトグラフ / 17.6×26.6cm / 『生誕80年記念版画集』（1978年刊行）
35. ヘンリー・ムア《波を背景にした母と子III(ソフトグレー)》/ 1976年 / リトグラフ / 17.6×26.6cm / 『生誕80年記念版画集』（1978年刊行）
36. ヘンリー・ムア《母と子(ルーベンス風)》/ 1979年 / ブロンズ / H.15.5cm

4. アトリエの作家とモデル

37. パブロ・ピカソ《画家とモデル》/ 1963年 / 油彩・カンヴァス / 89.0×115.9cm
38. パブロ・ピカソ《裸婦像をながめる彫刻家とモデル》/ 1933年3月15日 / ドライポイント / 19.6×27.8cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
39. パブロ・ピカソ《牡牛と二人のバックカントの彫刻を見る彫刻家とモデル》/ 1933年3月30日 / エッチング / 19.6×27.0cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
40. パブロ・ピカソ《休息する彫刻家、横たわるモデルと彫刻》/ 1933年3月31日 / エッチング / 19.3×26.8cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
41. パブロ・ピカソ《窓辺の彫刻家とモデル》/ 1933年4月7日 / エッチング / 36.1×29.4cm / 『ヴォラール

-
- ル・シリーズ』より
42. パブロ・ピカソ《彫刻家とモデルの顔、大またに歩く青年の彫刻》 / 1933年4月11日 / エッチング / 26.7×19.2cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 43. パブロ・ピカソ《画室にて》 / 1965年3月15日 / アクアチント, エッチング, ドライポイント / 24.9×38.3cm
 44. 安井曾太郎《画家とモデル》 / 1934年 / 木版 / 39.6×27.6cm / 石橋美術館
 45. 三雲祥之助《彫刻家》 / 1956年 / 石版 / 28.7×40.8cm / 石橋美術館 / 『春陽会石版画集』より
5. ペア
46. アッティカ赤絵式ペリケ「シレウス・シークエンス」 / 《男女図》 / 紀元前5世紀第1四半期 / 32.2×24.0cm
 47. ピエール=オーギュスト・ルノワール《水浴の少女たち》 / エッチング / 26.2×24.1cm / 『レスタンプ・オリジナル』(1895年最終号)より
 48. ケース・ヴァン・ドンゲン《シャンゼリゼ大通り》 / 1924-25年 / 油彩・カンヴァス / 68.0×52.2cm
 49. パブロ・ピカソ《水浴》 / 1930年10月17日 / エッチング / 31.4×22.2cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 50. パブロ・ピカソ《二人のカタルーニア人》 / 1934年11月29日 / エッチング / 23.4×29.1cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 51. パブロ・ピカソ《二人の裸婦とレンブラントの肖像》 / 1934年1月31日 / エッチング / 27.5×19.5cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 52. パブロ・ピカソ《頭部像を前にする二人の女》 / 1933年3月21日 / エッチング / 26.5×19.1cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 53. パブロ・ピカソ《二人の裸婦》 / 1934年1月27日 / エッチング / 31.5×22.3cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 54. マリー・ローランサン《二人の少女》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 64.9×54.2cm
 55. 藤田嗣治《二人の裸婦》 / 1927年 / エッチング / 38.5×55.2cm / 石橋美術館
 56. 有馬さとえ《ふたつの顔》 / 1936年 / 油彩・カンヴァス / 64.8×91.0cm / 石橋美術館
 57. 伊原宇三郎《二人の裸婦》 / リトグラフ / 45.5×30.0cm
 58. 伊原宇三郎《二人の裸婦》 / リトグラフ / 30.7×42.7cm
 59. 小磯良平《二人》 / 1954年 / リトグラフ / 54.3×40.5cm / 石橋美術館
 60. パブロ・ピカソ《二人の水浴の女》 / 1933年5月22日 / エッチング / 29.7×36.5cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 61. パブロ・ピカソ《女をあらわにする男》 / 1931年6月20日 / ドライポイント / 36.4×29.3cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 62. パブロ・ピカソ《力づく》 / 1931年7月9日 / エッチング / 21.9×31.0cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 63. パブロ・ピカソ《暴力》 / 1933年4月 / アクアチント, エッチング, ドライポイント / 27.8×19.6cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 64. パブロ・ピカソ《抱擁(愛の戦い)》 / 1933年4月23日 / ドライポイント / 29.5×36.7cm / 『ヴォラール・シリーズ』より
 65. アンドレ・ロート《海浜》 / 1922年頃 / 油彩・カンヴァス / 50.0×72.9cm
 66. パブロ・ピカソ《カフェテラスのピエロとアルルカン》 / 1920年頃 / ステンシル / 21.0×26.7cm
 67. オシップ・ザツキン《ロダンに捧ぐ(美女と野獣)》 / 1967年 / リトグラフ / 60.2×36.0cm / 単行書『ロダン』(アルテッド・エディション・ダール, 1967年刊行)のために刷られた版画より
 68. 古賀春江《海女》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 116.0×91.0cm / 石橋美術館
-

-
69. 古賀春江《「文化は人間を妨害する」のためのスケッチ》 / 1933年 / 鉛筆・紙 / 33.6×24.4cm / 石橋美術館
 70. 古賀春江《「文化は人間を妨害する」のためのスケッチ》 / 1933年 / 鉛筆・紙 / 33.6×24.4cm / 石橋美術館
 71. ヘンリー・ムア《柱を背にすわる二つの人体》 / 1976年 / リトグラフ / 13.5×22.9cm / 『生誕80年記念版画集』（1978年刊）
 72. マリノ・マリーニ《二人の軽業師と馬》 / 1955年 / リトグラフ / 61.0×41.0cm
 73. マリノ・マリーニ《競技》 / 1956年 / リトグラフ / 65.1×49.3cm
 74. マリノ・マリーニ《二人の道化師と馬》 / 1960年 / リトグラフ / 64.0×48.0cm
 75. 棟方志功《工楽両妃の柵》 / 1960年 / 木版 / 60.0×45.0cm / 石橋美術館
 76. アンリ=ジョルジュ・アダム《ロダンに捧ぐ》 / 1967年 / エングレーヴィング / 53.0×39.3cm / 単行書『ロダン』（アルテッド・エディション・ダール、1967年刊行）のために刷られた版画より
 77. 吉原英雄《彼と彼女》 / 1969年 / リトグラフ / 65.5×46.5cm
 78. 吉原英雄《フィンガー B》 / 1969年 / リトグラフ, エッチング / 54.5×40.0cm

* 出品リストの配列は、セクションごとに作家の生没年順としたが、セクション1については主題による分類を、5についてはかたちによる分類をしたうえで、それぞれ作家の生没年順を優先した。

* 所蔵表記のない作品は、すべてプリヂストン美術館蔵。

関連事業：

土曜講座「ふたりの関係、二つのかたち」 → p.54

広報記録：

新聞・雑誌：

「絵のなかのふたり—シャガールから鬚嘔まで」『新美術新聞』no.1063, 2005年8月1・11日合併号

「美の森へ 絵のなかのふたり—シャガールから鬚嘔まで」『週刊新潮』8月4日号

「展覧会情報」『月刊美術』no.359, 2005年8月20日, p.179-180

「インフォメーション」『東京人』no.218, 2005年9月号, p.112

テレビ：

「トウキョウ・アート・フロント」『東京アフタヌーンサプリ』TOKYO MXTV, 8月1日放映

〈拡大常設展〉

印象派と20世紀の巨匠たち—モネ、ルノワールからピカソまで

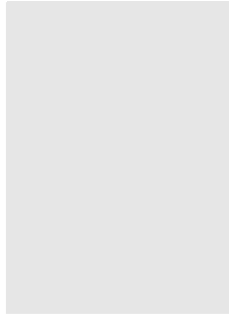
2005年1月25日(火)–7月10日(日)

会場：第1, 4–10, 2室

出品内容：216点(油彩139点, 水彩素描版画73点, 彫刻4点)

入場者総数：55,577人(1日平均386人)

* 前期1月25日(火)–4月16日(土)；後期4月19日(火)–7月10日(日)



展覧会チラシ(前期)



展覧会チラシ(後期)

出品目録：

I. 近代絵画のめざめから印象派へ(第1室)

1. カミーユ・コロー 《イタリアの女》 / 1826-28年 / 油彩・カンヴァス / 33.4×21.3cm
2. カミーユ・コロ 《ヴィル・ダヴレー》 / 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm
3. カミーユ・コロ 《森の中の若い女》 / 1865年 / 油彩・板 / 54.7×38.9cm
4. カミーユ・コロ 《風景》 / 木炭・紙 / 46.6×30.6cm ※前期のみ展示
5. カミーユ・コロ 《オンフルールのトゥータン農場》 / 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 44.4×63.8cm
6. カミーユ・コロ 《オルレアン風景》 / 1845-50年 / 油彩・板 / 26.9×37.3cm
7. オノレ・ド・ミエ 《山中のドン・キホーテ》 / 1850年頃 / 油彩・板 / 39.6×31.2cm
8. ジャン=フランソワ・ミレー 《乳しぼりの女》 / 1854-60年 / 油彩・カンヴァス / 59×72.4cm
9. シャルル=フランソワ・ドービニ 《牧羊場・朝》 / 1860年 / エッチング / 21.7×38cm ※後期のみ展示
10. シャルル=フランソワ・ドービニ 《浅瀬》 / 1865年 / エッチング / 30.5×37.5cm ※後期のみ展示
11. ギュスターヴ・クールベ 《雪の中を駆ける鹿》 / 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 93.5×148.8cm
12. ギュスターヴ・クールベ 《石切り場の雪景色》 / 1870年頃 / 油彩・カンヴァス / 43.0×60.2cm
13. ウジェーヌ・ブーダン 《トルーヴィル近郊の浜》 / 1865年頃 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm
14. エドゥワール・マネ 《オランピア》 / 1867年 / エッチング, アクアチント / 8.8×17.8cm ※後期のみ展示
15. エドゥワール・マネ 《オペラ座の仮装舞踏会》 / 1873年 / 油彩・カンヴァス / 46.6×38.2cm
16. エドゥワール・マネ 《自画像》 / 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm
17. エドゥワール・マネ 《メリー・ローラン》 / 1882年 / パステル・カンヴァス / 41.6×37.1cm ※前期のみ展示
18. エドガー・ドガ 《レオポール・ルヴェールの肖像》 / 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.0×54.0cm
19. エドガー・ドガ 《右足で立ち, 右手を地面にのぼしたアラベスク》 / 1882-95年 / ブロンズ / H.27.5cm

-
20. アルフレッド・シスレー 《森へ行く女たち》 / 1866年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×92.2cm
 21. アルフレッド・シスレー 《サン=マメス六月の朝》 / 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm

Ⅱ. 印象派からポスト印象派(第4室)

22. カミーユ・ピサロ 《ブージュヴァルのセーヌ河》 / 1870年 / 油彩・カンヴァス / 51.4×82.2cm
23. カミーユ・ピサロ 《菜園》 / 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm
24. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》 / 1876年 / 油彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm
25. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《カーニユのテラス》 / 1905年 / 油彩・カンヴァス / 46.3×55.0cm
26. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《水浴の女》 / 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 35.4×27.0cm
27. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《すわる水浴の女》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 55.0×44.2cm
28. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《花のついた帽子の女》 / 1917年 / 油彩・カンヴァス / 40.6×50.2cm
29. クロード・モネ 《アルジャントウイユの洪水》 / 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm
30. クロード・モネ 《アルジャントウイユ》 / 1874年 / 油彩・カンヴァス / 43.0×70.0cm ※3月29日ー7月10日展示
31. クロード・モネ 《雨のペリール》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm ※1月25日ー3月27日展示
32. クロード・モネ 《睡蓮》 / 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm
33. クロード・モネ 《睡蓮の池》 / 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm
34. クロード・モネ 《黄昏、ヴェネツィア》 / 1908年頃 / 油彩・カンヴァス / 73×92.5cm
35. ポール・セザンヌ 《鉢と牛乳入れ》 / 1873-77年頃 / 油彩・カンヴァス / 20.0×18.1cm
36. ポール・セザンヌ 《帽子をかぶった自画像》 / 1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / 61.2×50.1cm
37. ポール・セザンヌ 《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》 / 1904-06年頃 / 油彩・カンヴァス / 66.2×82.1cm
38. ポール・ゴーガン 《馬の頭部のある静物》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス / 49.0×38.5cm
39. ポール・ゴーガン 《ポン=タヴェン付近の風景》 / 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm
40. ポール・ゴーガン 《乾草》 / 1889年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.2cm
41. フィンセント・ファン・ゴッホ 《モンマルトルの風車》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×39.5cm

Ⅲ. 19世紀末から20世紀初頭のさまざまな動き(第5室)

42. オディロン・ルドン 《神秘の語らい》 / 油彩・カンヴァス / 52.1×31.5cm
 43. オディロン・ルドン 《供物》 / 油彩・厚紙 / 33.2×13.7cm
 44. オディロン・ルドン 《裸婦》 / 鉛筆, パステル・紙 / 59.8×68.0cm ※前期のみ展示
 45. オディロン・ルドン 《耳の細胞》 / 1894年 / リトグラフ / 27.0×25.0cm ※前期のみ展示
 46. オディロン・ルドン 《仏陀》 / 1895年 / リトグラフ / 31.7×25.0cm ※前期のみ展示
 47. オディロン・ルドン 《ステファヌ・マラルメの『骰子一擲』のための無題の試刷り》 / 1898年 / リトグラフ / 30.0×24.5cm ※前期のみ展示
 48. オーギュスト・ロダン 《アンリー・ベックの肖像》 / 1883-87年頃 / ドライポイント / 16.0×20.5cm ※前期のみ展示
 49. オーギュスト・ロダン 《アントナン・プルースト》 / エッチング / 11.3×6.5cm ※前期のみ展示
 50. オーギュスト・ロダン 《カミーユ・クロードル》 / 1889年 / ブロンズ / H.24.5cm
 51. ハンス・オルデ 《フリードリヒ・ニーチェ》 / 1900年頃 / エッチング, アクアチント / 16.9×12.5cm ※前期のみ展示
 52. エドヴァルト・ムンク 《病める子》 / 1896年 / エッチング, ドライポイント / 12.7×16.8cm ※後期
-

のみ展示

53. エドヴァルト・ムンク《橋の上の少女たち》 / 1918年 / 木版 / 49.6×42.7cm ※後期のみ展示
54. ポール・シニャック《コンカルノー港》 / 1925年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×53.9cm
55. ポール＝エリー・ランソン《密林の虎》 / 1893年頃 / リトグラフ / 36.7×28.5cm ※前期のみ展示
56. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《ムーラン・ルージュ, ラ・グーリュ》 / 1891年 / リトグラフ / 166.9×123.0cm ※前期のみ展示
57. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《ムーラン・ルージュにて, ラ・グーリュとその姉》 / 1892年 / リトグラフ / 45.7×34.8cm ※後期のみ展示
58. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《『レスタンプ・オリジナル』の表紙》 / 1893年 / リトグラフ / 56.3×64.3cm ※後期のみ展示
59. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《『ドイツのバビロン』》 / 1894年 / リトグラフ / 120.6×83cm ※後期のみ展示
60. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《アンバサドゥールにて》 / 1894年 / リトグラフ / 30.2×24.6cm ※後期のみ展示
61. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《マルセル・ランデ嬢, 胸像》 / 1895年 / リトグラフ / 32.6×24.2cm ※前期のみ展示
62. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《エグランティエヌ嬢一座》 / 1896年 / リトグラフ / 61.6×79.3cm ※前期のみ展示
63. アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック《騎手》 / 1899年 / リトグラフ / 51.6×36.3cm ※後期のみ展示
64. ピエール・ボナール《灯下》 / 1899年 / 油彩・紙 / 42.5×50.4cm
65. ピエール・ボナール《桃》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 36.0×38.1cm
66. ピエール・ボナール《海岸》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 30.1×45.1cm
67. ピエール・ボナール《ヴェルノン付近の風景》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm
68. エミール・ノルデ《馬市の後》 / 1906年 / エッチング / 15.3×19.2cm ※後期のみ展示
69. ペーター・ペーレンス《冬景色》 / 1900年頃 / 木版 / 26.6×21.2cm ※前期のみ展示
70. エドゥワール・ヴュイヤール《鏡の前》 / 1924年頃 / パステル・紙 / 32.9×24.9cm ※後期のみ展示
71. モーリス・ドニ《バッカス祭》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 99.2×139.5cm
72. マックス・ペヒシュタイン《風景》 / 1913年 / エッチング / 32.5×39.5cm ※後期のみ展示

Ⅳ. マティスとフォーヴィスム(第6室)

73. アンリ・マティス《画室の裸婦》 / 1899年 / 油彩・紙 / 66.2×50.5cm
74. アンリ・マティス《コリウール》 / 1905年 / 油彩・厚紙 / 24.5×32.4cm
75. アンリ・マティス《縞ジャケット》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 123.6×68.4cm
76. アンリ・マティス《横たわる裸婦》 / 1919年 / 油彩・カンヴァスボード / 32.9×40.8cm
77. アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》 / 1921年 / 油彩・カンヴァスボード / 45.9×38.2cm
78. アンリ・マティス《樹間の憩い》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 59.0×72.0 / 個人蔵
79. アンリ・マティス《ルー川のほとり》 / 1925年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×47.0cm
80. アンリ・マティス《オダリスク》 / 1926年 / 油彩・カンヴァス / 55.5×46.8cm
81. アンリ・マティス《石膏のある静物》 / 1927年 / 油彩・カンヴァス / 52.0×64.0 / 個人蔵
82. アンリ・マティス《青い胴着の女》 / 1935年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×33.0cm
83. アンリ・マティス《ガラニスの顔》 / 1914年 / エッチング / 14×10cm ※前期のみ展示
84. アンリ・マティス《ソファの踊り子》 / 1927年 / リトグラフ / 29×46.5cm ※後期のみ展示
85. モーリス・ド・ヴラマンク《運河船》 / 1905-06年 / 油彩・カンヴァス / 60.2×73.0cm
86. アンドレ・ドラン《聖母子》 / 1913年頃 / 油彩・板 / 27.0×21.6cm

87. アンドレ・ドラン《自画像》/ 1913年 / 油彩・カンヴァス / 37.2×25.3cm / 個人蔵

V. ピカソ版画集『ヴォラールのための連作』とマティス版画集『ジャズ』（第7室、一部の作品は第8室）

88. パブロ・ピカソ《花冠の裸婦》/ 1930年 / エッチング / 31.4×22.2cm ※前期のみ展示
89. パブロ・ピカソ《三人の裸婦と笛を吹くサテュロス》/ 1932年 / ドライポイント / 29.7×36.7cm
※前期のみ展示
90. パブロ・ピカソ《軽業師たちと馬》/ 1934年 / ドライポイント / 19.8×27.9cm ※前期のみ展示
91. パブロ・ピカソ《牡牛、馬と女》/ 1934年 / エッチング / 29.3×23.8cm ※前期のみ展示
92. パブロ・ピカソ《二人の男、ミノタウロスと鳥の彫刻》/ 1934年 / アクアチント, エッチング /
24.7×34.6cm ※前期のみ展示
93. パブロ・ピカソ《蠟燭の火に照らされた女を見守る少年》/ 1934年 / アクアチント, エッチング /
23.6×29.7cm ※前期のみ展示
94. パブロ・ピカソ《抱擁》/ 1934年 / エッチング, ドライポイント, アクアチント / 19.6×27.6cm
※前期のみ展示
95. パブロ・ピカソ《抱擁》/ 1934年 / ドライポイント / 29.8×36.9cm ※前期のみ展示
96. パブロ・ピカソ《レンブラントの顔とさまざまな習作》/ 1934年 / エッチング / 27.8×19.9cm ※前
期のみ展示
97. パブロ・ピカソ《すわる彫刻家, 横たわるモデル, 男の立像》/ 1933年 / エッチング / 26.6×19.2cm
※前期のみ展示
98. パブロ・ピカソ《モデルを見て制作する彫刻家》/ 1933年 / エッチング, グラトワール / 26.5×
19.1cm ※前期のみ展示
99. パブロ・ピカソ《すわる彫刻家と二つの頭部像》/ 1933年 / エッチング / 26.5×19.1cm ※前期のみ
展示
100. パブロ・ピカソ《裸婦と馬の群像をすわってながめる女》/ 1933年 / エッチング / 29.6×37.1cm
※前期のみ展示
101. パブロ・ピカソ《モデルとシュルレアリスム彫刻》/ 1933年 / エッチング / 26.7×19.1cm ※前期の
み展示
102. パブロ・ピカソ《裸婦の座像, 頭部像, 花瓶》/ 1933年 / エッチング, アクアチント / 26.7×19.1cm
※前期のみ展示
103. パブロ・ピカソ《胸像をながめる三人の仮装した人物》/ 1933年 / ドライポイント / 27.7×18.1cm
※前期のみ展示
104. パブロ・ピカソ《四人のモデルと頭部像》/ 1934年 / エッチング, エングレーヴィング / 22.3×
31.5cm ※前期のみ展示
105. パブロ・ピカソ《娘を襲うミノタウロス》/ 1933年 / エッチング / 19.3×26.9cm ※前期のみ展示
106. パブロ・ピカソ《ミノタウロス, 酒を飲む彫刻家と三人のモデル》/ 1933年 / エッチング / 29.7×
36.7cm ※前期のみ展示
107. パブロ・ピカソ《鳩を持つ少女に導かれる盲目のミノタウロス》/ 1934年 / エッチング / 23.8×
29.8cm ※前期のみ展示
108. アンリ・マティス《I 道化師》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
109. アンリ・マティス《II サーカス》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
110. アンリ・マティス《III ロワイヤル氏》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
111. アンリ・マティス《IV 白象の悪夢》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
112. アンリ・マティス《V 馬, 曲馬師, 道化師》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
113. アンリ・マティス《VI 狼》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
114. アンリ・マティス《VII ハート》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
-

-
115. アンリ・マティス《Ⅷイカロス》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 116. アンリ・マティス《Ⅸフォルム》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 117. アンリ・マティス《Ⅹピエロの葬式》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 118. アンリ・マティス《Ⅺコドマ兄弟》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 119. アンリ・マティス《Ⅻ水槽を泳ぐ女》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 120. アンリ・マティス《Ⅼ剣を呑む人》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 121. アンリ・マティス《Ⅽカウボーイ》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 122. アンリ・マティス《Ⅾナイフ投げ》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 123. アンリ・マティス《Ⅿ運命》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 124. アンリ・マティス《ⅰ礁湖》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 125. アンリ・マティス《ⅱ礁湖》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 126. アンリ・マティス《ⅲ礁湖》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示
 127. アンリ・マティス《ⅳトボガン(橈)》/ 1947年 / ステンシル / 42.5×66.5cm ※後期のみ展示

Ⅵ. ピカソの絵画を中心に(第8室)

128. アンリ・ルソー《イヴリー河岸》/ 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 46.1×55.0cm
129. アンリ・ルソー《牧場》/ 1910年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.3cm
130. パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶, グラス, 新聞紙》/ 1913年 / 油彩, 砂, 新聞紙・カンヴァス / 46.0×38.0cm
131. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.4×65.4cm
132. パブロ・ピカソ《カップとスプーン》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 16.0×27.2cm
133. パブロ・ピカソ《仔羊を連れたボール, 画家の息子, 二歳》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.0×97.0cm / 財団法人ひろしま美術館 ※1月25日-3月27日展示
134. パブロ・ピカソ《女の顔》/ 1923年 / 油彩, 砂・カンヴァス / 46.1×38.1cm
135. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm
136. パブロ・ピカソ《馬》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 19.0×24.0cm / 個人蔵
137. パブロ・ピカソ《茄子》/ 1946年 / 油彩, グワッシュ・紙 / 51.1×66.2cm
138. パブロ・ピカソ《画家とモデル》/ 1963年 / 油彩・カンヴァス / 89.0×115.9cm
139. パブロ・ピカソ《道化師》/ 1905年 / ブロンズ / H.40.6cm
140. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》/ 1924年 / 油彩・板 / 27.7×45.3cm ※3月29日-7月10日

Ⅶ. 具象絵画の冒険(第9室)

141. ジョルジュ・ルオー《芝居の呼び込み》/ 1906年 / 油彩・紙 / 28.1×45.0 / 個人蔵
 142. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》/ 1920-24年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm
 143. ジョルジュ・ルオー《ピエロ》/ 1925年 / 油彩・紙 / 75.2×51.2cm
 144. ジョルジュ・ルオー《赤鼻のクラウン》/ 1925-29年 / 油彩・紙 / 75.0×52.0 / 個人蔵
 145. ジョルジュ・ルオー《裁判所のキリスト》/ 1935年 / 油彩・紙 / 75.0×105.0 / 個人蔵
 146. ジョルジュ・ルオー《エルサレム》/ 1953年 / 油彩・紙 / 70×55cm / 個人蔵
 147. ラウル・デュフィ《オーケストラ》/ 1942年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×81.1cm
 148. ラウル・デュフィ《ボワレの服を着たモデルたち, 1923年の競馬場》/ 1943年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×109.8cm
 149. マリー・ローランサン《二人の少女》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 64.9×54.2cm
 150. マリー・ローランサン《女と犬》/ 1923年頃 / 油彩・カンヴァス / 81.1×65.2cm
 151. モーリス・ユトリロ《サン＝ドニ運河》/ 1906-1908年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm
 152. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》/ 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm
-

-
153. 藤田嗣治《裸婦と猫》/ 1923年 / 油彩・カンヴァス / 54.5×100.0 / 財団法人ひろしま美術館
 154. 藤田嗣治《インク壺の静物》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / 22.0×26.9cm
 155. 藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×100.0 / 石橋美術館
 156. 藤田嗣治《ドルドーニュの家》/ 1940年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×53.3cm
 157. 国吉康雄《夢》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 51.5×76.7cm
 158. 国吉康雄《横たわる女》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 41.3×76.4cm
 159. ゲオルゲ・グロス《プロムナード》/ 1926年 / 油彩・カンヴァス / 100.3×125.7cm
 160. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》/ 1924年 / 油彩・紙 / 49.8×60.6cm

Ⅷ. 抽象絵画とシュルレアリスム(第10室)

161. ピート・モンドリアン《砂丘》/ 1909年 / 油彩, 鉛筆・厚紙 / 29.6×39.1cm
162. パウル・クレー《島》/ 1932年 / 油彩, 砂を混ぜた石膏・板 / 55.8×85.6cm
163. パウル・クレー《ホフマン風物語の情景》/ 1921年 / リトグラフ / 31.7×23cm ※前期のみ展示
164. ハンス・アルプ《コンポジション》/ 木版 / 35.5×33cm ※後期のみ展示
165. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》/ 油彩・カンヴァス / 62.4×49.8cm
166. ジョアン・ミロ《絵画》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 24.1×33.0cm
167. ジャン・フォートリエ《人質の頭部》/ 1945年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 34.2×26.4cm
168. ジャン・フォートリエ《旋回する線》/ 1963年 / 油彩・カンヴァスに貼られた紙 / 59.9×73.1cm
169. ジャン・デュビュッフェ《スカーフを巻くエディット・ボワソナス》/ 1947年 / 油彩・紙 / 48.6×32.3cm
170. ジャン・デュビュッフェ《暴動》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 100.0×80.8cm
171. アルベルト・ジャコメッティ《デイエゴの胸像》/ 1954-55年 / ブロンズ / H.55.0cm
172. ザオ・ウーキー《15. 01. 61》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 54.1×73.4cm
173. ザオ・ウーキー《10. 03. 76》/ 1976年 / 油彩・カンヴァス / 195.0×97.0cm
174. ザオ・ウーキー《07. 06. 85》/ 1985年 / 油彩・カンヴァス / 114.0×195.0cm
175. アントニ・クラヴァエ《王》/ 油彩・カンヴァス / 116.7×72.8cm
176. ピエール・アレシンスキー《田園の一隅》/ 1951年 / 油彩・カンヴァス / 99.5×80.3cm

Ⅸ. 日本の近代絵画(第2室)

177. 浅井忠《グレーの洗濯場》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.5cm
178. 浅井忠《縫物》/ 1902年 / 油彩・カンヴァス / 60.7×45.5cm
179. 黒田清輝《ブレハの少女》/ 1891年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×54.0cm
180. 黒田清輝《柚》/ 油彩・カンヴァス / 80.4×60.5cm
181. 藤島武二《スイス風景》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.6×32.8cm
182. 藤島武二《ルツェルン》/ 1908年 / 油彩・板 / 23.5×32.8cm
183. 藤島武二《黒扇》/ 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 63.7×42.4cm
184. 藤島武二《淡路島遠望》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.9cm
185. 藤島武二《東海旭光》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×90.9cm
186. 岡田三郎助《臥裸婦》/ 1901年 / 油彩・カンヴァス / 45.2×91.6cm
187. 岡田三郎助《婦人像》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 73.3×61.4cm
188. 青木繁《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.4cm
189. 小出檜重《帽子をかぶった自画像》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 126.0×91.3cm
190. 小出檜重《横たわる裸身》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 49.8×72.9cm
191. 中村彝《自画像》/ 1909年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×61.0cm
192. 安井曾太郎《薔薇》/ 1932年 / 油彩・カンヴァス / 63.0×51.9cm ※1月25日-3月27日展示

-
193. 安井曾太郎《F夫人像》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 88.0×66.0cm / 個人蔵 ※1月25日-3月27日展示
194. 安井曾太郎《安倍能成君像》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 66.9×47.0cm ※1月25日-3月27日展示
195. 梅原龍三郎《脱衣婦》/ 1912年 / 油彩・カンヴァス / 60.0×38.6cm ※3月29日-7月10日展示
196. 梅原龍三郎《ノートルダム》/ 1965年 / 油彩, 金泥, 銀泥・金箔押しした羊皮紙 / 42.6×35.0cm ※3月29日-7月10日展示
197. 梅原龍三郎《軽井沢秋景》/ 1972年 / 油彩・カンヴァス / 73.2×116.9cm ※3月29日-7月10日展示
198. 岸田劉生《南瓜を持てる女》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 80.0×60.2cm
199. 岸田劉生《麗子坐像》/ 1920年 / 水彩・紙 / 34.5×47.5cm ※後期のみ展示
200. 岸田劉生《冬瓜図》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.5cm / 個人蔵 ※前期のみ展示
201. 長谷川利行《動物園風景》/ 1937年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.5×52.7cm / 石橋美術館
202. 古賀春江《涯しなき逃避》/ 1930年 / 油彩・カンヴァス / 116.2×90.8cm
203. 古賀春江《感傷の静脈》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 116.7×90.8cm
204. 岡鹿之助《雪の発電所》/ 1956年 / 油彩・カンヴァス / 72.8×90.9cm
205. 岡鹿之助《望楼》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 37.8×45.4cm ※前期のみ展示
206. 佐伯祐三《テラスの広告》/ 1927年 / 油彩・カンヴァス / 54.2×65.4cm
207. 佐伯祐三《ガラージュ》/ 1927-28年 / 油彩・カンヴァス / 60.4×73.9cm
208. 関根正二《子供》/ 1919年 / 油彩・カンヴァス / 60.9×45.7cm
209. 猪熊弦一郎《青い星座》/ 1983年 / 油彩・カンヴァス / 111.0×96.0cm / 石橋美術館
210. 猪熊弦一郎《スペース旅行基地》/ 1986年 / 油彩・カンヴァス / 111.8×96.0cm
211. 鳥海青児《川沿いの家》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 72.5×60.5cm
212. 山口長男《累形》/ 1958年 / 油彩・板 / 90.3×90.7cm / 石橋美術館
213. 脇田和《鳥を飼う人》/ 1958年 / 油彩・カンヴァス / 49.7×60.7cm / 石橋美術館
214. 杉全直《キッコウ》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 227.0×182.0cm / 石橋美術館
215. 野見山暁治《鉱山(やま)から》/ 1984年 / グワッシュ, インク・紙 / 57.2×50.3cm / 石橋美術館 ※後期のみ展示
216. 野見山暁治《風の便り》/ 1997年 / 油彩・カンヴァス / 112.3×145.8cm / 石橋美術館 ※後期のみ展示

*所蔵表記のない作品はすべてブリヂストン美術館蔵。

広報記録:

新聞・雑誌:

「Prime location puts museum on the map」『Japan Times』2005年1月25日

「今週の一点 帽子をかぶった自画像」『毎日新聞』2005年6月1日夕刊

「印象派と20世紀の巨匠たち展」『新美術新聞』2005年6月11日

「近代美術の発展に寄与した巨匠たちの豊かな個性と魅力に触れる」『一枚の繪』第405号, 2005年5月号, p.102

「巨大都市の隔絶された空間印象派の名画に悦楽のひとつとき」『日経おとなのOFF』通巻45号, 2005年6月号, p. 42-45

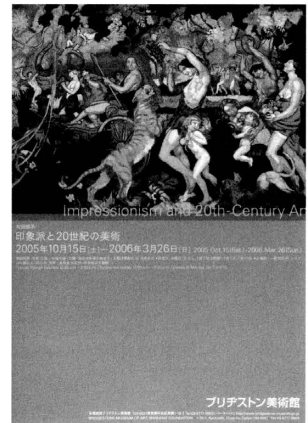
「心で見たい一枚の絵カンバスに焼き付けた少女の一瞬の輝き」『月刊茶の間』第26巻7号(通巻301号), 2005年7月号, p.118-121

印象派と20世紀の美術

2005年10月15日(土)－2006年3月26日(日)

会場：エントランス，階段，彫刻ギャラリーⅠ，Ⅱ，第1室－第10室

出品内容：全館の展示施設を用いた所蔵作品の展示および安井曾太郎没後
50年コーナー展示。絵画132点，彫刻35点，陶器13点 計180
点



展覧会チラシ

出品目録：

[エントランス]

1. クリスチャン・ダニエル・ラウホ《勝利の女神》 / 大理石 / H.231.0cm
2. バーバラ・ヘップワース《翼のある人物Ⅰ》 / 1957年 / 真鍮，鉄線 / H.145.5cm

[階段]

3. アリスティド・マイヨール《欲望》 / 1905-08年 / ブロンズ / 119.5×114.4cm

[彫刻ギャラリーⅠ]

4. コンスタンティン・ブランクーシ《接吻》 / 1907-10年 / 石膏 / H.28.0cm ※10/15－11/6展示
5. アレキサンダー・アーキベンコ《ゴンドラの船頭》 / 1914年 / ブロンズ / H.83.0cm
6. オシップ・ザツキン《三美神》 / 1950年 / ブロンズ / H.76.7cm
7. オシップ・ザツキン《ポモナ(トルソ)》 / 1951年 / 黒檀 / H.131.0cm
8. ヘンリー・ムア《横たわる人体》 / 1976年 / ブロンズ / H.39.8cm
9. マリノ・マリーニ《騎手》 / 1952年 / ブロンズ / H.58.0cm
10. マリノ・マリーニ《騎手のための構想》 / 1955年 / ブロンズ / H.55.8cm

[彫刻ギャラリーⅡ]

11. オーギュスト・ロダン《立てるフォーネス》 / 1884年頃 / 大理石 / H. 71.0cm
12. オーギュスト・ロダン《考える人》 / 铸造1902年頃(原型1880年) / ブロンズ / H.37.7cm
13. オーギュスト・ロダン《青銅時代》 / 铸造1904年(原型1876-77年) / ブロンズ / H.63.5cm
14. エミール=アントワーヌ・ブルデル《風の中のベートーヴェン》 / 1904-08年 / ブロンズ /
H. 124.8cm
15. エミール=アントワーヌ・ブルデル《弓をひくヘラクレス》 / 1909年 / ブロンズ / H.78.5cm
16. エミール=アントワーヌ・ブルデル《ペネロープ》 / 1909年 / ブロンズ / H.118.1cm

[第3室] 古代コレクション

17. 《女の胸像》 / メソポタミア / 紀元前24世紀 / 閃緑岩 / H.55.0cm
18. 《セクメト神像》 / エジプト / 紀元前14世紀 / 黒花崗岩 / H.177.0cm
19. レリーフ断片《柘榴と葡萄》 / エジプト / アマルナ時代(紀元前1360年頃) / 石灰石 / 22.5×36.0cm
20. レリーフ断片《アヌビス神礼拝図》 / エジプト / 紀元前13世紀 / 砂岩 / 66.0×58.0cm
21. レリーフ断片《神牛》 / エジプト / 紀元前1300-1200年 / 石 / 29.0×30.2cm
22. 《彩色木棺》 / エジプト / 紀元前13世紀 / 木 / 110.0×43.0cm
23. レリーフ断片《ホルス神》 / エジプト / 紀元前1000-350年 / 大理石 / 26.0×28.0cm
24. 《聖猫》 / エジプト / 紀元前950-660年 / ブロンズ / H.48.2cm
25. 《獅子頭部》 / ギリシア / 紀元前5世紀 / 大理石 / H.42.0cm
26. 《哲人の顔》 / ギリシア / 紀元前4世紀 / 大理石 / H.29.4cm
27. 《ヴィーナス》 / ギリシア / ヘレニズム期(紀元前3世紀-紀元前1世紀) / 大理石 / H.139.0cm
28. 《アテナ頭部》 / ギリシア / グレコ=ローマン様式 / 大理石 / H.37.0cm
29. コリントス式球形アリュパロス《鷺と鶏》 / 紀元前610-590年 / H.10.8cm
30. アッティカ黒像式頸部アンフォラ《ヘラクレスとケルベロス》 / 紀元前520-510年 / H.35.2cm
31. アッティカ黒像式オイノコエ《ディオニュソスとマイナス》 / 紀元前500年頃 / H.23.0cm
32. アッティカ黒像式レキュトス《ディオニュソス, サテュロスとマイナス》 / 紀元前490-480年 / H.15.0cm
33. アッティカ黒像式レキュトス《ディオニュソスとアリアドネ》 / 紀元前490-480年 / H.19.2cm
34. アッティカ黒像式レキュトス《ディオニュソスとマイナス》 / 紀元前490-480年 / H.19.2cm
35. アッティカ赤像式キュリクス《サテュロス》 / 紀元前5世紀中頃 / H.7.3cm
36. アッティカ白地レキュトス《墓参図》 / 紀元前425-400年頃 / H.29.7cm
37. アッティカ赤像式レベス・ガミコス《ニケと女性》 / 紀元前400-375年頃 / H.16.5cm
38. カンパニア赤像式魚文皿 / 紀元前375-350年頃 / H.6.0cm
39. カンパニア赤像式ヒュドリヤ《ディオスクーロイ》 / 紀元前350年頃 / H.32.5cm
40. アッティカ赤像式ヒュドリヤ《エロス》 / 紀元前350-325年頃 / H.23.5cm
41. アプリア赤像式柱形把手クラテル《男女図》 / 紀元前330年頃 / H.44.5cm
42. 建築装飾フリーズ部分《泉水に向かう二頭の馬》 / エトルリア / 紀元前550-540年 / 彩色テラコッタ / 48.5×50.7cm
43. 《ヴィーナスの頭部》 / ローマ / 大理石 / H.29.0cm
44. 壁画断片《ディオニソス図》 / ヘルクラネウム / 1世紀 / フレスコ / 20.5×54.5cm
45. モザイク断片《牧神頭部》 / ローマ(オスティア) / 1世紀 / 47.0×43.5cm
46. 《人物像》 / シリア1-2世紀 / 石灰石 / H.55.3cm

[第1室] 西洋絵画の伝統と近代芸術のめざめ

47. レンブラント・ファン・レイン《聖書あるいは物語に取材した夜の情景》 / 1626-28年 / 油彩・銅板 / 22.1×17.1cm
 48. アントニー・ヤンスゾーン・ファン・デル・クロース《レイスウェイク城》 / 油彩・板 / 59.4×89.2cm
 49. グレゴリオ・ラッザリーニ《黄金の子牛の礼拝》 / 1700-07頃 / 油彩・カンヴァス / 91.2×148.4cm
 50. ジャン=バティスト・パテル《水浴》 / 油彩・カンヴァス / 56.7×65.5cm
 51. トマス・ゲインズバラ《婦人像》 / 油彩・カンヴァス / 77.7×64.1cm
 52. ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル《若い女の頭部》 / 油彩・カンヴァス / 40.8×32.3cm
 53. カミーユ・コロー《イタリアの女》 / 1826-28年 / 油彩・カンヴァス / 33.4×21.3cm
 54. カミーユ・コロー《ヴィル・ダヴレー》 / 1835-40年 / 油彩・カンヴァス / 51.1×46.6cm
-

-
55. カミーユ・コロー 《オンフルールのトゥータン農場》 / 1845年頃 / 油彩・カンヴァス / 44.4×63.8cm
 56. カミーユ・コロー 《森の中の若い女》 / 1865年 / 油彩・板 / 54.7×38.9cm
 57. ジャン=フランソワ・ミレー 《乳しぼりの女》 / 1854-60年 / 油彩・カンヴァス / 59.0×72.4cm
 58. シャルル=フランソワ・ドービニー 《レ・サーブル=ドロンス》 / 油彩・板 / 39.1×67.1cm
 59. ギュスターヴ・クールベ 《雪の中を駆ける鹿》 / 1856-57年頃 / 油彩・カンヴァス / 93.5×148.8cm
 60. ギュスターヴ・クールベ 《石切り場の雪景色》 / 1870年頃 / 油彩・カンヴァス / 43.0×60.2cm

[第4室] 印象派の時代

61. ウジェーヌ・ブーダン 《トルーヴィル近郊の浜》 / 1865年 / 油彩・板 / 35.7×57.7cm
62. カミーユ・ピサロ 《ブーヅヴァルのセヌ河》 / 1870年 / 油彩・カンヴァス / 51.4×82.2cm
63. カミーユ・ピサロ 《菜園》 / 1878年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×45.9cm
64. エドゥワール・マネ 《オペラ座の仮装舞踏会》 / 1873年 / 油彩・カンヴァス / 46.7×38.2cm
65. エドゥワール・マネ 《自画像》 / 1878-79年 / 油彩・カンヴァス / 95.4×63.4cm
66. エドガー・ドガ 《レオポール・ルヴェールの肖像》 / 1874年頃 / 油彩・カンヴァス / 65.0×54.0cm
67. エドガー・ドガ 《右足で立ち、右手を地面にのばしたアラベスク》 / 1882-95年 / ブロンズ /
H.27.5cm
68. アルフレッド・シスレー 《森へ行く女たち》 / 1866年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×92.2cm
69. アルフレッド・シスレー 《サン=メヌス六月の朝》 / 1884年 / 油彩・カンヴァス / 54.6×73.4cm
70. クロード・モネ 《アルジャントゥイユの洪水》 / 1872-73年 / 油彩・カンヴァス / 54.4×73.3cm
71. クロード・モネ 《アルジャントゥイユ》 / 1874年 / 油彩・カンヴァス / 43.0×70.0cm
72. クロード・モネ 《雨のベリール》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm
73. クロード・モネ 《睡蓮》 / 1903年 / 油彩・カンヴァス / 81.5×100.5cm
74. クロード・モネ 《睡蓮の池》 / 1907年 / 油彩・カンヴァス / 100.6×73.5cm
75. クロード・モネ 《黄昏、ヴェネツィア》 / 1908年 / 油彩・カンヴァス / 73.0×92.5cm
76. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》 / 1876年 / 油
彩・カンヴァス / 97.8×70.8cm
77. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《カーニユのテラス》 / 1905年 / 油彩・カンヴァス / 46.3×
55.0cm
78. ピエール=オーギュスト・ルノワール 《水浴の女》 / 1907年頃 / 油彩・カンヴァス / 35.4×27.0cm

[第5室] 印象派以後

79. アドルフ・モンティセリ 《庭園の貴婦人》 / 1870-80年 / 油彩・板 / 42.2×55.9cm
 80. ポール・セザンヌ 《鉢と牛乳入れ》 / 1873-77年頃 / 油彩・カンヴァス / 20.0×18.1cm
 81. ポール・セザンヌ 《帽子をかぶった自画像》 / 1890-94年頃 / 油彩・カンヴァス / 61.2×50.1cm
 82. ポール・セザンヌ 《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》 / 1904-06年頃 / 油彩・カン
ヴァス / 66.2×82.1cm
 83. ポール・ゴーガン 《ポン=タヴェン付近の風景》 / 1888年 / 油彩・カンヴァス / 72.9×92.2cm
 84. ポール・ゴーガン 《乾草》 / 1889年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.2cm
 85. フィンセント・ファン・ゴッホ 《モンマルトルの風車》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス / 48.2×39.5cm
 86. ピエール・ボナール 《灯下》 / 1899年 / 油彩・紙 / 42.5×50.4cm
 87. ピエール・ボナール 《海岸》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 30.1×45.1cm
 88. ピエール・ボナール 《桃》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 36.0×38.1cm
 89. ピエール・ボナール 《ヴェルノン付近の風景》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 63.4×62.4cm
 90. モーリス・ドニ 《バッカス祭》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 99.2×139.5cm
-

[第6室] マティスとフォーヴィスム

91. オーギュスト・ロダン《カミーユ・クローデル》 / 1889年 / ブロンズ / H.24.5cm
92. アンリ・マティス《静物》 / 1903年 / 油彩・カンヴァス / 7.0×9.0cm / 個人蔵
93. アンリ・マティス《コリウール》 / 1905年 / 油彩・厚紙 / 24.5×32.4cm
94. アンリ・マティス《縞ジャケット》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 123.6×68.4cm
95. アンリ・マティス《横たわる裸婦》 / 1919年 / 油彩・カンヴァスボード / 32.9×40.8cm
96. アンリ・マティス《両腕をあげたオダリスク》 / 1921年 / 油彩・カンヴァスボード / 45.9×38.2cm
97. アンリ・マティス《樹間の憩い》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 59.0×72.0cm / 個人蔵
98. アンリ・マティス《ルー川のほとり》 / 1925年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×47.0cm
99. アンリ・マティス《オダリスク》 / 1926年 / 油彩・カンヴァス / 55.5×46.8cm
100. アンリ・マティス《石膏のある静物》 / 1927年 / 油彩・カンヴァス / 52.0×64.0cm / 個人蔵
101. アンリ・マティス《青い胴着の女》 / 1935年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×33.0cm
102. モーリス・ド・ヴラマンク《運河船》 / 1905-06年 / 油彩・カンヴァス / 60.2×73.0cm
103. アンドレ・ドラン《自画像》 / 1913年 / 油彩・カンヴァス / 37.2×25.3cm / 個人蔵

[第7室] 19世紀末から20世紀初頭のさまざまな動き I

104. ジョルジュ・ルオー《芝居の呼び込み》 / 1906年 / 油彩・紙 / 28.1×45.0cm / 個人蔵
105. ジョルジュ・ルオー《郊外のキリスト》 / 1920-24年 / 油彩・紙 / 92.0×73.6cm
106. ジョルジュ・ルオー《赤鼻のクラウン》 / 1925-29年 / 油彩・紙 / 個人蔵
107. ジョルジュ・ルオー《裁判所のキリスト》 / 1935年 / 油彩・紙 / 75.0×105.0cm / 個人蔵
108. モーリス・ユトリロ《サン＝ドニ運河》 / 1906-19年 / 油彩・紙 / 53.4×74.5cm
109. アメデオ・モディリアーニ《若い農夫》 / 1918年頃 / 油彩・カンヴァス / 73.4×50.3cm
110. カイム・スーティン《大きな樹のある南仏風景》 / 1924年 / 油彩・紙 / 49.8×60.6cm

[第8室] 19世紀末から20世紀初頭のさまざまな動き II

111. アンリ・ルソー《牧場》 / 1910年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×55.3cm
112. ラウル・デュフィ《静物》 / 1915-20年頃 / 油彩・カンヴァス / 38.2×45.9cm
113. ラウル・デュフィ《オーケストラ》 / 1942年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×81.1cm
114. ラウル・デュフィ《ボワレの服を着たモデルたち》 / 1943年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×109.8cm
115. パブロ・ピカソ《道化師》 / 1905年 / ブロンズ / H.40.6cm
116. パブロ・ピカソ《ブルゴーニュのマール瓶》 / 1913年 / 油彩, 砂, 新聞・カンヴァス / 46.3×38.4cm
117. パブロ・ピカソ《生木と枯木のある風景》 / 1919年 / 油彩・カンヴァス / 49.4×65.4cm
118. パブロ・ピカソ《カップとスプーン》 / 1922年 / 油彩・カンヴァス / 16.0×27.2cm
119. パブロ・ピカソ《女の顔》 / 1923年 / 油彩, 砂・カンヴァス / 46.1×38.1cm
120. パブロ・ピカソ《腕を組んですわるサルタンバンク》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 130.8×98.0cm
121. パブロ・ピカソ《馬》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 19.0×24.0cm / 個人蔵
122. パブロ・ピカソ《茄子》 / 1946年 / 油彩, グワッシュ, コラージュ・紙 / 51.1×66.2cm
123. ジョルジュ・ブラック《梨と桃》 / 1924年 / 油彩・板 / 27.7×45.3cm
124. マリー・ローランサン《女と犬》 / 1923年頃 / 油彩・カンヴァス / 81.1×65.2cm

[第9室] 抽象絵画を中心に

125. ピート・モンドリアン《砂丘》 / 1909年 / 油彩, 鉛筆・厚紙 / 29.6×39.1cm
 126. パウル・クレー《鳥》 / 1932年 / 油彩, 砂を混ぜた石膏・板 / 55.2×85.2cm
 127. ジョルジョ・デ・キリコ《吟遊詩人》 / 油彩・カンヴァス / 62.4×49.8cm
 128. ジョージ・グロス《プロムナード》 / 1926年 / 油彩・カンヴァス / 100.3×125.7cm
-

-
129. ジョアン・ミロ《絵画》 / 1927年 / 油彩・カンヴァス / 24.1×33.0cm
 130. ジャン・フォートリエ《人質の頭部》 / 1945年 / 油彩・紙 / 34.2×26.4cm
 131. ジャン・フォートリエ《旋回する線》 / 1963年 / 油彩・紙 / 59.9×73.1cm
 132. ジャン・デュビュッフエ《スカーフを巻くエディット・ボワソナス》 / 1947年 / 油彩・紙 / 48.6×32.3cm
 133. ジャン・デュビュッフエ《暴動》 / 1961年 / 油彩・カンヴァス / 100.0×80.8cm
 134. アルベルト・ジャコメッティ《ディエゴの胸像》 / 1954-55年 / ブロンズ / H.55.0cm
 135. ザオ・ウーキー《15.01.61》 / 1961年 / 油彩・カンヴァス / 54.1×73.4cm
 136. ザオ・ウーキー《10.06.75》 / 1975年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×81.0cm
 137. ザオ・ウーキー《10.03.76》 / 1976年 / 油彩・カンヴァス / 195.1×97.1cm
 138. ザオ・ウーキー《07.06.85》 / 1985年 / 油彩・カンヴァス / 114.8×195.2cm
 139. ザオ・ウーキー《21.Sep.50》 / 1950年 / 油彩・カンヴァスボード / 37.8×46.0cm(追加出品)
 140. ピエール・アレシンスキー《田園の一隅》 / 1951年 / 油彩・カンヴァス / 99.5×80.3cm

[第10室] 日本の近代絵画 I

141. 浅井忠《グレーの洗濯場》 / 1901年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.5cm
142. 黒田清輝《ブレハの少女》 / 1891年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×54.0cm
143. 黒田清輝《柚》 / 油彩・カンヴァス / 80.4×60.5cm
144. 藤島武二《黒扇》 / 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 63.7×42.4cm
145. 藤島武二《糸杉(ヴィラ・ファルコニエリ)》 / 1908-09年 / 油彩・カンヴァス / 39.5×36.6cm
146. 藤島武二《ローマの遺跡》 / 1908-09年 / 油彩・板 / 35.1×26.2cm
147. 藤島武二《半裸婦人像》 / 1908-09年 / 油彩・紙 / 30.5×28.5cm
148. 岡田三郎助《臥裸婦》 / 1901年 / 油彩・カンヴァス / 45.2×91.9cm
149. 青木繁《海景(布良の海)》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.6×73.0cm
150. 青木繁《天平時代》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm
151. 川上涼花《麦秋》 / 1919年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×45.5cm
152. 中村彝《自画像》 / 1909年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×61.0cm
153. 岸田劉生《街道(銀座風景)》 / 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.5×45.9cm
154. 岸田劉生《南瓜を持てる女》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 80.0×60.2cm

[第2室] 日本の近代絵画 II

155. 藤島武二《淡路島遠望》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×72.9cm
 156. 藤島武二《東海旭光》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 65.2×90.9cm
 157. 藤田嗣治《猫のいる静物》 / 1939-40年 / 油彩・カンヴァス / 80.6×99.9cm
 158. 藤田嗣治《ドルドーニュの家》 / 1940年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×53.3cm
 159. 小出樞重《帽子をかぶった自画像》 / 1924年 / 油彩・カンヴァス / 126.0×91.3cm
 160. 小出樞重《横たわる裸身》 / 1930年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×72.9cm
 161. 安井曾太郎《風景》 / 1911年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×46.0cm
 162. 安井曾太郎《水車小屋》 / 1911年頃 / 油彩・カンヴァス / 38.0×46.5cm / 石橋美術館
 163. 安井曾太郎《水浴裸婦》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 128.0×193.0cm / 石橋美術館
 164. 安井曾太郎《薔薇》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 63.0×51.9cm
 165. 安井曾太郎《玉蟲先生像》 / 1934年 / 油彩・カンヴァス / 47.5×39.0cm / 石橋美術館
 166. 安井曾太郎《F夫人像》 / 1939年 / 油彩・カンヴァス / 88.0×66.0cm / 個人蔵
 167. 安井曾太郎《りんご》 / 1942年頃 / 油彩・カンヴァス / 31.0×51.5cm / 石橋美術館
 168. 安井曾太郎《桜》 / 1946年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×55.0cm
-

-
169. 安井曾太郎《レモンとメロン》 / 1955年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×37.9cm / 石橋美術館
 170. 安井曾太郎《安倍能成君像》 / 1955年 / 油彩・カンヴァス / 66.9×47.0cm
 171. 梅原龍三郎《脱衣婦》 / 1912年 / 油彩・カンヴァス / 60.0×38.6cm
 172. 梅原龍三郎《ノートルダム》 / 1965年 / 油彩, 金泥, 銀泥・金箔押しした羊皮紙 / 42.6×35.0cm
 173. 古賀春江《涯しなき逃避》 / 1930年 / 油彩・カンヴァス / 116.6×91.2cm
 174. 古賀春江《感傷の静脈》 / 1931年 / 油彩・カンヴァス / 116.9×91.4cm
 175. 古賀春江《厳しき伝統》 / 1931年 / 油彩・カンヴァス / 111.2×144.0cm / 石橋美術館
 176. 岡鹿之助《雪の発電所》 / 1956年 / 油彩・カンヴァス / 72.8×90.9cm
 177. 国吉康雄《夢》 / 1922年 / 油彩・カンヴァス / 51.5×76.7cm
 178. 国吉康雄《横たわる女》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 41.3×76.4cm
 179. 佐伯祐三《ガラージュ》 / 1927-28年 / 油彩・カンヴァス / 60.6×73.6cm
 180. 関根正二《子供》 / 1919年 / 油彩・カンヴァス / 60.9×45.7cm

*所蔵表記のない作品は、すべてブリヂストン美術館蔵。

〈特別展〉

琉球の美

2005年8月2日(火) - 9月11日(日)

会場：別館

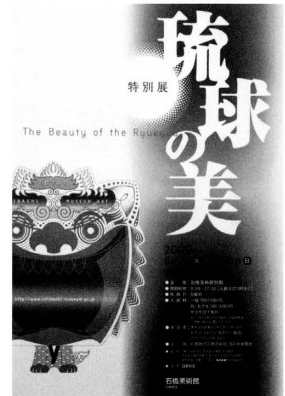
主催：石橋財団石橋美術館 / 西日本新聞社

後援：「織の海道」実行委員会 / 沖縄県 / 久留米市 / 久留米市教育委員会 / 財団法人久留米文化振興会 / 琉球新報 / 沖縄テレビ放送 / NHK 福岡放送局

協力：日本航空

出品内容：染織34件, 陶器16件, 漆器13件, 写真資料1件, 合計64件

入場者総数：7,692人(1日平均220人)



展覧会ポスター

出品目録：

陶器

1. 壺屋焼《焼締白差屋根獅子》 / 一基 / 19世紀 / 陶器 / 高さ33.1cm / 沖縄県立博物館
2. 喜名焼《焼締三耳味噌甕》 / 一口 / 16-17世紀 / 陶器 / 高さ65.0cm / 胴径38.0cm / 沖縄県立博物館
3. 知花焼《焼締黒釉瓶子》 / 一口 / 16-17世紀 / 陶器 / 高さ22.0cm / 胴径13.3cm / 沖縄県立博物館
4. 壺屋焼《荒焼七合徳利》 / 一口 / 18世紀 / 陶器 / 高さ29.7cm / 胴径10.8cm / 沖縄県立博物館
5. 湧田焼《灰釉無地碗》 / 一口 / 17-18世紀 / 陶器 / 高さ6.7cm / 口径13.3cm / 沖縄県立博物館
6. 湧田焼《灰釉鉄絵碗》 / 一口 / 17-18世紀 / 陶器 / 高さ6.1cm / 口径13.2cm / 沖縄県立博物館
7. 湧田焼《仲村渠致元》 / 一枚 / 象嵌色差粟文菊花皿 / 18世紀 / 陶器 / 高さ4.4cm / 径22.8cm / 沖縄県立博物館
8. 壺屋焼《白釉黒流掛からから》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ7.1cm / 胴径12.8cm / 沖縄県立博物館
9. 壺屋焼《褐釉緑釉流掛面取抱瓶》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ11.8cm / 幅17.5cm / 沖縄県立博物館
10. 壺屋焼《釘彫抱瓶》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ11.8cm / 幅19.8cm / 沖縄県立博物館
11. 壺屋焼《象嵌やはた文渡名喜瓶》 / 一口 / 18世紀 / 陶器 / 高さ16.5cm / 胴径8.8cm / 沖縄県立博物館
12. 壺屋焼《琉球三鳥渡名喜瓶》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ20.0cm / 胴径6.1cm / 沖縄県立博物館
13. 壺屋焼《線彫家紋具須差嘉瓶》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ37.5cm / 最大径18.6cm / 沖縄県立博物館
14. 壺屋焼《緑釉嘉瓶》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ34.0cm / 最大径14.5cm / 沖縄県立博物館
15. 壺屋焼《具須絵山水文丁子風炉》 / 一口 / 19世紀 / 陶器 / 高さ26.0cm / 最大径19.5cm / 沖縄県立博物館
16. 壺屋焼《なまこ釉飴釉流掛香炉》 / 一口 / 18世紀 / 陶器 / 高さ15.2cm / 口径10.2cm / 沖縄県立博物館

王家の衣裳

17. 《黄色地鳳凰瑞雲霞文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 絹 / 丈130.0cm / 衿62.0cm / 那覇市 / 重要文化財
18. 《黄色地牡丹尾長鳥流水菖蒲文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 縮緬 / 丈139.0cm / 衿65.0cm / 那覇市 / 重要文化財
19. 《白地霞枝垂桜燕文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 苧麻 / 丈134.0cm / 衿66.0cm / 那覇市 / 重要文化財
20. 《白地鶴霞菖蒲楓桜文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 苧麻 / 丈112.5cm / 衿45.7cm / 那覇市 / 重要文化財
21. 《空色地流水蛇籠鶴菖蒲文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 苧麻 / 丈123.0cm / 衿50.0cm / 那覇市 / 重要文化財
22. 《空色地花籠燕文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 苧麻 / 丈143.0cm / 衿69.0cm / 那覇市 / 重要文化財
23. 《白地竹蝙蝠牡丹文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 縮緬 / 丈99.0cm / 衿48.5cm / 那覇市 / 重要文化財
24. 《白地左三ッ巴紋散桜文衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 木綿 / 丈146.0cm / 衿67.7cm / 那覇市 / 重要文化財
25. 《紺地左三ッ巴紋散文衣裳》 / 一領 / 19世紀 / 苧麻 / 丈138.4cm / 衿67.1cm / 那覇市 / 重要文化財
26. 《黄色地破格子文緋衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 絹 / 丈67.0cm / 衿48.5cm / 那覇市 / 重要文化財
27. 《黄色地枳形文緋衣裳》 / 一領 / 18-19世紀 / 芭蕉 / 丈109.5cm / 衿62.5cm / 那覇市 / 重要文化財

紅型

28. 《白地牡丹唐草幾何学文衣裳》 / 一領 / 木綿 / 丈121.0cm / 衿60.0cm / 沖縄県立博物館
29. 《染分地山並菖蒲菊椿柴垣文衣裳》 / 一領 / 19世紀 / 木綿 / 丈151.0cm / 衿70.5cm / 沖縄県立博物館
30. 《白地葵菊水文衣裳》 / 一領 / 19世紀 / 桐板 / 丈142.0cm / 衿69.0cm / 沖縄県立博物館
31. 《浅地稻妻松窓絵散文衣裳》 / 一領 / 木綿 / 丈133.5cm / 衿62.5cm / 沖縄県立博物館
32. 《紺地鶴亀松竹梅文風呂敷》 / 一枚 / 19世紀 / 苧麻 / 縦77.0cm / 横78.0cm / 沖縄県立博物館
33. 《白地雲鳳凰藤文型紙》 / 一枚 / 19世紀 / 奉書紙 / 縦56.0cm / 横42.3cm / 沖縄県立博物館
34. 《染地桐菊文型紙》 / 一枚 / 1833年 / 奉書紙 / 縦38.0cm / 横42.4cm / 沖縄県立博物館
35. 《白地鉄線花文裂地》 / 一枚 / 19世紀 / 桐板 / 縦19.0cm / 横39.2cm / 沖縄県立博物館
36. 《白地藤牡丹鳳凰文裂地》 / 一枚 / 19世紀 / 苧麻 / 縦134.0cm / 横119.0cm / 沖縄県立博物館
37. 《白地よろけ縞文手巾》 / 一枚 / 麻 / 縦70.5cm / 横34.5cm / 沖縄県立博物館

織物

38. 《紺地読谷山花織衣裳》 / 一領 / 19世紀 / 木綿 / 丈114.0cm / 衿64.0cm / 沖縄県立博物館
 39. 《朱地経縞衣裳》 / 一領 / 18世紀 / 芭蕉 / 丈119.5cm / 衿58.5cm / 沖縄県立博物館
 40. 《浅地緋裂つぎあわせ衣裳》 / 一領 / 18世紀 / 木綿 / 丈95.0cm / 衿57.5cm / 沖縄県立博物館
 41. 《御絵図帳》 / 一冊 / 紙本墨画 / 縦27.7cm / 横39.6cm / 沖縄県立博物館
 42. 《御絵図》 / 二枚 / 紙本著色 / 縦27.5cm / 横39.3cm / 縦37.0cm / 横29.2 / 石垣市立八重山博物館
 43. 《久米島紬裂地帖(上江洲家伝来)》 / 三枚 / 18世紀 / 木綿 / 縦27.5cm / 横33.5cm / 久米島自然文化センター
 44. 《紺地宮古上布衣裳》 / 一領 / 明治-大正時代 / 苧麻 / 丈152.6cm / 衿62.0cm / 沖縄県立博物館
 45. 友利玄純《紺地宮古上布裂地》 / 一枚 / 1975年 / 苧麻 / 縦23.5cm / 横18.2cm / 平良市総合博物館
 46. 平良寛正《紺地宮古上布反物》 / 一反 / 大正時代 / 苧麻 / 幅38.0cm / 平良市総合博物館
 47. 《白地八重山上布衣裳》 / 一領 / 19世紀 / 苧麻 / 丈127.0cm / 衿59.5cm / 沖縄県立博物館
 48. 《八重山蔵元絵師画稿集》 / 三図 / 19世紀後半-20世紀前半 / 紙本墨画 / 縦27.9cm / 横39.3cm / 石垣市立八重山博物館
 49. 《紺地読谷山花織手巾》 / 一枚 / 木綿 / 長さ88.0cm / 幅26.2cm / 沖縄県立博物館
 50. 《白地緋手巾》 / 一枚 / 19世紀後期 / 木綿, 芭蕉 / 長さ23.0cm / 幅23.0cm / 沖縄県立博物館
-

漆器

51. 《緑漆牡丹唐草石畳沈金膳》 / 一枚 / 16-17世紀 / 漆器 / 高さ4.1cm / 幅36.4cm / 奥行36.0cm / 浦添市美術館
52. 《黒漆雲龍螺鈿盆》 / 一枚 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ3.9cm / 径34.2cm / 浦添市美術館
53. 《黒漆花円文螺鈿合子》 / 一合 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ7.7cm / 径41.6cm / 浦添市美術館
54. 《黒漆山水螺鈿印籠》 / 一個 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ8.8cm / 幅4.0cm / 奥行2.4cm / 浦添市美術館
55. 《黒漆菱七宝繫螺鈿伽羅箱》 / 一合 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ10.0cm / 幅10.6cm / 奥行15.2cm / 浦添市美術館
56. 《黒漆葵紋菊螺鈿箱》 / 一合 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ11.3cm / 幅10.3cm / 奥行12.6cm / 浦添市美術館
57. 《黒漆葡萄栗鼠箔絵八角食籠》 / 一重 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ27.0cm / 幅28.0cm / 浦添市美術館
58. 《黒漆吉祥文螺鈿箔絵箱》 / 一合 / 17-18世紀 / 漆器 / 高さ21.6cm / 幅35.5cm / 奥行22.7cm / 浦添市美術館
59. 《白檀塗楼閣山水箔絵湯庫》 / 一個 / 18-19世紀 / 漆器 / 高さ25.3cm / 径24.2cm / 浦添市美術館
60. 《朱漆楼閣山水人物沈金皿》 / 一枚 / 18-19世紀 / 漆器 / 高さ3.8cm / 径22.5cm / 浦添市美術館
61. 《朱漆花鳥螺鈿卓》 / 一基 / 18-19世紀 / 漆器 / 高さ14.0cm / 幅58.5cm / 奥行34.0cm / 浦添市美術館
62. 《潤塗花鳥密陀絵盆》 / 一枚 / 18-19世紀 / 漆器 / 高さ2.6cm / 幅30.3cm / 浦添市美術館
63. 《朱漆楼閣山水人物堆錦台》 / 一基 / 18-19世紀 / 漆器 / 高さ10.3cm / 幅41.8cm / 奥行10.3cm / 浦添市美術館

写真

64. 《鎌倉芳太郎撮影 沖縄の写真》 / 30枚 / 大正-昭和時代初期 / 沖縄県立芸術大学 / 重要文化財

関連事業：

開催記念美術講座 → p.57

ミュージアム・コンサート 「ちゅら歌ー琉球の歌と三線」北憲治と三線仲間

広報記録：

新聞・雑誌：

「石橋美術館『琉球の美』展始まる」『西日本新聞』2005年8月3日

「『琉球の美』60点初公開」『朝日新聞』2005年8月14日

「『琉球の美』染織文化の歴史など紹介」『西日本新聞』2005年8月16日

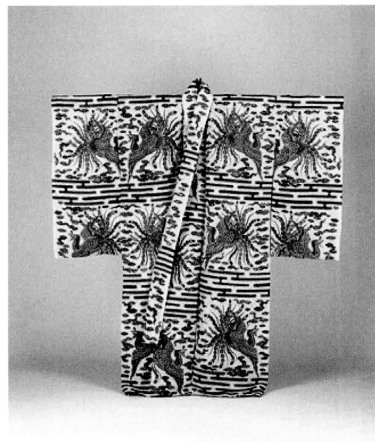
「王朝時代の粋一堂に」『西日本新聞』2005年8月17日

「アプローチ九州文化 琉球紅型と刺し子着『ドンザ』」『日本経済新聞』

2005年8月25日

「色鮮やかな王家伝来の衣装」『西日本新聞』2005年8月27日

「日常使いと王朝 二つの美」『毎日新聞』2005年9月2日



no.17



会場風景



会場風景



先着プレゼントのお面

〈コーナー展示〉

名作ものがたり—青木繁《海の幸》の100年

2005年4月13日(水)－7月10日(日)

会場：石橋美術館本館 第1室－第3室

主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市 / 久留米市教育委員会 / 財団法人久留米文化振興会

出品内容：油彩11点、水彩3点、書簡1点、写真1点、画像パネル33点、
資料9点 計58点

入場者総数：9,479人(1日平均123人)



展覧会チラシ

出品目録：

[1] 記録された画像

[謎の《海の幸》模写]

1. 作者不詳《青木繁「海の幸」模写》 / 1940-50年代 / 油彩・カンヴァス / 70.0×182.0cm / 太田記念美術館

[制作100年を記録する高精細デジタル画像撮影]

2. 《海の幸》カラー画像(原寸大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
3. 《海の幸》反射赤外線画像(原寸大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
4. 《海の幸》透過赤外線画像(原寸大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
5. 《海の幸》カラー画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
6. 《海の幸》反射赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
7. 《海の幸》カラー画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
8. 《海の幸》反射赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
9. 《海の幸》透過赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
10. 《海の幸》カラー画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
11. 《海の幸》反射赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研

究所撮影 / 東京文化財研究所提供

12. 《海の幸》透過赤外線画像(部分) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
13. 《海の幸》額縁裏面画像 / 画像パネル / 2004年石橋美術館撮影
[顕微鏡画像でみる《海の幸》の細部]
14. 《海の幸》左辺部分画像 / 画像パネル / 2004年石橋財団撮影
15. 《海の幸》顕微鏡画像(赤線と黒線の部分) / 画像パネル / 2004年石橋財団撮影
16. 《海の幸》顕微鏡画像(金色の部分) / 画像パネル / 2004年石橋財団撮影

[2] 名作の誕生—《海の幸》と制作地・布良

[1904年青春の記念碑]

17. 《自画像》 / 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm / 石橋美術館
18. 《海の幸》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 70.2×182.0cm / 石橋美術館
19. 《海》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.5×73.0cm / 石橋美術館
20. 《海》 / 1904年 / 油彩・板 / 10.3×14.7cm / 石橋美術館
21. 《海景(布良の海)》 / 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.0×73.0cm / プリヂェストン美術館
22. 青木繁《房州絵入書簡》 / 1904年 / 墨・紙 / 各17.0×47.0cm(4枚) / 個人蔵

[100年前の布良: 福田たねの回想画]

23. 福田たね《女良の思いで》 / 1960年 / 水彩・紙 / 27.7×39.5cm / 栃木県芳賀町教育委員会
24. 福田たね《50年前の布良》 / 1960年 / 水彩・紙 / 25.0×36.3cm / 栃木県芳賀町教育委員会
25. 福田たね《館山の茶屋》 / 1962年 / 水彩・紙 / 27.5×39.5cm / 栃木県芳賀町教育委員会
26. 「福田たね肖像写真」 / 1903年頃 / 栃木県芳賀町教育委員会

[制作の地・布良]

27. 「布良海岸」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
28. 「海の幸ゆかりの地記念碑(1961年12月設置)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
29. 「洲崎灯台」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
30. 「野島崎灯台」 / 写真パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
31. 「布良鼻灯台より望む布良海岸」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
32. 「布良鼻灯台より望む平沙浦」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
33. 「青木繁らが滞在した小谷家」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
34. 「安房神社」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供

[参考作品—西洋近代の海景表現]

35. クロード・モネ《雨のベリール》 / 1886年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×73.7cm / プリヂェストン美術館
36. アルフレッド・シスレー《レディーズ・コーヴ, ウェールズ》 / 1897年 / 油彩・カンヴァス / 54.3×65.3cm / プリヂェストン美術館

[3] 青木繁と《海の幸》イメージの広がり

[青木繁ゆかりの地—茨城県下館市, 栃木県芳賀町]

37. 《大穴牟知命》 / 1905年 / 油彩・カンヴァス / 75.5×127.0cm / 石橋美術館
38. 《わだつみのいろこの宮》 / 1907年 / 油彩・カンヴァス / 180.0×68.3cm / 石橋美術館
39. 「下館市『海の幸』陶板(2003年11月設置)」 / 画像パネル / 2004年石橋美術館撮影
40. 「芳賀町『海の幸』陶板レリーフ(1995年3月設置)」 / 画像パネル / 2004年石橋美術館撮影

[青木繁ゆかりの地—福岡県久留米市]

41. 《月下滞船図》 / 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm / 石橋美術館
42. 「青木繁旧居(2003年復元開館)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
43. 「福岡県立明善高等学校美術部 JR久留米駅前『海の幸』模写(2001年)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
44. 「久留米市立江南中学校美術部 久留米市荘島町『海の幸』模写(2001年)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
45. 「久留米市民会館大ホール緞帳『海の幸』(1969年)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
46. 「けしけし山の青木繁碑(1948年4月除幕)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
47. 「けしけし山より望む筑後平野」 / 画像パネル / 2004年撮影 / 東京文化財研究所提供
48. 「筑邦銀行本店『海の幸』陶板(1989年)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供
49. 「六角堂広場鉄扉『海の幸』(2003年)」 / 画像パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供

[資料—「海の幸」デザインの装丁本]

50. 「海の幸」重要文化財指定書 / 1967年
51. 『明星』已歳第3号 / 1905年3月(1980年1月, 臨川書店による復刻版)
52. 『青木繁画集』 / 政教社 / 1913年4月
53. 『世界美術全集 第31巻』 / 平凡社 / 1928年9月
54. 『明治美術名作大展示会図録洋画彫刻工芸』 / 1944年12月
55. 『青木繁』(美術家シリーズ1)ブリヂストン美術館 / 1954年10月
56. 北川晃二『青木繁 その愛と放浪』 / 講談社 / 1973年
57. 松永伍一『青木繁 その愛と放浪』(NHK ブックスカラー版) / 日本放送出版協会 / 1979年
58. 中島美千代『青木繁と画の中の女』 / TBS ブリタニカ / 1998年12月

* 以上の他, 東京文化財研究所撮影 / 《海の幸》カラー画像(部分拡大) / デジタル撮影, 画像形成・出力紙・パネル / 2004年東京文化財研究所撮影 / 東京文化財研究所提供を3点展示した。



展示会場
(右より)《海》, 《海の幸》, 《海景(布良の海)》



展示会場
《海の幸》カラー, 反射赤外線, 透過赤外線の各画像

関連事業：

開催記念美術講座 → p.57

《文化であい塾—美術館へ行こう》

2006年7月2日(土)「青木繁《海の幸》の100年」植野健造

会場：アクロス福岡・文化観光情報ひろば2階セミナー室

広報記録：

新聞・雑誌：

「『海の幸』に赤外線ノメス 久留米石橋美術館 制作100年13日から記念展」『西日本新聞』2005年4月9日
夕刊

「『海の幸』100年展始まる」『西日本新聞』2005年4月14日

「『名作ものがたり 青木繁《海の幸》の100年』 作者の思い、背景読み取って 石橋美術館学芸課長森山
秀子さんが鑑賞アドバイス」『西日本新聞 ほしえっと』2005年4月29日

満島史朗(久留米支局長)「耳納通信 名作ものがたり」『毎日新聞』2005年5月16日(筑後版)

「見に来て！ 名作の謎に迫る」(植野健造、聞き手・池田和正)『読売新聞』2005年6月5日

稲田博一「美術 青木繁《海の幸》の100年 一気に仕上げた名作の魅力」『朝日新聞』2005年6月10日夕刊

渡辺亮一「『海の幸』100年記念展 浮かび上がる青木繁の意図」『毎日新聞』2005年6月24日夕刊

「アート 名作ものがたり 青木繁《海の幸》の100年」『シティ情報ふくおか』第29巻第17号(第643号),
2005年5月2日

テレビ：

「はびはびテレビ」(ギャラリー情報), NHK 佐賀放送局, 2005年4月15日放映

「迷宮美術館」, NHK ハイビジョン, 2005年7月18日放映

水彩の力、素描の力

2005年9月14日(水)－11月13日(日)

会場：石橋美術館本館 第1室－第3室

主催：石橋財団石橋美術館 / 西日本新聞社

後援：久留米市 / 久留米市教育委員会 / 財団法人久留米文化振興会

出品内容：鉛筆、木炭、コンテ、インク、サンギース、墨など20点、パステル3点、グワッシュ、水彩26点、油彩2点 計51点

入場者総数：7,497人(1日平均141人)

水彩の力、素描の力

石橋美術館 2005年9月14(水) 11:13:03



展覧会チラシ

出品目録：

1. 身体の構造

1. ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル《足の習作》 / 鉛筆・紙 / 16.0×19.9cm / 個人蔵
2. ポール・セザンヌ《凭れる裸体》 / 1863-66年頃 / 木炭・紙 / 31.2×40.8cm / プリヂストン美術館
3. 藤島武二《裸婦》 / 1906-07年 / 鉛筆・紙 / 31.0×23.8cm / プリヂストン美術館
4. エドゥワール・マネ《裸婦》 / サンギース・紙 / 47.9×31.1cm / プリヂストン美術館
5. 小出楯重《裸婦素描》 / 1926年 / コンテ・紙 / 51.2×34.5cm / 石橋美術館
6. アレキサンダー・アーキベンコ《倚りかかって立っている裸婦》 / 木炭・紙 / 45.0×31.4cm / プリヂストン美術館
7. アルベルト・ジャコメッティ《アネット》 / ペン・インク・紙 / 48.5×30.1cm / プリヂストン美術館
8. ヘンリー・ムア《プロメテウスの頭部》 / 1950年頃 / 鉛筆、ペン・インク、チョーク、クレヨン、水彩・紙 / 35.0×27.4cm / プリヂストン美術館
9. ヘンリー・ムア《「横たわる人体」のための習作》 / 1949年 / 鉛筆、ワックスクレヨン、クレヨン、水彩・紙、40.1×56.6cm、プリヂストン美術館

2. 運動する身体

10. エドガー・ドガ《踊り子》 / 鉛筆、油彩・紙 / 27.7×21.8cm / プリヂストン美術館
11. エドガー・ドガ《踊りの稽古場にて》 / 1895-98年 / パステル・紙 / 45.9×89.8cm / プリヂストン美術館
12. エドガー・ドガ《浴後》 / 1900年頃 / パステル・紙 / 62.7×68.5cm / プリヂストン美術館
13. オーギュスト・ロダン《裸婦》 / 鉛筆、淡彩・紙 / 17.8×11.5cm / プリヂストン美術館
14. オーギュスト・ロダン《裸婦》 / 鉛筆、淡彩・紙 / 31.0×17.6cm / プリヂストン美術館
15. エミール=アントワーン・ブールデル《踊るイサドラ》 / ペン・インク・紙 / 21.7×14.1cm / プリヂストン美術館
16. エミール=アントワーン・ブールデル《踊るイサドラ》 / ペン・インク・紙 / 22.3×14.2cm / プリヂストン美術館

トン美術館

17. エミール=アントワヌ・ブールデル《踊るイサドラ》/ ペン・インク・紙 / 22.1×13.8cm / プリヂストーン美術館
18. アルベール・マルケ《出発》/ 1912年 / 墨・紙 / 28.8×18.4cm / プリヂストーン美術館
19. 井上三綱《ドン・キホーテ》/ 1954年 / 石膏, 墨・紙 / 54.0×38.0cm / 石橋美術館

3. 女性のイメージ

20. ギュスターヴ・モロー《化粧》/ 1885-90年頃 / グワッシュ, 水彩・紙 / 33.0×19.3cm / プリヂストーン美術館
21. 藤島武二《琉球の女》/ 1936年 / パステル・紙 / 38.3×28.0cm / 石橋美術館
22. エミール・ベルナル《ポン=タヴェンにて》/ 1888年 / 水彩・紙 / 20.1×26.3cm / プリヂストーン美術館
23. 中沢弘光《コロンボ》/ 1922年 / 水彩・紙 / 24.9×35.1cm / 石橋美術館
24. 藤島武二《臥裸婦》/ 1928年頃 / 鉛筆・紙 / 24.1×28.4cm / プリヂストーン美術館
25. アンリ・マティス《リュリュと犬》/ 1931年 / ペン・インク・紙 / 55.4×44.8cm / プリヂストーン美術館

4. 空間のなかの身体

26. ポール・セザンヌ《三人の水浴の女たち》/ 1874-78年頃 / 鉛筆・紙 / 16.2×14.7cm / プリヂストーン美術館
27. ポール・セザンヌ《休息する水浴の男たち》/ 1875-77年頃 / ペン・インク, 水彩・紙 / 13.0×21.7cm / プリヂストーン美術館
28. ポール・セザンヌ《水浴群像》/ 1897-1900年頃 / 鉛筆, 水彩・紙 / 12.6×21.0cm / プリヂストーン美術館
29. アルベルト・ジャコメッティ表:《歩く人》; 裏:《アトリエ風景》/ コンテ・紙 / 51.2×33.4cm / プリヂストーン美術館
30. アルベルト・ジャコメッティ《アトリエ風景》/ 鉛筆・紙 / 44.8×30.0cm / プリヂストーン美術館
31. オシップ・ザツキン《三人の女》/ 1938年 / グワッシュ・紙 / 61.9×45.7cm / プリヂストーン美術館
32. オシップ・ザツキン《三つの冒険》/ 1951年 / グワッシュ・紙 / 65.2×49.7cm / プリヂストーン美術館

5. それぞれの風景

33. 浅井忠《グレーの古橋》/ 1901年 / 水彩・紙 / 28.5×45.0cm / プリヂストーン美術館
34. 浅井忠《グレーの橋》/ 1902年 / 水彩・紙 / 28.4×43.5cm / プリヂストーン美術館
35. ポール・シニャック《ラ・ロシェル》/ 水彩, 鉛筆・紙 / 20.8×27.0cm / プリヂストーン美術館
36. ポール・シニャック《プティ・タンドリー》/ 水彩, コンテ・紙 / 26.7×39.4cm / プリヂストーン美術館
37. 古賀春江《地藏尊》/ 1919年 / 水彩・紙 / 51.0×34.5cm / 石橋美術館
38. アンドレ・デュノワイエ・ド・スゴンザック《風景》/ 水彩・紙 / 49.9×56.9cm / プリヂストーン美術館
39. 川上涼花《桐と麦》/ 1917年 / 木炭・紙 / 31.8×47.7cm / プリヂストーン美術館
40. 安井曾太郎《焼岳》/ 1941年頃 / 水彩, 鉛筆・紙 / 36.3×28.2cm / プリヂストーン美術館
41. 安井曾太郎《湯河原風景》/ 水彩, 鉛筆・紙 / 26.9×34.8cm / 石橋美術館
42. 安井曾太郎《上高地風景》/ 水彩, 鉛筆・紙 / 28.2×36.3cm / 石橋美術館
43. 安井曾太郎《風景素描》/ 鉛筆・紙 / 22.0×25.0cm / 石橋美術館
44. パウル・クレー《冬》/ 1932年 / 水彩・紙 / 48.0×42.0cm / 個人蔵

-
45. 古賀春江《遊園地》/ 1926年 / 水彩・紙 / 47.1×61.0cm / プリヂストン美術館
 46. 古賀春江《美しき博覧会》/ 1926年 / 水彩・紙 / 38.4×56.5cm / 石橋美術館
 47. ザオ・ウーキー《無題(風景)》/ 1950年 / 水彩, ペン・インク, 鉛筆・紙 / 27.9×25.2cm / プリヂストン美術館
 48. 木村忠太《風景》/ 1971年 / 鉛筆・紙 / 50.2×65.3cm / 石橋美術館
 49. 井上三綱《相》/ 1960年 / 水彩, 油彩・紙 / 39.6×18.5cm / 石橋美術館
 50. ピエール・アレシンスキー《木の根》/ 1954年 / 水彩, ペン・インク・紙 / 31.8×47.9cm / プリヂストン美術館
 51. 猪熊弦一郎《作品》/ 1967年 / 油彩, 鉛筆, コラージュ・紙 / 8.5×12.7cm / プリヂストン美術館

関連事業:

開催記念美術講座 → p.57

広報記録:

新聞・雑誌:

- 「創造の力強さ感じて 14日から『水彩の力』展」『西日本新聞』2005年9月10日
「単純な表現魅力『水彩の力, 素描の力』展開幕」『西日本新聞』2005年9月14日夕刊
「モロー, ドガの作品など51点『水彩の力, 素描の力』展」『西日本新聞』2005年9月15日(筑後版)
「見に来て! 人物の裏側描くよう」(植野健造, 聞き手・白石知子)『読売新聞』2005年9月25日
「筑後路 巨匠の水彩画を身近に」『毎日新聞』2005年10月3日(筑後版)
「『水彩の力, 素描の力』芸術家の感覚伝える51点」『西日本新聞』2005年10月18日夕刊
「水彩・素描魅力たっぷり」『朝日新聞』2005年10月30日(筑後版)
「Event Pick Up」『月刊くるめ』第322号, 2005年9月28日
「TOPICS & IVENTS」『norma jean』第102号, 2005年9月24日
「秋の催し」『月刊みれにあむ 大牟田』第16巻第2号(第143号), 2005年10月1日

テレビ:

「はぴはぴテレビ」(ギャラリー情報), NHK 佐賀放送局, 2005年10月6日放映

絵のなかのふたり—シャガールから鬚嘔まで

2005年11月16日(水)－12月25日(日)

会場：本館第1室－第4室

主催：石橋財団石橋美術館 / 石橋財団ブリヂストン美術館 /
西日本新聞社

後援：久留米市 / 久留米市教育委員会 / 財団法人久留米文化振興会

出品内容：油彩15点，アクリル1点，グワッシュ1点，素描2点，版画55点，
彫刻3点，陶器1点 計78点

入場者総数：6,200人(1日平均177人)

出品目録：「展覧会 ブリヂストン美術館〈コーナー展示〉」の同展の項を
参照。



絵のなかのふたり—シャガールから鬚嘔まで
11/16(水)－12/25(日) TWO BY TWO 11:00-18:00
石橋美術館 久留米市 久留米文化振興会 共催

展覧会ポスター

関連事業：

開催記念美術講座 → p.57

11月19日(土)，12月10日(土)，ギャラリーツアーを開催した(時間は14:00-14:40)。

11月20日(日)，12月18日(日)，第4室でミュージアム・コンサートを開催した
(久留米市主催，時間は15:00-16:00)。

広報記録：

新聞・雑誌：

森山秀子「一見左右対称，でも… 絵のなかのふたりシャガールから鬚嘔まで(上)」『西日本新聞』2005年11月24日(福岡県版)

渡辺亮一「多様な関係が語るドラマ 石橋美術館で『絵のなかのふたり』」『毎日新聞』2005年11月25日夕刊

森山秀子「さまざまな展開を想像 絵のなかのふたりシャガールから鬚嘔まで(下)」『西日本新聞』2005年11月26日(福岡県版)

「春秋」欄『西日本新聞』2005年12月20日

「小学生が石橋美術館見学」『西日本新聞』2005年12月20日(筑後版)

テレビ：

「はぴはぴテレビ」(ギャラリー情報)，NHK 佐賀放送局，2005年12月2日放映



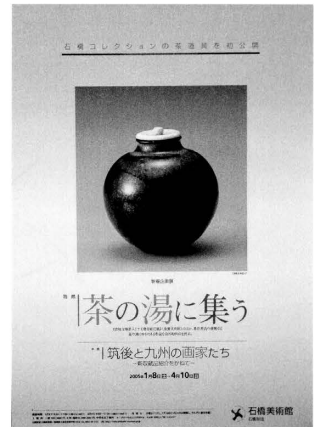
展示会場

〈テーマ展示〉

茶の湯に集う

2005年1月8日(土)－4月10日(日)

会場：別館



展覧会ポスター

出品目録：

「茶の湯に集う」

1. 因陀羅《禅機図断簡 丹霞焼仏図》 / 一幅 / 元時代 14世紀 / 紙本墨画 / 縦35.0cm / 横36.8cm / 国宝
- 2-1. 《伊勢集断簡 石山切(にさへや)》 / 一幅 / 平安時代 12世紀 / 紙本墨書 / 縦20.2cm / 横15.4cm
- 2-2. 《伊勢集断簡 石山切(ももしき)》 / 一幅 / 平安時代 12世紀 / 紙本墨書 / 縦20.4cm / 横15.8cm
- 2-3. 《伊勢集断簡 石山切(みそめすも)》 / 一幅 / 平安時代 12世紀 / 紙本墨書 / 縦20.2cm / 横15.7cm
3. 片桐石州《桜の歌》 / 一幅 / 江戸時代 17世紀 / 紙本墨書 / 縦16.0cm / 横15.0cm
4. 《青磁鉄斑文瓶(飛青磁花瓶)》 / 一口 / 元時代 14世紀 / 磁器 / 高さ27.0cm / 重要文化財
5. 《青磁長頸花生》 / 一口 / 南宋時代 12-13世紀 / 磁器 / 高さ30.6cm
6. 《青磁耳付瓶》 / 一口 / 元時代 14世紀 / 磁器 / 高さ22.0cm
7. 《浜松文釜》 / 一口 / 鉄 / 高さ15.0cm
8. 楽吉左衛門(12代)弘入《赤楽三つ葉蓋置》 / 一口 / 昭和時代 / 陶器 / 高さ4.5cm / 幅5.5cm
9. 《唐子蓋置》 / 一口 / 鑄銅 / 高さ4.5cm / 幅5.0cm
10. 《織部敷瓦》 / 一枚 / 江戸時代 / 陶器 / 幅28.0cm / 奥行28.5cm
11. 《灰匙》 / 五柄 / 銅
12. 《信楽手付水指》 / 一口 / 江戸時代初期 / 陶器
13. 《備前箱桶形水指》 / 一口 / 江戸時代初期 / 陶器
14. 《備前水指》 / 一口 / 近代 / 陶器
15. 北沢楽天《袖下彩鶴七福文水指》 / 一口 / 近代 / 陶器
16. 富本憲吉《色絵花柳文水指》 / 一口 / 近代 / 陶器
17. 《高麗茶碗》 / 一口 / 李朝 15-16世紀 / 陶器 / 高さ6.5cm / 口径15.0cm
18. 《伊羅保茶碗》 / 一口 / 李朝 17世紀 / 陶器 / 高さ8.9cm / 口径15.7cm
19. 楽吉左衛門(9代)了入《黒楽茶碗》 / 一口 / 江戸時代後期 19世紀初 / 陶器 / 高さ8.0cm / 口径12.0cm
20. 千宗左(6代)覚々翁《赤楽雁文茶碗 銘「武蔵野」》 / 一口 / 江戸時代 18世紀初 / 陶器 / 高さ8.5cm / 口径14.0cm

-
21. 《菘茶碗》 / 一口 / 江戸時代 17世紀 / 陶器 / 高さ8.5cm / 口径12.7cm
 22. 《色絵金襴手人物文茶碗》 / 一口 / 江戸時代末期 19世紀 / 陶器 / 高さ9.5cm / 口径12.5cm
 23. 伝 野々村仁清《刷毛目茶碗 銘「雲井」》 / 一口 / 江戸時代 / 陶器 / 高さ8.2cm / 口径14.5cm
 24. 竹内栖鳳(絵付)《色絵栗文茶碗 銘「勝栗」》 / 一口 / 昭和時代初期 / 陶器 / 高さ7.4cm / 口径12.0cm
 25. 《唐物文琳茶入 銘「宝袋」》 / 一口 / 元時代 13世紀後半-14世紀 / 陶器 / 高さ6.2cm
 26. 《瀬戸肩衝茶入》 / 一口 / 江戸時代初期 17世紀初 / 陶器 / 高さ8.3cm
 27. 《薩摩肩衝茶入 銘「松波」》 / 一口 / 江戸時代初期 17世紀初 / 陶器 / 高さ9.1cm
 28. 《高取肩衝茶入》 / 一口 / 江戸時代初期 17世紀初 / 陶器 / 高さ9.0cm
 29. 楽吉左衛門(4代)一入《瓢箪茶入》 / 一口 / 江戸時代 17世紀末 / 陶器 / 高さ6.0cm
 30. 片桐石州《茶杓 銘「松」》 / 一柄 / 江戸時代 17世紀 / 竹 / 長さ16.7cm
 31. 千宗佐(4代)随流齋《茶杓 銘「ろくろく」》 / 一柄 / 江戸時代 17世紀後半 / 竹 / 長さ17.6cm
 32. 真田幸貫《茶杓 銘「星月夜」》 / 一柄 / 江戸時代 19世紀前半 / 竹 / 長さ18.4cm
 33. 《高取四方耳付建水》 / 一口 / 江戸時代後期 / 陶器 / 高さ8.8cm / 口径6.0cm
 34. 《高取建水》 / 一口 / 江戸時代後期 / 陶器 / 高さ7.9cm / 口径13.0cm
 35. 《棒の先建水》 / 一口 / 鑄砂張 / 高さ11.5cm / 口径13.5cm
 36. 青木木米《秋溪渡橋》 / 一幅 / 江戸時代 19世紀初頭 / 紙本墨画淡彩 / 縦24.4cm / 横19.8cm
 37. 木下逸雲(絵付)《染付野菜文煎茶碗》 / 七口 / 天保8年 / 陶器 / 高さ4.3cm / 口径7.0cm
 38. 《唐津刷毛目振出》 / 一口 / 江戸時代初期 17世紀末 / 陶器 / 高さ11.5cm / 径7.5cm
 39. 《瓢箪振出》 / 一口 / 瓢箪 / 高さ12.0cm / 径7.5cm
 40. 《瀬戸柿香合》 / 一口 / 江戸時代後期 / 陶器 / 高さ4.0cm / 幅7.5cm
 41. 《唐草文蒔絵香盆》 / 一合 / 明治時代? / 漆器 / 幅38.0cm / 奥行25.0cm
 42. 《四季草花木地蒔絵銀金具提煙草盆》 / 一合 / 江戸時代 / 漆器 / 高さ21.4cm / 幅30.0cm / 奥行16.0cm
 43. 《金蒔絵硯函》 / 一合 / 江戸時代後期 / 漆器 / 高さ3.7cm / 幅21.6cm / 奥行24.0cm
 44. 植松包美《美の山硯函》 / 一合 / 大正時代-昭和時代初期 / 漆器 / 高さ3.2cm / 幅21.4cm / 奥行24.4cm
 45. 豊臣秀吉《書翰》 / 一幅 / 桃山時代 16世紀 / 紙本墨書 / 縦14.0cm / 横90.0cm
 46. 仙厓《観音図》 / 一幅 / 江戸時代 19世紀初 / 絹本墨画 / 縦42.7cm / 横16.4cm
 47. 仙厓《虎溪三笑》 / 一幅 / 江戸時代 19世紀初 / 紙本墨画 / 縦117.8cm / 横27.6cm
 48. 仙厓《竜図》 / 一幅 / 江戸時代 19世紀初 / 絹本墨画 / 縦92.2cm / 横27.5cm
 49. 仙厓《猫鼠》 / 一幅 / 江戸時代 19世紀初 / 紙本墨画 / 縦35.3cm / 横56.9cm

〔中国の陶磁器〕

50. 《白磁龍耳瓶》 / 一口 / 唐時代 7-8世紀 / 磁器 / 高さ40.5cm
 51. 《白地黒掻落牡丹文花瓶》 / 一口 / 宋時代 11-12世紀 / 磁器 / 高さ21.4cm
 52. 《青白磁面取水注》 / 一口 / 宋時代 11-12世紀 / 磁器 / 高さ24.0cm
 53. 《緑地紅彩宝相華唐草文鳳形瓶》 / 一口 / 明時代 嘉靖年間(1522-1566) / 磁器 / 高さ19.6cm
 54. 《五彩岩花龍鳳文鉢》 / 一口 / 明時代 万暦年間(1573-1619) / 磁器 / 高さ8.7cm / 口径17.8cm
 55. 《青花松竹梅文壺》 / 一口 / 明時代 16世紀 / 磁器 / 高さ15.2cm
 56. 《青花芙蓉手花鳥文小鉢》 / 一口 / 明時代 17世紀前半 / 磁器 / 高さ7.0cm / 口径15.0cm
 57. 《呉須赤絵花鳥文大皿》 / 一口 / 明時代 17世紀初頭 / 磁器 / 径37.6cm
 58. 《辰砂釉耳付花瓶》 / 一口 / 清時代 18世紀 / 磁器 / 高さ29.0cm
 59. 《辰砂釉象耳角形花瓶》 / 一口 / 清時代 18-19世紀 / 磁器 / 高さ27.5cm
-

関連事業：

2月20日(日), 2月27日(日), 3月6日(日), 3月13日(日), ロビーに呈茶席をもうけた。



呈茶席

花と鳥と

2005年4月13日(水)－6月5日(日)

会場：別館



展覧会ポスター

出品目録：

1. 片桐石州《桜の歌》 / 一幅 / 江戸時代 17世紀 / 紙本墨書 / 16.0×15.0cm
2. 藤田嗣治《桜花に蝶》 / 一幅 / 近代 / 紙本墨画淡彩 / 45.2×57.6cm
3. 上村松篁《桜》 / 一面 / 近代 / 紙本金地著色 / 26.5×23.5cm
4. 植松包美《雲錦蒔絵手文庫》 / 一合 / 大正-昭和時代初期 / 漆器 / H.13.8cm, W.21.4cm, D.29.0cm
5. 《破れ網に桜花散らし蒔絵弁当箱》 / 一セット / 近代? / 漆器 / H.17.6cm, W.21.0cm, D.25cm
6. 作者不詳《椿》 / 一面 / 絹本著色 / 22.2×21.4cm
7. 作者不詳《ざくろ》 / 一面 / 絹本著色 / 22.2×21.4cm
8. 円山応挙《牡丹孔雀図屏風》 / 二曲一隻 / 江戸時代 1781年 / 絹本著色 / 136.0×168.8cm
9. 小田海僊《老子花鳥図》のうち花鳥図 / 三幅 / 江戸時代 1832年 / 絹本著色 / 117.4×45.0cm
10. 富田溪仙《梅鶴》 / 一幅 / 近代 / 絹本著色 / 25.8×23.5cm
11. 竹内栖鳳《錦秋図》 / 一幅 / 1926-27年頃 / 絹本著色 / 44.5×50.6cm
12. 森村直稲《吟虫図》 / 一幅 / 近代 / 紙本墨画淡彩 / 33.0×54.8cm
13. 《松竹鶴蒔絵文箱》 / 一合 / 江戸時代 19世紀 / 漆器 / H.10.6cm, W.12.4cm, D.33.2cm
14. 晃祥《桐竹蒔絵重硯函》 / 一合 / 明治時代? / 漆器 / H.9.7cm, W.12.0cm, D.21.2cm
15. 狩野典信《墨松墨梅図屏風》 / 八曲一双 / 江戸時代 18世紀後半 / 紙本金地墨画 / 180.0×544.0cm (各隻)
16. 中村芳中《四季草花図扇面貼交屏風》 / 二曲一双 / 江戸時代 19世紀初頭 / 紙本著色 / 157.2×157.2cm (各隻)
17. 住吉広行《春秋》 / 二幅 / 江戸時代 18世紀後半-19世紀初 / 絹本著色 / 117.4×50.2cm
18. 上村松篁《春日》 / 一面 / 平成8年 / 紙本金地著色 / 85.6×116.0cm
19. 《松皮取秋草蒔絵手文庫》 / 一合 / 江戸時代 17-18世紀 / 漆器 / H.12.5cm, W.19.5cm, D.23.5cm
20. 嵩山《光琳椿蒔絵硯函写し》 / 一合 / 近代 / 漆器 / H.7.5cm, W.21.2cm, D.23.8cm
21. 《籬菊蒔絵硯函》 / 一合 / 江戸時代中期-後期 / 漆器 / H.7.0cm, W.23.2cm, D.25.8cm
22. 植松包美《水鏡蒔絵螺鈿硯函》 / 一合 / 大正-昭和時代初期 / 漆器 / H.4.8cm, W.19.2cm, D.22.2cm

-
23. 《色絵菊流水文皿》 / 一口 / 江戸時代 1660-1670年 / 磁器 / H.5.0cm, D.22.8cm
 24. 《色絵竹梅文竹形水注》 / 一口 / 江戸時代 1670-1690年 / 磁器 / H.15.1cm
 25. 《色絵菊唐草文長皿》 / 一口 / 江戸時代 1690-1740年 / 磁器 / W.31.6cm, D.11.3cm
 26. 《色絵紫陽花唐花文鉢》 / 一口 / 江戸時代 1670-1720年 / 磁器 / H.9.2cm, D.24.2cm
 27. 《白地黒搔落牡丹文花瓶》 / 一口 / 宋時代 11-12世紀 / 磁器 / H.21.4cm
 28. 《青花松竹梅文壺》 / 一口 / 明時代 16世紀 / 磁器 / H.15.2cm
 29. 《五彩果実文壺》 / 一口 / 清時代 17世紀 / 磁器 / H.26.0cm
 30. 《ラスター彩草花文輪花鉢》 / 一口 / イル・ハーン朝 13世紀後半 / 陶器 / H.9.5cm, D.15.3cm
 31. 《青緑釉黒彩花文皿》 / 一口 / 15-16世紀 / 陶器 / H.7.0cm, D.26.5cm
 32. 《青緑釉藍黒彩花文瓶》 / 一口 / セルジューク朝 13世紀 / 陶器 / H.31.4cm, D.18.6cm
 33. 《多彩釉刻線花文台付鉢》 / 一口 / ビザンツ帝国 12-13世紀? / 陶器 / H.9.2cm, D.14.5cm
 34. 《白盛上花鳥文鉢》 / 一口 / イル・ハーン朝 13-14世紀 / 陶器 / H.8.2cm, D.15.9cm
 35. 《白地多彩人物草花文タイル》 / 一枚 / カージャール朝 19世紀 / 陶器 / 26.3×35.1cm
 36. 《白地多彩人物花鳥文タイル》 / 一枚 / カージャール朝 19-20世紀? / 陶器 / 54.0×36.2cm
 37. 《色絵花鳥文瓶》 / 一口 / 江戸時代 1670-1700年 / 磁器 / H.21.5cm

《海の幸》応援団

2005年6月7日(火) - 7月28日(木)

会場：別館



展覧会ポスター

出品目録：

1. 狩野方信《竹林七賢人図屏風》 / 六曲一双 / 江戸時代 18世紀前半 / 紙本墨画 / 154.6×361.4cm(各隻)
2. 富田溪仙《聖人観瀑図》 / 一幅 / 近代 / 絹本著色 / 128.0×27.3cm
3. 円山応挙《竹に狗子波に鴨図襖》 / 四面 / 江戸時代 18世紀後半 / 紙本墨画淡彩 / 169.0×92.8cm(一面)
4. 鈴木其一《富士筑波山図屏風》 / 六曲一双 / 江戸時代 19世紀前半 / 紙本金地著色 / 128.3×274.4cm(各隻)
5. 作者不詳《武蔵野図屏風》 / 六曲一隻 / 江戸時代 17世紀中葉 / 紙本金地著色 / 152.3×355.8cm
6. 今村紫紅《海の幸山の幸屏風》 / 二曲一双 / 1908年 / 絹本金地著色 / 167.9×181.0cm(各隻)
7. 尾形光琳《白楽天図屏風》 / 六曲一隻 / 江戸時代 / 紙本著色 / 154.0×362.0cm / 根津美術館蔵
8. 《伊勢集断簡 石山切》 / 一幅 / 平安時代 12世紀 / 紙本墨書 / 20.2×15.4cm
9. 青木木米《秋溪渡橋》 / 一幅 / 江戸時代 19世紀初頭 / 紙本墨画淡彩 / 24.4×19.8cm
10. 宗達派《保元平治物語絵扇面》 / 六面 / 江戸時代 17世紀 / 紙本著色 / 18.3×55.6cm(一面)
11. 《北野天神縁起絵巻》 / 二巻 / 室町時代 / 紙本著色 / 32.4×912.0cm, 32.4×777.0cm / 根津美術館蔵
12. 上村松篁《春日》 / 一面 / 1996年 / 紙本金地著色 / 85.6×116.0cm

オリエントのガラス

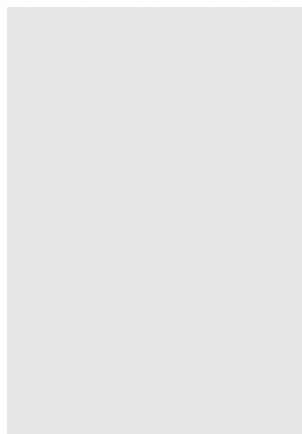
13. 《五角小瓶》 / 一口 / ローマ帝国 3世紀後半-4世紀 / ガラス / H.8.1cm, W.2.4cm
14. 《梨形長頸瓶》 / 一口 / ローマ帝国 1世紀中葉 / ガラス / H.22.4cm, W.14.2cm
15. 《梨形瓶》 / 一口 / ローマ帝国 1世紀後半 / ガラス / H.12.8cm, W.9.4cm
16. 《球形長頸瓶》 / 一口 / ローマ帝国 2世紀中葉-後半 / ガラス / H.19.9cm, W.14.7cm
17. 《突起文瓶》 / 一口 / ローマ帝国 3世紀 / ガラス / H.11.2cm, W.7.3cm
18. 《突起文花碗》 / 一口 / ローマ帝国 3世紀中葉-後半 / ガラス / H.8.6cm, W.11.7cm
19. 《貼付紐文広口瓶》 / 一口 / ローマ帝国 4世紀前半 / ガラス / H.11.3cm, W.8.7cm
20. 《貼付紐文広口瓶》 / 一口 / ローマ帝国 4世紀前半 / ガラス / H.7.8cm, W.7.3cm

-
21. 《円筒形把手付瓶》 / 一口 / ローマ帝国 4世紀初頭-中葉 / ガラス / H.24.8cm, W.10.4cm
 22. 《脚台把手付瓶》 / 一口 / ローマ帝国 4世紀 / ガラス / H.44.3cm, W.17.7cm
 23. 《大皿》 / 一口 / 4世紀 / ガラス / H.5.8cm, D.34.8cm
 24. 《貼付幾何文長杯》 / 一口 / パルティア朝またはサーサーン朝 2-3世紀 / ガラス / H.22.7cm, W.9.5cm
 25. 《円形切子碗》 / 一口 / サーサーン朝 6世紀前半 / ガラス / H.8.8cm, D.11.8cm
 26. 《貼付線文鼓形把手付瓶》 / 一口 / ガズニ朝 10世紀末 / ガラス / H.19.2cm, W.14.1cm

フィルムの中の画家たち I

2005年9月16日(金)－11月13日(日)

会場：別館



展覧会ポスター

出品目録：

1. 川合玉堂《秋郊帰雁》 / 一幅 / 近代 / 紙本墨画淡彩 / 37.2×55.4cm
2. 横山大観《糺の森》 / 一幅 / 秋雨 / 1919年 / 絹本著色 / 50.4×70.6cm
3. 横山大観《旭日青波》 / 一幅 / 近代 / 絹本著色 / 44.6×56.4cm
4. 横山大観《神州第一峰》 / 一幅 / 1930年 / 絹本著色 / 67.8×114.8cm
5. 横山大観《スケッチ》 / 一面 / 1903年 / 紙本墨画 / 34.2×32.6cm
6. 横山大観《スケッチ》 / 一面 / 1903年 / 紙本墨画 / 60.5×26.6cm
7. 川端龍子《木苺(竹夜)》 / 一幅 / 近代 / 紙本墨画淡彩 / 47.4×62.3cm
8. 川端龍子《白梅図》 / 一幅 / 近代 / 紙本金地墨画淡彩 / 23.4×20.4cm
9. 川端龍子《東海旭日》 / 一幅 / 近代 / 絹本著色 / 43.0×51.2cm
10. 堅山南風《双鯉》 / 一幅 / 近代 / 紙本淡彩 / 125.4×33.0cm
11. 堅山南風《鯉》 / 一幅 / 近代 / 絹本淡彩 / 138.2×49.7cm
12. 徳岡神泉《游鯉》 / 一幅 / 近代 / 紙本著色 / 54.1×59.2cm
13. 近藤浩一路《暁月》 / 一幅 / 1930年頃 / 紙本墨画 / 43.6×53.2cm
14. 近藤浩一路《暁港(島原港)》 / 一幅 / 1930年 / 紙本墨画 / 53.8×64.7cm
15. 前田青邨《支那風景》 / 一面 / 昭和時代 / 紙本淡彩 / 28.7×38.4cm
16. 前田青邨《日の出鶴》 / 一幅 / 1965-75年頃 / 紙本著色 / 42.6×54.6cm
17. 前田青邨《獅子図》 / 一面 / 1935年頃 / 紙本金地著色 / 52.8×67.8cm
18. 前田青邨《紅白梅》 / 一面 / 1970年頃 / 紙本著色 / 56.4×77.6cm
19. 前田青邨《風神雷神》 / 一幅 / 1949年頃 / 紙本墨画淡彩 / 205.5×108.2cm
20. 富本憲吉《色絵花柳文水指》 / 一口 / 近代 / 陶器 / H.18.6cm
21. 富本憲吉《色絵四弁花文飾箱》 / 一合 / 近代
22. 板谷波山《氷華磁葡萄文花瓶》 / 一口 / 1927年頃-30年 / 磁器 / H.39.0cm
23. 清水六兵衛(6代)《古稀彩桔梗飾皿》 / 一口 / 昭和50年 / 陶器 / D.41.6cm
24. 清水六兵衛(6代)《锈泐秋月花瓶》 / 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.31.0cm

-
25. 清水六兵衛(6代)《銹泐叢花瓶》/ 一口 / 昭和49年 / 陶器 / H.35.7cm
 26. 清水六兵衛(6代)《古稀彩菌朶花瓶》/ 一口 / 昭和49年 / 陶器 / H.43.0cm
 27. 《映画の上映》

近現代作家の陶磁器

28. 北大路魯山人《金襴手花鳥文鉢》/ 一口 / 1925年 / 磁器 / H.10.0cm, D.23.5cm
29. 河井寛次郎《草花文扁壺》/ 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.22.2cm, W.14.2cm
30. 《色絵水草文花瓶》/ 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.28.5cm
31. 浅野勝《線文鉢》/ 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.20.5cm
32. 添田和信《白釉花入》/ 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.33.0cm
33. 島岡達三《灰被縄文壺》/ 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.44.0cm
34. 朴富元《象嵌魚文大壺》/ 一口 / 昭和時代 / 陶器 / H.62.0cm
35. 柳根滢《青磁辰砂菊花文長頸壺》/ 一口 / 昭和時代 / 磁器 / H.37.5cm
36. 柳根滢《青磁象嵌雲鶴文梅瓶》/ 一口 / 昭和時代 / 磁器 / H.46.5cm

フィルムのなかの画家たちⅡ

2005年11月16日(水)－12月25日(日)

会場：別館

出品目録：

1. 正宗得三郎《富士》 / 油彩・カンヴァス / 27.2×40.2cm
2. 石川寅治《風景》 / 油彩・カンヴァス / 33.2×45.3cm
3. 石川寅治《農事忙》 / 1947年 / 油彩・カンヴァス / 90.8×116.7cm
4. 斎藤与里《秋景》 / 油彩・板 / 21.0×27.1cm
5. 梅原龍三郎《静物(りんごと梨)》 / 1917年 / 油彩・カンヴァス / 20.7×43.9cm
6. 梅原龍三郎《静物(茄子と南瓜)》 / 1951年 / デトランプ・紙 / 20.3×33.6cm
7. 梅原龍三郎《桜島》 / 1935年 / 油彩・紙 / 24.2×27.2cm
8. 梅原龍三郎《軽井沢秋景》 / 1972年 / 油彩・カンヴァス / 73.2×116.9cm / プリヂストン美術館
9. 梅原龍三郎《ナポリよりソレントを望む》 / 1921年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×60.7cm / プリヂストン美術館
10. 石井柏亭《ソレント》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 45.7×55.0cm
11. 石井柏亭《傘松(ナポリ風景)》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 49.6×60.4cm
12. 山下新太郎《ノラ・ファルク嬢》 / 1908年 / 油彩・カンヴァス / 46.0×38.0cm
13. 山下新太郎《読書》 / 1908年 / 油彩・カンヴァス / 100.0×73.1cm / プリヂストン美術館
14. 山下新太郎《供物》 / 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.2×46.1cm / プリヂストン美術館
15. 山下新太郎《金閣寺林泉》 / 1922年 / 油彩・カンヴァス / 55.4×46.0cm
16. 辻永《ハルピンの冬》 / 1917年 / 油彩・カンヴァス / 33.3×45.5cm
17. 辻永《上高地》 / 1940年 / 油彩・カンヴァス / 40.9×53.0cm
18. 辻永《宍道湖の秋》 / 1952年 / 油彩・カンヴァス / 33.2×45.2cm
19. 金山平三《石母田の堤》 / 1952-55年頃 / 油彩・カンヴァス / 40.9×53.0cm
20. 金山平三《港》 / 1945-56年頃 / 油彩・カンヴァス / 33.5×52.9cm
21. 清水多嘉示《衣裳室》 / 1926年 / 油彩・板 / 41.0×32.5cm
22. 中沢弘光《ヴェネツィア》 / 1922年 / 水彩, チョーク・紙 / 24.0×19.8cm
23. 中沢弘光《ミラノ》 / 1922年 / 鉛筆, 水彩・紙 / 24.4×19.8cm
24. 中沢弘光《ローマ》 / 1922年 / 鉛筆, 水彩・紙 / 24.3×19.8cm
25. 中沢弘光《ヴェネツィア》 / 1922年 / 水彩・紙 / 34.8×26.0cm
26. 中沢弘光《ナポリ》 / 1922年 / 水彩・紙 / 25.5×34.7cm
27. 中沢弘光《プリュージュ》 / 1922年 / 水彩・紙 / 24.5×34.2cm
28. 中沢弘光《ピサ》 / 1922年 / 水彩・紙 / 24.3×31.1cm
29. 木村荘八《仲見世(春陽会石版画集)》 / 1956年頃 / 石版・紙 / 35.8×45.5cm
30. 中川一政《魚(春陽会石版画集)》 / 1956年頃 / 石版・紙 / 28.7×28.0cm
31. 和田三造《『昭和職業絵尽』洋楽師》 / 1939-40年 / 木版・紙 / 27.5×37.0cm
32. 和田三造《『昭和職業絵尽』金魚屋》 / 1939-40年 / 木版・紙 / 28.0×37.0cm
33. 和田三造《『昭和職業絵尽』写真班》 / 1939-40年 / 木版・紙 / 27.5×37.0cm
34. 和田三造《『昭和職業絵尽』踏切番》 / 1939-40年 / 木版・紙 / 27.6×36.8cm

-
35. 和田三造《『昭和職業絵尽第二輯』蕎麦の出前もち》 / 1940-41年 / 木版・紙 / 27.5×37.0cm
 36. 和田三造《『昭和職業絵尽第二輯』魚売り》 / 1940-41年 / 木版・紙 / 27.6×37.0cm
 37. 和田三造《『昭和職業絵尽第二輯』ガソリンサービス》 / 1940-41年 / 木版・紙 / 27.5×36.8cm
 38. 和田三造《『昭和職業絵尽第二輯』ダンサー》 / 1940-41年 / 木版・紙 / 27.5×37.0cm
 39. 北村西望《月昇る》 / ブロンズ / H.47.5cm, W.45.0cm
 40. 山本豊市《若い女》 / 1956年 / 乾漆 / H.170.0cm

〈常設展示〉

新春特別展

筑後と九州の画家たち—新収蔵品紹介をかねて

2005年1月8日(土)–4月10日(日)

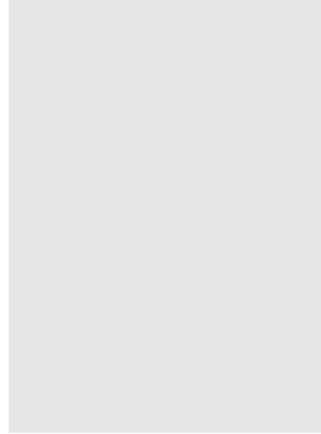
会場：石橋美術館本館

主催：石橋財団石橋美術館

後援：久留米市 / 久留米市教育委員会 / 財団法人久留米文化振興会 /
西日本新聞社

出品内容：油彩，テンペラ99点，素描，墨，水彩13点，彫刻，金工5点，
資料3点 計120点

入場者総数：6,742人（1日平均85人）



展覧会チラシ

出品目録：

筑後の画家たち（エントランス，第1室–第5室）

1. 豊福知徳《半円柱1》/ 1964年 / ブロンズ / H.205.5cm
2. 早川銚太郎《風景》/ 水彩・紙 / 10.4×16.4cm / 2003年受贈
3. 早川銚太郎《戦場の図》/ 油彩・カンヴァス / 42.7×58.3cm / 2003年受贈
4. 森三美《鶏のいる風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 27.9×22.4cm / 寄託
5. 森三美《農夫》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 31.5×22.2cm / 寄託
6. 森三美《海岸風景》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 22.4×31.5cm / 寄託
7. 森三美《筑後風景(肥前田舎風景)》/ 1910年頃 / 油彩・板 / 22.2×31.6cm / 寄託
8. 吉田博《上高地》/ 1927年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.3×60.3cm
9. 吉田博《ウダイプール宮殿》/ 1931年 / 油彩・カンヴァス / 33.0×45.4cm
10. 吉田博《奔流》/ 1936年 / 油彩・カンヴァス / 96.7×130.7cm
11. 坂本繁二郎《夏野》/ 1898年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116cm / ※1/9より展示
12. 坂本繁二郎《霧島風景(左)》/ 1960年 / 油彩・板戸 / 80.8×95.6cm / 寄託
13. 坂本繁二郎《霧島風景(右)》/ 1960年 / 油彩・板戸 / 80.8×95.8cm / 寄託
14. 坂本繁二郎《幽光》/ 1969年 / 油彩・カンヴァス / 31.7×41.0cm / 寄託
15. 松田諦晶《刈跡》/ 1914年 / 油彩・カンヴァス / 52.1×71.2cm / 2002年購入
16. 松田諦晶《自画像》/ 1929年 / 油彩・板 / 32.5×23.8cm
17. 松田諦晶《伯耆大山》/ 1943年 / 油彩・カンヴァス / 41.0×53.0cm
18. 高島野十郎《ベニスの昼》/ 1930-33年頃 / 油彩・カンヴァスボード / 22.7×15.6cm
19. 高島野十郎《筑紫観世音寺》/ 1952年 / 油彩・カンヴァス / 45.6×52.9cm
20. 小松清次《由布湖にかかった橋と由布岳》/ 油彩・カンヴァス / 50.0×60.5cm
21. 古賀春江《筑後川》/ 1914年頃 / 水彩・紙 / 51.4×61.8cm
22. 古賀春江《二階より》/ 1922年 / 油彩・カンヴァス / 61.0×73.5cm / 寄託
23. 古賀春江《誕生》/ 1924年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×116.8cm

-
24. 古賀春江《素朴な月夜》/ 1929年 / 油彩・カンヴァス / 116.5×91.0cm
 25. 山村秀一《船溜り》/ 水彩・紙 / 24.5×33.0cm / 2003年受贈
 26. 山村秀一《さば》/ 1965年 / 水彩・紙 / 57.1×77.5cm / 2003年受贈
 27. 豊田勝秋《春日》/ 1930年 / ブロンズ / 27.0cm
 28. 田崎廣助《風景》/ 油彩・カンヴァス / 50.1×61.0cm
 29. 井上三綱《収穫》/ 1928年 / 油彩・カンヴァス / 69.0×118.0cm
 30. 高田力蔵《アテネのエレクトイオン》/ 1938年 / 油彩・カンヴァス / 80.4×100.0cm
 31. 高田力蔵《パルテノンの午後》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 80.2×99.2cm
 32. 高田力蔵《回想のアクロポリス》/ 1939年 / 油彩・カンヴァス / 80.1×99.8cm
 33. 高田力蔵《ヴィラ・メジチの噴水》/ 1972年 / 油彩・カンヴァス / 40.9×31.8cm
 34. 高田力蔵《ピラミッド広場にて》/ 1981年 / 油彩・カンヴァス / 35.2×27.0cm
 35. 青木繁《車中風景》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙 / 14.4×19.0cm / 2000年購入
 36. 青木繁《神塞妙義》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙(2枚) / 左: 13.9×21.6cm / 右: 13.9×22.6cm / 2003年受贈
 37. 青木繁《碓氷川磧》/ 1902年 / 鉛筆, 淡彩・紙(2枚) / 各14.7×19.2cm / 2003年受贈
 38. 青木繁《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm
 39. 青木繁《閻威弥尼》/ 1903年 / 油彩・板 / 14.7×10.3cm
 40. 青木繁《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 26.8×37.8cm
 41. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・板 / 10.3×14.7cm
 42. 青木繁《海の幸》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 70.2×182.0cm
 43. 青木繁《農家》/ 1904年 / 油彩・板 / 23.3×33.0cm
 44. 青木繁《木立(森の暮色)》/ 1904年 / 油彩・板 / 33.0×23.0cm
 45. 青木繁《海》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 36.5×73.0cm / 2000年購入
 46. 青木繁《光明皇后》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 37.6×71.0cm
 47. 青木繁《大穴牟知命》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 75.5×127.0cm
 48. 青木繁《雪景》/ 1906年 / 油彩・板 / 23.0×32.8cm
 49. 青木繁《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 180.0×68.3cm
 50. 青木繁《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm
 51. 青木繁《晩帰》/ 1908年 / 木炭・紙 / 12.3×18.7cm / 2000年購入
 52. 坂本繁二郎《自画鏡像》/ 1929年 / 油彩・紙 / 45.5×37.5cm
 53. 坂本繁二郎《青木繁歌碑文字図案》/ 1947年 / 墨書・紙本 / 51.3×66.8cm
 54. 井上三綱《殷殷と鐘がなる》/ 1974年 / 油彩, 墨, コラージュ・紙(屏風装) / 102.6×245.4cm
 55. 伊東静尾《解放》/ 1953年 / 油彩・カンヴァス / 162.5×130.3cm
 56. 伊東静尾《激動》/ 1955年 / 油彩・カンヴァス / 181.7×225.5cm
 57. 坂宗一《脱殻》/ 油彩・カンヴァス / 60.5×72.7cm / 2003年受贈
 58. 坂宗一《久住(晩秋)》/ 油彩・カンヴァス / 67.5×72.5cm / 2003年受贈
 59. 坂宗一《舟三艘》/ 墨, 水彩・紙 / 66.2×46.1cm / 2003年受贈
 60. 坂宗一《赤絵皿》/ 墨, 水彩・紙 / 67.7×44.0cm / 2003年受贈
 61. 今里龍生《坂本繁二郎像》/ 1961年 / ブロンズ / 33.0×30.0cm
 62. 内野秀美《ひとり》/ 1960年 / 油彩・カンヴァス / 90.9×72.7cm / 2003年受贈
 63. 内野秀美《羨の花》/ 1980年 / 油彩・カンヴァス / 116.8×91.0cm / 2003年受贈
 64. 豊福知徳《透過する立像(白)》/ 1991年 / 木(マホガニー) / 彩色 / H.216.0cm / 2002年購入
 65. 大村清隆《坂本繁二郎像》/ 1968年 / ブロンズ / H.52.0cm / 寄託
 66. 青木繁《青木鶴代, たよ子宛書簡》/ 1910年11月22日付 / 資料 / 2002年購入
 - 67-1. 青木まさを(青木繁の母)《福田豊吉宛書簡》/ 1911年12月24日消印 / 資料 / 2002年購入
-

-
- 67-2. 《青木繁肖像写真(幸彦を抱いた)》 / 1905年9月撮影 / 資料 / 2002年購入
67-3. 《青木繁肖像写真》 / 1907年頃撮影 / 資料 / 2002年購入
68. 《坂本繁二郎似顔絵カット原画》10点 / 1970年1月西日本新聞掲載 / 資料 / 2003年受贈
1) 青木 寿 『西日本新聞』1970年1月6日掲載
2) 田崎廣助 『西日本新聞』1970年1月7日掲載
3) 下川都一郎 『西日本新聞』1970年1月8日掲載
4) 豊田勝秋 『西日本新聞』1970年1月9日掲載
5) 伊東静尾 『西日本新聞』1970年1月10日掲載
6) 鶴 甫 『西日本新聞』1970年1月12日掲載
7) 富永朝堂 『西日本新聞』1970年1月13日掲載
8) 内野秀美 『西日本新聞』1970年1月14日掲載
9) 伊東静尾 掲載日、掲載記事不明
10) 坂 宗一 『西日本新聞』『西日本新聞』1970年1月4日掲載
69. 坂本繁二郎《魚を持ってきた海女》 / 1913年 / 油彩・カンヴァス / 117.0×80.6cm
70. 坂本繁二郎《牛》 / 1919-1965年 / 油彩・カンヴァス / 60.5×80.3cm / 寄託
71. 坂本繁二郎《牛》 / 1920年 / 油彩・カンヴァス / 71.0×116.5cm
72. 坂本繁二郎《少女》 / 1922年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×32.8cm
73. 坂本繁二郎《読書の女》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 40.8×31.7cm
74. 坂本繁二郎《パリ郊外》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 53.0×65.0cm
75. 坂本繁二郎《帽子を持てる女》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 80.7×65.0cm
76. 坂本繁二郎《老婆》 / 1923年 / 油彩・カンヴァス / 41.0×32.8cm / 寄託
77. 坂本繁二郎《自像》 / 1923-30年 / 油彩・カンヴァス / 52.5×45.0cm
78. 坂本繁二郎《放牧》 / 1930年 / 油彩・カンヴァス / 71.5×116.5cm / 寄託
79. 坂本繁二郎《放牧三馬》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 79.6×99.0cm
80. 坂本繁二郎《柿》 / 1944年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×52.5cm
81. 坂本繁二郎《能面》 / 1954年 / 油彩・カンヴァス / 38.0×45.5cm / 寄託
82. 坂本繁二郎《植木鉢》 / 1959年 / 油彩・カンヴァス / 38.3×45.5cm / 寄託

九州の画家たち(第6室, 第7室)

83. 百武兼行《臥裸婦》 / 1881年頃 / 油彩・カンヴァス / 97.3×188cm
84. 黒田清輝《鉄砲百合》 / 1909年 / 油彩・カンヴァス / 60.3×80.0cm
85. 藤島武二《ヴェルサイユ風景》 / 1906-07年 / 油彩・カンヴァス / 72.7×91.0cm
86. 藤島武二《ネミ湖》 / 1908年 / 油彩・板 / 26.0×34.8cm
87. 藤島武二《噴水のある池》 / 1908-09年 / 油彩・カンヴァスボード / 24.0×32.6cm
88. 藤島武二《五剣山の日の出》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 52.8×72.6cm
89. 藤島武二《屋島よりの遠望》 / 1932年 / 油彩・カンヴァス / 52.9×72.5cm
90. 岡田三郎助《薔薇の少女》 / 1901年 / 油彩・カンヴァス / 119.0×78.8cm
91. 岡田三郎助《髪梳く女》 / 1915年 / 油彩・カンヴァス / 60.3×45.3cm
92. 和田英作《チューリップ》 / 1927年 / 油彩・カンヴァス / 80.3×65.0cm
93. 和田三造《海》 / 油彩・カンヴァス / 106.5×197.5cm
94. 遠山五郎《婦人読書図》 / 1922年 / 油彩・カンヴァス / 80.9×64.7cm
95. 片多徳郎《芙蓉》 / 1924年 / 油彩・カンヴァス / 45.5×37.8cm
96. 児島善三郎《トレド風景》 / 1928年頃 / 油彩・カンヴァス / 50.2×100.0cm
97. 荒井龍男《廃園》 / 水彩・紙 / 38.8×48.4cm
98. 海老原喜之助《青年像》 / 1944年 / 油彩・カンヴァス / 50.0×44.0cm
-

-
99. 佐藤敬《作品》 / 1957年 / 油彩・カンヴァス / 89.1×116.0cm
 100. 宇治山哲平《玖珠の山》 / 1954年 / 油彩・カンヴァス / 45.0×52.7cm / 寄託
 101. 古沢岩美《地の塩》 / 1959年 / 油彩・カンヴァス / 100.0×199.2cm
 102. 野見山暁治《鉦山から》 / 1984年 / グワッシュ、油性黒インク・紙 / 57.2×50.3cm / 2005年受贈
 103. 野見山暁治《風の便り》 / 1997年 / 油彩・カンヴァス / 112.3×145.8cm / 2005年購入
 104. 森通《月のサハラ》 / 油彩・カンヴァス / 97.0×162.0cm
 105. 森通《隊商の道》 / 油彩・カンヴァス / 72.5×90.5cm

日本洋画の流れ(第8室)

106. 中丸精十郎《瀑》 / 1890年 / 油彩・カンヴァス / 107.6×70.2cm
107. 浅井忠《樹下の女》 / 1901年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.8×37.8cm
108. 黒田清輝《針仕事》 / 1890年 / 油彩・カンヴァス / 81.2×65.0cm
109. 藤島武二《天平の面影》 / 1902年 / 油彩・カンヴァス / 197.5×94.0cm
110. 岡田三郎助《水浴の前》 / 1916年 / 油彩・カンヴァス / 197.0×76.2cm
111. 和田英作《読書》 / 1902年 / 油彩・カンヴァス / 73.6×54.0cm
112. 山下新太郎《端午》 / 1915年 / 油彩・カンヴァス / 55.3×46.0cm
113. 小出樞重《裸婦》 / 1925年 / 油彩・カンヴァス / 70.0×46.0cm
114. 安井曾太郎《水浴裸婦》 / 1914年 / 油彩・カンヴァス / 128.0×193.0cm
115. 岸田劉生《麗子像》 / 1922年 / テンペラ・カンヴァス / 41.0×31.9cm
116. 児島善三郎《海芋とキリン草》 / 1954年 / 油彩・カンヴァス / 91.0×72.9cm
117. 古賀春江《鳥籠》 / 1929年 / 油彩・カンヴァス / 111.2×145cm
118. 佐伯祐三《コルドヌリ(靴屋)》 / 1925年 / 油彩・カンヴァス / 72.6×60.3cm
119. 佐伯祐三《広告貼り》 / 1927年 / 油彩・カンヴァス / 73.4×60.2cm

*2月20日より4月10日まで、藤田吉香《籠中満春》(油彩、金箔・カンヴァス / 37.0×45.0cm)を久留米市より借用、エントランスに展示した。

関連事業：

開催記念美術講座 → p.57

広報記録：

新聞・雑誌：

「石橋美術館で新春企画展 初公開の作品多数」『朝日新聞』2005年1月5日(筑後版)

「筑後と九州の画家作品119点を展示」『読売新聞』2005年1月9日(筑後版)

「『筑後と九州の画家たち』展開幕」『西日本新聞』2005年1月9日(筑後版)

植野健造「風土と作風を考えさせる110点『筑後と九州の画家たち-新収蔵品紹介をかねて-』」『西日本新聞』2005年1月29日(筑後版)

〈土曜講座〉

土曜日 14:00-16:00 ホール

通算回数	月 日	講座題目	講師
《絵画を見る, 絵画を語る》 企画=福士 理			
2011	2005年2月5日	フランス絵画におけるモダニズムと伝統—モネからマティス, ピカソまで	田中正之 氏 (国立西洋美術館 主任研究官)
2012	2月12日	セザンヌ, ジャコメッティと感覚の絵画	前田英樹 氏 (立教大学教授)
2013	2月19日	絵画の機関 (からくり) —クレールと地誌	宮下 誠 氏 (國學院大學助教授)
2014	2月26日	シニャックの魅力—モネとスーラのはざまから	酒井 健 氏 (法政大学教授)

《修復の現場から》

企画=中田裕子

2015	3月 5日	エジプト木棺からルーマニア世界遺産の壁画	小林嘉樹 氏 (絵画修復家)
2016	3月12日	タピスリーの歴史と修復	石井美恵 氏 (染織品保存修復師)
2017	3月19日	雪舟の四季山水図と高野切を中心に	藤岡春樹 氏 (光影堂代表取締役)
2018	3月26日	立体作品の保存修復について—歴史的な例と問題点	藤原 徹 氏 (東北芸術工科大学教授)
2019	4月 2日	レンブラント, ピカソ—版画を中心として	坂本雅美 氏 (紙本修復家)

《地中海学会春期連続講演会 地中海ネットワーク—交易と人の移動》

企画=高山博氏 (東京大学教授, 地中海学会)

2020	4月23日	エーゲ海交易の中心ペイライエウス港を訪れた人々	櫻井万里子 氏 (東京大学教授)
2021	4月30日	ポセイドンの変身—古代地中海世界の近代性	本村凌二 氏 (東京大学教授)
2022	5月 7日	サハラとヨーロッパ—地中海が結ぶ南北交流史	私市正年 氏 (上智大学教授)
2023	5月14日	三大文化圏とネットワーク—ヨーロッパ, ビザンツ, イスラム世界の交流	高山 博 氏 (東京大学教授)
2024	5月21日	ヴェネツィアのネットワーク	斉藤寛海 氏 (信州大学教授)

《絵画×文学—作家たちの交流とその影響》

企画=中村節子

2025	6月11日	シュルレアリスムの時代—キリコ, ミロ, プルトン, 瀧口修造	巖谷國士 氏 (明治学院大学教授)
2026	6月18日	ブルースト『失われた時を求めて』と印象派の画家たち	吉川一義 氏 (首都大学東京教授)
2027	6月25日	ユイスマンスとギュスターヴ・モロー	鹿島 茂 氏 (共立女子大学教授)
2028	7月 2日	漱石にみる美的感性—青木繁・坂本繁二郎への眼差し	中島国彦 氏 (早稲田大学教授)
2029	7月 9日	マネをめぐるボードレールとマルメ	中島弘二 氏 (立教大学教授)

《ふたりの関係、二つのかたち―「絵のなかのふたり展」関連講座》

企画＝塚田美香子

- 2030 7月23日 ピカソとオルガ、新古典主義時代の愛と破綻 ―― 大高保二郎 氏（早稲田大学教授）
- 2031 7月30日 ローランサンと装飾美術―ニコル・グルーとの交流をとおして
―― 高波真知子 氏（東京都庭園美術館
展示係長）
- 2032 8月 6日 シャガールとロシア・アヴァンギャルド ―――― 桑野 隆 氏（早稲田大学教授）
- 2033 8月13日 ふたりの名作―岸田劉生、梅原龍三郎、村井正誠、麩嘸らを中心に
―― 森山秀子

《《海の幸》100年》

企画＝貝塚 健

- 2034 9月24日 青木繁《海の幸》の100年 ―――― 植野健造
- 2035 10月 1日 虫めがねで見た《海の幸》 ―――― 石井 亨
- 2036 10月 8日 記録された虚像と真実―高松塚から紅白梅図屏風、そして《海の幸》
―― 城野誠治 氏（独立行政法人
文化財研究所東京文化財研究所）

《地中海学会秋期連続講演会 地中海都市めぐりシリーズ―その芸術と文化》

企画＝小佐野重利氏（東京大学教授，地中海学会）

- 2037 10月22日 バルセロナの光と影，ガウディとピカソ ―――― 大高保二郎 氏（早稲田大学教授）
- 2038 10月29日 南仏と20世紀美術の創始者たち ―――― 太田泰人 氏（神奈川県立近代美術館
普及課長）
- 2039 11月 5日 芸術都市ミラノ ―――― 上村清雄 氏（千葉大学助教授）
- 2040 11月12日 アルジェリア女性作家たちから見た〈アルジェの女たち〉
―― 石川清子 氏（静岡文化芸術大学教授）
- 2041 11月19日 野外オペラとジュリエットの町ヴェローナの15世紀絵画
―― 小佐野重利 氏（東京大学教授）
- 2042 11月26日 プーリア地方の都市 ―――― 陣内秀信 氏（法政大学教授）

〈ギャラリートーク〉

2004年10月より，毎日，展示室においてギャラリートークを実施するようになった。今年度は下記の時間帯に，当館学芸員が毎日実施した。

火曜日から金曜日まで 18:00-18:45

土曜日，日曜日および祝日 16:30-17:15

〈ファミリー・プログラム〉

特別展開催中をのぞき、小学生を含む家族を対象にしたプログラムを、毎月日曜日に実施した。

【午前】 10:30-12:30

【午後】 14:00-16:00

- 2005年 2月27日 「好きな絵あてっこ」
【午前】 6組16人(子ども9人, おとな7人)
【午後】 1組5人(子ども3人, おとな2人)
- 3月27日 「マティスのプロセス」
【午前】 3組7人(子ども4人, おとな3人)
【午後】 5組16人(子ども7人, おとな9人)
- 4月29日 「彫刻あてクイズ」
【午前】 3組10人(子ども5人, おとな5人)
【午後】 3組7人(子ども4人, おとな3人)
- 5月29日 「制作のプロセス」
【午前】 5組13人(子ども6人, おとな7人)
【午後】 3組9人(子ども4人, おとな5人)
- 6月26日 「暑中お見舞い申し上げます」
【午前】 6組17人(子ども10人, おとな7人)
【午後】 6組18人(子ども10人, おとな8人)
- 7月31日 「暑中お見舞い申し上げます」
【午前】 5組15人(子ども6人, おとな9人)
【午後】 6組20人(子ども12人, おとな8人)
- 8月28日 「美術館探検」
【午前】 4組16人(子ども8人, おとな8人)
【午後】 4組15人(子ども8人, おとな7人)
- 9月25日 「動物さがし」
【午前】 3組8人(子ども5人, おとな3人)
【午後】 3組10人(子ども5人, おとな5人)
- 10月30日 「食べものさがし」
【午前】 3組11人(子ども6人, おとな5人)
【午後】 0組0人(子ども0人, おとな0人)
- 11月20日 「制作のプロセス」
【午前】 2組8人(子ども4人, おとな3人)
【午後】 0組0人(子ども0人, おとな0人)
- 12月11日 「クリスマス・プレゼント」
【午前】 0組0人(子ども0人, おとな0人)
【午後】 0組0人(子ども0人, おとな0人)

〈博物館実習生の受入れ〉

学芸員資格取得のための博物館実習を下記のように実施した。

期間：2005年7月18日(月祝)ー7月25日(月) ※7月23日(土)24日(日)は休み

実習生：9名(9校)

実習内容：

- 目標：・実習生に最終的なアウトプットとして口頭による作品解説を行わせる。
 ・作品解説を行う上で必要な知識・情報の修得を通じて美術館業務についての理解を深める。
 ・出来る限り実習を通じての学習を目指す。が、美術品を扱う上での事故を避けるため、講義、演習による理解を深めた後に実習へと進む。

	1	2	3	4	5	6
	10:00-11:00	11:00-12:00	13:30-14:30	14:30-15:30	15:30-16:30	16:30-17:30
7月18日 (月)	ガイダンス (中村節子)	総論 (富山)	美術館施設見学 (福士)	作品調査1 (演習) (福士ほか)	作品調査2 (演習) (福士ほか)	文献・情報 検索1(演習) (中村節子)
7月19日 (火)	作品調査1 (実習) (福士ほか)	作品調査2 (実習) (福士ほか)	作品調査3 (演習) (石井・坂井)	文献・情報 検索2(実習) (中村節子)	文献・情報 検索3(実習) (中村節子)	文献・情報 検索4(実習) (中村節子)
7月20日 (水)	展覧会1 (福士)	レジストレー ション1 (塚田)	レジストレー ション2 (塚田)	レジストレー ション3 (塚田)	作品調査3 (中村節子)	作品調査4 (中村節子)
7月21日 (木)	展覧会2 (塚田)	展覧会3 (中村邦子)	カタログ・館報 (中村節子)	教育普及 (田所)	作品調査4 (塩島)	展覧会4 (福士)
7月22日 (金)	美術館運営 (中山)	財団運営 (遠藤)	展示について (福士)	発表準備1 (実習) (中村節子)	保存管理1 (演習) (石井・坂井)	保存管理2 (演習) (石井・坂井)
7月25日 (月)	発表準備2 (実習) (中村節子)	発表準備3 (実習) (中村節子)	発表1(実習) (福士・ 中村節子)	発表2(実習) (福士・ 中村節子)	発表3(実習) (福士・ 中村節子)	まとめ (中村節子)

〈美術講座〉

14:00-15:30 講座室

	月 日	講座題目	講師
《新春企画展「筑後と九州の画家たち—新収蔵品紹介をかねて」開催記念》			
2005年	1月29日	筑後と九州の画家たち—新収蔵品紹介をかねて	植野健造

《名作ものがたり—青木繁《海の幸》の100年開催記念》

5月14日 名作ものがたり—青木繁《海の幸》の100年 — 植野健造

5月28日 記録された虚像と真実—高松塚から紅白梅図屏風まで

城野誠治 氏 (東京文化財研究所)

6月11日 虫めがねで見た《海の幸》 ————— 石井 亨

6月25日 《海の幸》誕生, 房総の海 ————— 森山秀子

《「琉球の美」開催記念》

8月 7日 沖縄の染織 ————— 祝嶺恭子 氏

(染織作家, 沖縄県立芸術大学客員教授)

8月27日 沖縄の工芸 ————— 宮城篤正 氏 (元浦添市美術館館長)

《「水彩の力, 素描の力」開催記念》

10月 1日 水彩と素描の魅力 ————— 植野健造

《「絵のなかのふたり」開催記念》

11月26日 シャガール, ピカソ, 鬚嘔らが描く“ふたり” — 森山秀子

〈ギャラリートーク〉

毎月第1週-4週の日曜日、本館または別館の展示室で実施した。

時間：14:00-14:20

<学習における美術館の利用など>

2005年	4月20日(水)	有明工業高等専門学校2年3組 学外学習	39人
	6月 7日(火)・8日(水)	久留米市立牟田山中学校3年生 職場体験学習	3人
	6月29日(水)	久留米市立安武小学校6年生 久留米市の偉人・坂本繁二郎についての学習	5人
	7月 9日(土)	久留米大学附設中学校2年生 青木繁についての学習	136人
	8月 2日(火)	小郡・三井郡小学校研究会 第1回図画工作科研究会	16人
	8月 8日(月)	久留米市小学校教育研究会 図画工作科部会実技研修会	86人
	8月10日(水)－12日(金)	福岡県立輝翔館中等教育学校2年生 職場体験学習	3人

<館外活動>

2005年	5月17日(水)－6月29日(水)	太宰府市中央公民館「美術史講座」(全7回)	受講生24人
	7月 2日(土)	アクロス福岡「文化であい塾」	70人(担当=植野)
	7月 5日(火)	えーるピア大学「歴史探訪」	27名(担当=植野)
	9月27日(火)	大川三潁地区高齢者大学「筑後の画家たち」	約150人(担当=森山)
	10月 6日(木)	小都市七夕大学	100人(担当=平間)

<夏休み子どもプログラム2005>

2005年7月13日(水)－8月31日(水)、「比較」をテーマによく見て楽しむコーナー(本館4室)と作って楽しむコーナー(本館休憩テラス)を常設展示の一部に設置。小中学生を対象に、解説パンフレットと課題やクイズが記載されたワークシートを受付で配布。

毎週土曜日の午後と日曜日の午前中に、ボランティアによる小中学生向けのギャラリー・トークを実施。また大牟田市在住の染色作家・河野康子氏の助言と協力を得て、7月27日(水)と8月17日(水)の2回、型絵染の技法を使ったうちわ作りに挑戦する親子実技講座を実施。完成した作品は休憩テラスに展示。入場者総数は6,791人(小中学生1,699人含む)。

解説ボランティア：

荒尾信子、浦川里枝子、隈早苗、黒田由紀美、小嶺千代子、富安重孝、豊田麻子、中島由貴、永浜実里、福山清美、松原知子、牟田麻里耶、森房乃、柳秀昭、龍尾美智子 以上15名(50音順 敬称略)

期間中の各プログラム参加者のべ人数：

- ・ボランティアによる小中学生のためのギャラリー・トーク 895人
 - ・親子実技講座 46人
-

〈博物館実習生の受入れ〉

学芸員資格取得のための博物館実習を下記のように実施した。

期間：2005年8月23日(火)－8月27日(土) 5日間

実習生：6名(6校)

実習内容：

	1	2	3	4	5	6
	9:30-10:45	10:45-12:00	13:00-14:15	14:15-15:30	15:30-16:45	16:45-17:30
8月23日 (火)	ガイダンス・ 総論 (平野)	美術館運営 (郷原)	施設見学 (植野)	展示企画 (森山)	課題説明・実施 (後藤)	質疑・応答 ノートまとめ
8月24日 (水)	展覧会1(概要) (植野)	教育普及 (後藤)	作品調査 (平間・石井)	作品調査 (平間・石井)	文献・情報検索 (後藤)	質疑・応答 ノートまとめ
8月25日 (木)	展覧会2 (カタログ) (森山)	保存管理 (石井)	展示方法 (石井)	文献調査 (後藤)	解説作成1 (平間)	質疑・応答 ノートまとめ
8月26日 (金)	展覧会3 (展示プラン) (平間)	作品管理 (森山)	発表1 (後藤)	発表2 (後藤)	解説作成2 (平間)	質疑・応答 ノートまとめ
8月27日 (土)	リーフレット 作成1 (森山)	リーフレット 作成2 (森山)	関連事業1 (後藤)	関連事業2 (平間)	リーフレット 設置 (森山)	質疑・応答 終了会

※実習の成果発表として、展示作品に各自のテーマに沿った解説リーフレットを作成とすることを課題とした。作成したリーフレットは会場に設置した。

入場者数

ブリヂストン美術館

月	開館日数	有 料				無 料		総 計	一日平均
		一般	大・高生	団体	合計	(中・小生)			
1	21	6,591	211	121	6,923	2,323	(165)	9,246	440
2	24	7,687	220	152	8,059	1,547	(758)	9,606	400
3	28	8,771	279	109	9,159	1,144	(335)	10,303	368
4	25	6,310	165	292	6,767	837	(249)	7,604	304
5	26	9,311	314	120	9,745	1,712	(496)	11,457	441
6	26	7,621	205	178	8,004	1,544	(442)	9,548	367
7	24	7,997	327	269	8,593	1,921	(591)	10,514	438
8	26	7,436	109	183	7,728	2,673	(1,349)	10,401	400
9	23	7,909	730	146	8,785	1,864	(235)	10,649	463
10	23	8,313	557	386	9,256	1,551	(162)	10,807	470
11	26	3,975	379	255	4,609	906	(146)	5,515	212
12	27	3,858	524	108	4,490	908	(148)	5,398	200
合計	299	85,779	4,020	2,319	92,118	18,930	(5,076)	111,048	371

ホールイベント：8月よりホールにてイベントを開催，美術館への入館促進となった。

	イベント名	開催日時	入場料	入場者数	出演者
1	bamboo harmonic ensemble	2005.8.27(土) 14:00/17:00	前売 2,500円 当日 3,000円	昼の部 130人 夕の部 130人	インダ・ブトゥリ
2	ヒンドゥスターニー・ サンギート	2005.10.23(日) 15:00	前売 2,500円 当日 3,000円	89人	栗原 崇 サラーム海上 瀬川由希夫
3	ボリビアの音楽と人々の生活	2005.12.10(土) 14:30/18:30	前売 2,500円 当日 3,000円	昼の部 124人 夜の部 113人	木下尊惇 菱本幸二 橋本 仁 小林智詠

石橋美術館

月	開館日数	有 料				無 料			総計	一日平均
		一般	大・高生	団体	合計	中小生	招待他	合計		
1	20	952	52	314	1,318	615	63	678	1,996	100
2	24	1,082	34	239	1,355	330	151	481	1,836	77
3	27	819	40	870	1,729	408	158	566	2,295	85
4	25	1,504	46	446	1,996	83	133	216	2,212	88
5	26	2,534	174	577	3,285	262	119	381	3,666	141
6	26	1,456	80	961	2,497	280	179	459	2,956	114
7	26	1,139	79	753	1,971	619	110	729	2,700	104
8	26	1,914	125	725	2,764	1,355	1,263	2,618	5,382	207
9	24	1,578	77	379	2,034	324	1,635	1,959	3,993	166
10	26	1,483	62	682	2,227	183	909	1,092	3,319	128
11	25	1,213	55	1,011	2,279	327	1,769	2,096	4,375	175
12	22	1,036	70	354	1,460	1,381	1,479	2,860	4,320	196
合計	297	16,710	894	7,311	24,915	6,167	7,968	14,135	39,050	131

ホフマン, ハンス
HOFMANN, Hans
1880-1966

Push and Pull II

1950年
油彩・カンヴァス
122.5×92.1cm
右下に署名, 年記; 裏面に署名, タイトル, 年記
外洋211

Push and Pull II

1950
Oil on canvas
122.5×92.1cm

Signed and dated lower right : Hans Hofman 50
Signed, titled and dated on the reverse : Push and Pull No, 2 / Hans Hofman / 50

来歴 Prov. : Estate of Hans Hofmann; Ameringer Yohe Fine Art, New York; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh. : 2003, Tampa Museum of Art, Tampa, FL, *Modern Art In Florida: A Climate for Contemporary Tampa Bay 1948-1970*;
2004-05, Rockford Art Museum, Rockford, IL, *Reuniting an Era: abstract expressionists of the 1950s*.

文献 Bibl. : 1983, Seitz, William C. *Abstract Expressionist Painting in America*, Cambridge, MA and London: Harvard University Press,
no.132; 2002, Yohe, James, Editor. *Hans Hofmann*, New York: Rizzoli International Publications, p.128; 2003, *Modern Art In Florida: A
Climate for Contemporary Tampa Bay 1948-1970*, catalogue for the exhibition, Tampa Museum of Art, p.39; 2004, Nordland, Gerald.
Reuniting an Era; abstract expressionists of the 1950s, catalogue for the exhibition, Rockford Art Museum, p.47

ミショー, アンリ
MICHAUX, Henri
1899-1980

無題

1979-81年
墨, アクリル・紙
49.9×64.7cm
左下に署名
外洋212

Untitled

1979-81
India ink and acrylic on paper
49.9×64.7cm
Signed lower left : HM

来歴 Prov. : ?; 2005, Ishibashi Foundation.

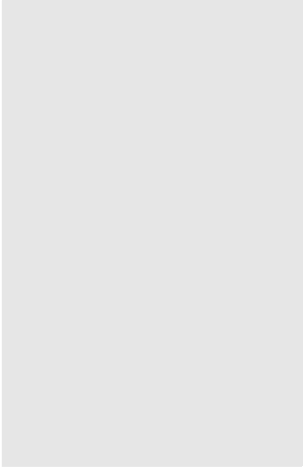
無題

1970年
水彩・紙
49.6×31.8cm
外洋213

Untitled

1970
Watercolor on paper
49.6×31.8cm

来歴 Prov. : ?; 2005, Ishibashi Foundation.



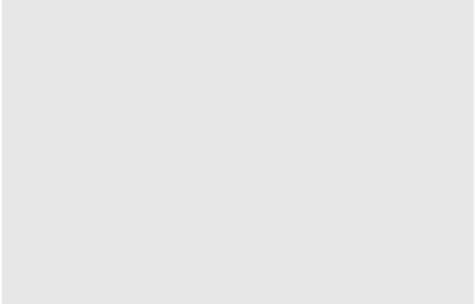
無題

1973年
グワッシュ、アクリル・紙
33.0×50.2cm
右下に署名
外洋214

Untitled

1973
Gouache and acrylic on paper
33.0×50.2cm
Signed lower right : HM

来歴 Prov. : ?; 2005, Ishibashi Foundation.



ポロック, ジャクソン

POLLOCK, Jackson

1912-1956

Number 2, 1951

1951年

油彩・カンヴァス

96.9×66.2cm

外洋209

Number 2, 1951

1951

Oil on canvas

96.9×66.2cm

来歴 Prov. : Betty Persons Gallery (acquired directly from the Artist), New York; Acquavella Galleries, Inc., New York; C&M Arts, New York; ? ; 2005, Ishibashi Foundation.



展覧会歴 Exh. : 1951, Museum für Volkerkunder, Berlin. Traveled to Vienna, Munich, *American Federation of Arts traveling show (exhibition title unknown)*; Lutherville; 1952, Whitney Museum of American Art, New York, *Annual Exhibition of Contemporary American Painting*; 1952, Studio Pul Facchetti, Paris, *Jackson Pollock*; 1952, Bennington, VT, *A Retrospective Exhibition of Painting of Jackson Pollock*; 1955, San Francisco Museum of Art, San Francisco, *Whitney Museum of American, The New Decade: 35 American Painters and Sculptors*; 1958, *In Memoriam, American Federation of Arts traveling show*; 1968, Finch College Museum of Art, New York, *Betty Parson's Private Collection*, no.34; 1972, Parish Art Museum, Southampton, NY, *Betty Parson's Private Collection*; 1983, Parrish Art Museum, Southampton, NY, *The Painterly Figure*; 1996, Sezon Museum of Art, Tokyo, *Abstract Expressionism*, no.49

文献 Bibl. : 1951, Henry McBride, *All Quiet on the Whitney Front*, Art News, pp.19-20; 1955, John I.H. Baur, *the New Decade*, Macmillan, New York, p.69; 1978, Francis Valentine O'Connor & Eugene Victor Thaw, *Jackson Pollock: a Catalogue Raisonne of Paintings, Drawings, and Other Works*, vol.2, Yale University Press, New Haven & London, ill.p.163, no.342,

スーラージュ, ピエール

SOULAGES, Pierre

1919-

絵画, 26 May 1969

1969年

油彩・カンヴァス

72.9×54.1cm

右下に署名;裏面に署名,年記;裏面木枠に署名,年記

外洋210

Painting, 26 May 1969

1969

Oil on canvas

72.9×54.1cm

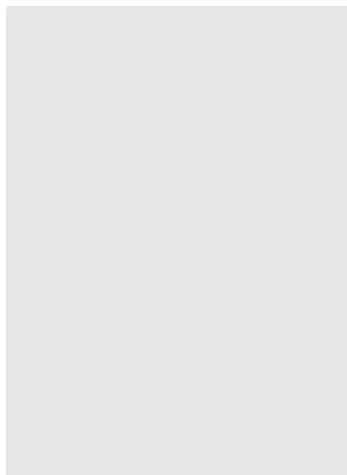
Signed lower right; SOULAGES

Signed and dated on the reverse : SOULAGES / 26-5-69

Signed and dated on the stretcher : SOULAGES 26. 5. 69

来歴 Prov. : 1969, M. Leslie Arky, Vancouver; 1970, M. Francis C. Reif, Vancouver; 1989; M. Susumu Yamamoto, Tokyo; 2005, Ishibashi Foundation.

文献 Bibl. : c.1995, Pierre Encreve, *Soulages : l'oeuvre complet peintures*. Vol.2 : 1959-1978, p.189, no.633



ザオ・ウーキー

ZAO Wou-Ki

1921-

無題（風景）

1950年

水彩，インク，鉛筆・紙

27.9×25.2cm

右下に署名，年記

外洋207

Untitled (Landscape)

1950

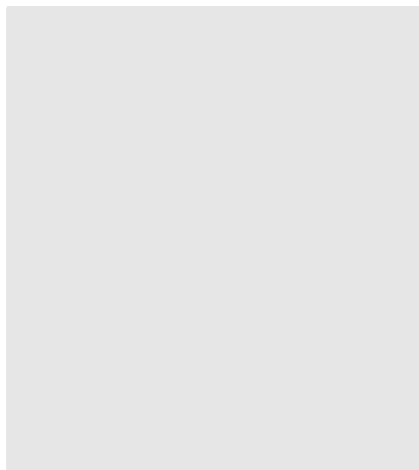
Watercolor, ink and pencil on paper

27.9×25.2cm

Signed and dated lower right: 无極 ZAO / 50

来歴：作者，パリ；2005年，石橋財団に寄贈

Prov.: Artist, Paris; 2005, donated to the Ishibashi Foundation.



風景 2004

2004年

油彩・カンヴァス

97.1×195.1cm

右下に署名

外洋208

Landscape 2004

2004

Oil on canvas

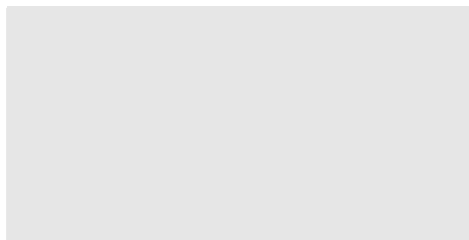
97.1×195.1cm

Signed lower right: 无極 ZAO

来歴：作者，パリ；2005年，石橋財団

Prov.: Artist, Paris; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 2005, Le Bellevue, Biarritz, *Zao Wou-ki Peintures-Encres de Chine 1948-2005*



岡田三郎助
OKADA, Saburosuke
1869-1939

富士山
1918年
油彩・板
21.4×26.8cm
左下に署名, 年記: S. OKADA / 1918
裏面に署名: S.okada
日洋522

Mt. Fuji
1918
Oil on panel
21.4×26.8cm
Signed and dated lower left
Signed on the reverse



来歴: 平野平四郎; 平野照子; 2005年, 石橋財団に寄贈
Prov.: HIRANO Heishiro; HIRANO Teruko; 2005, donated to the Ishibashi Foundation.

古賀春江
KOGA, Harue
1895-1933

柳川風景
1914年
水彩・紙
62.0×49.4cm
左下に印章: 「春江」(朱字方印)
日洋523

Landscape in Yanagawa
1914
Watercolor on paper
62.0×49.4cm
Stamped lower left



来歴: 長谷川陽三; 榎橋満帆; 榎橋直人, 久留米; 2005年, 石橋財団に寄贈
Prov.: HASEGAWA Yozo; NARAHASHI Mitsuho; NARAHASHI Naoto, Kurume; 2005, donated to the Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1986年, 石橋美術館 / プリザストン美術館「古賀春江—前衛画家の歩み」no.52

文献 Bibl.: 1986年, 『古賀春江—前衛画家の歩み』展図録, p.71, no.52

斎藤義重
SAITO, Yoshishige
1904-2001

作品

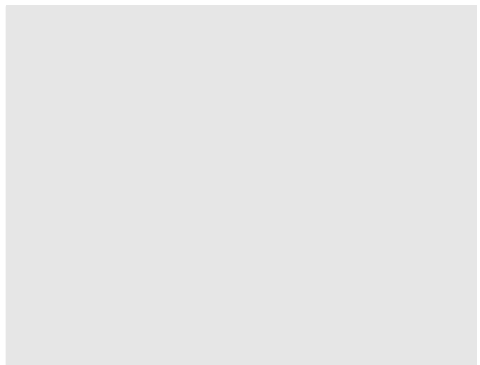
1961年
油彩・合板
90.9×116.8cm
裏面に署名・年記：Y.Saito / 1961 / 斎藤義重
日洋524

Work

1961
Oil on plywood
90.9×116.8cm
Signed and dated on the reverse

来歴：? ; ? ; 2005年, 石橋財団
Prov. : ? ; ? ; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1964年, フリードリッヒ・ダーレム画廊, ミュンヘン「斎藤義重展」; 1965年, ナヴィリオ画廊, ミラノ「斎藤義重展」; 1984年, 東京都美術館「斎藤義重展」no.90



作品

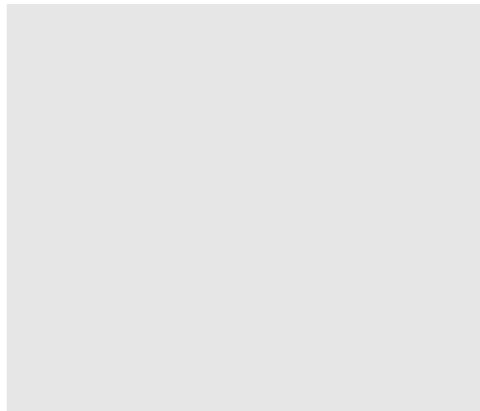
1965年
油彩・合板
45.4×52.9cm
裏面に署名と年記：Y.Saito 65 / 義重
日洋527

Work

1965
Oil on plywood
45.4×52.9cm
Signed and dated on the reverse

来歴：? ; ? ; 2005年, 石橋財団
Prov. : ? ; ? ; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1978年, 東京国立近代美術館「斎藤義重展」no.51; 1984年, 東京都美術館「斎藤義重展」no.176; 2003年, 岩手県立美術館／千葉市美術館／島根県立美術館／富山県立近代美術館／熊本市現代美術館「斎藤義重展」no.30



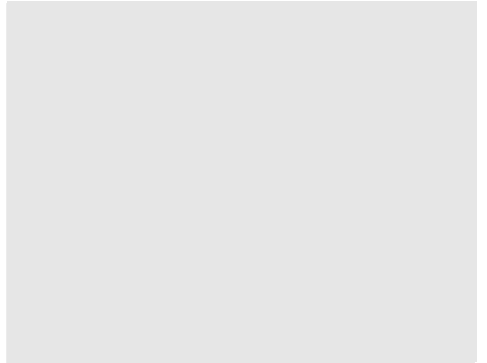
川端 実
KAWABATA Minoru
1911-2001

無題
1993年
アクリル・カンヴァス
163.0×213.5cm
日洋528

Untitled
1993
Acrylic on canvas
163.0×213.5cm

来歴：?；まつもと，埼玉；2005年，石橋財団
Prov.：?；Matsumoto, Saitama; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.：1994, Jack Tilton Gallery, New York



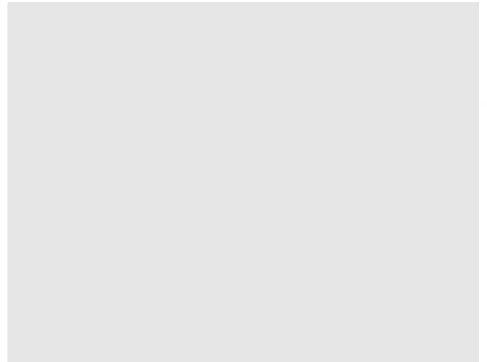
内野秀美
UCHINO, Hidemi
1911-1998

黒い月
1967年
油彩，カンヴァス
112.1×145.5cm
右下に署名：utino
日洋529

Black Moon
1967
Oil on canvas
112.1×145.5cm
Signed lower right

来歴：小野健仁，久留米；2005年，石橋財団に寄贈
Prov.：ONO Kenji, Kurume; 2005, donated to the Ishibashi Foundation.

文献 Bibl.：1986年，『内野秀美画集』講談社，no.35



菅井 汲
SUGAI, Kumi
1919-1996

OKA

1961年
油彩・カンヴァス
99.7×81.3cm

右下に署名, 年記: 汲 / Sugai / 61; 裏面に署名, タイトル, 年記: OKA / 1961 / Sugai
日洋526

OKA

1961
Oil on canvas
99.7×81.3cm

Signed and dated lower right
Signed, titled and dated on the reverse

来歴: 南天子画廊, 東京; ?; 2005年, 石橋財団
Prov.: Nantenshi Gallery, Tokyo; ?; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1999, Kunstsammlungen Chemnitz, Chemnitz, *Die Andere Moderne: Japanische Malerei von 1910 bis 1970*.

野見山暁治
NOMIYAMA, Gyoji
1920-

風の便り

1997年
油彩・カンヴァス
112.3×145.8cm

右下に年記, 署名: '97 / nomiyama
裏面に題名, 署名, 年記 (縦書):
風の便り / 一九九七年 / 野見山暁治
日洋520

Message from the Wind

1997
Oil on canvas
112.3×145.8cm

Dated and signed lower right
Described on the reverse

来歴: 作者, 東京; 2005年, 石橋財団
Prov.: Artist, Tokyo; 2005, Ishibashi Foundation.

展覧会歴 Exh.: 1997年, みゆき画廊, 東京「野見山暁治 油彩 '97年の海」(個展); 2003-04年, 東京国立近代美術館 / 大分市美術館 / 富山県立近代美術館 / 愛知県美術館「野見山暁治展」no.59

文献 Bibl.: 2003年, 『野見山暁治』展図録, p.89, no.59

鉾山から

1984年

グワッシュ、油性黒インク・紙

57.2×50.3cm

右下に年記, 署名: '84.10.23 / nomiyama

日洋521

From the Mine

1984

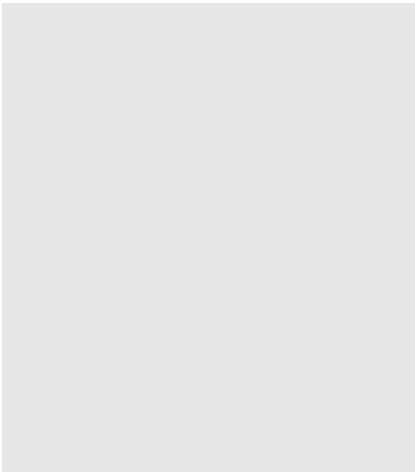
Gouache and felt pen on paper

57.2×50.3cm

Dated and signed lower right

来歴：作者，東京；2005年，石橋財団に寄贈

Prov.: Artist, Tokyo; 2005, donated to the Ishibashi Foundation.



田淵安一

TABUCHI, Yasukazu

1921-

孤独の山 Montagne Solitaire

1956年

油彩・カンヴァス

50.0×99.5cm

裏面に署名, タイトル, 年記:

Yasse TABUCHI / MONTAGNE SOLITAIRE / 1956

日洋525

Solitary Mountain

1956

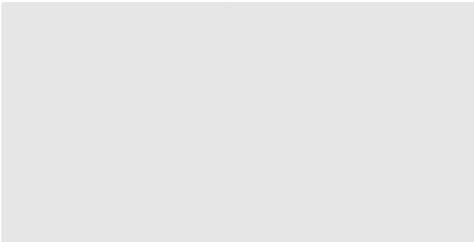
Oil on canvas

50.0×99.5cm

Signed and dated on the reverse

来歴：? ; ? ; 2005年，石橋財団

Prov.: ? ; ? ; 2005, Ishibashi Foundation.



ヴィレット, アドルフ・レオン

WILLETTE, Adolphe Léon

1857-1926

首を吊ったピエロ

1894年

リトグラフ

27.9×19.6cm (画面); 46.7×29.4cm (紙)

右下に署名

外版423

Hanging Clown

1894

Lithograph

27.9×19.6cm (image); 46.7×29.4cm (paper)

Signed lower right: A. Willette

来歴: ガレリア・グラフィカ, 東京; 2005年, 石橋財団

Prov.: Galleria Grafica Tokio, Tokyo; 2005, Ishibashi Foundation.



新収図書

ブリヂストン美術館

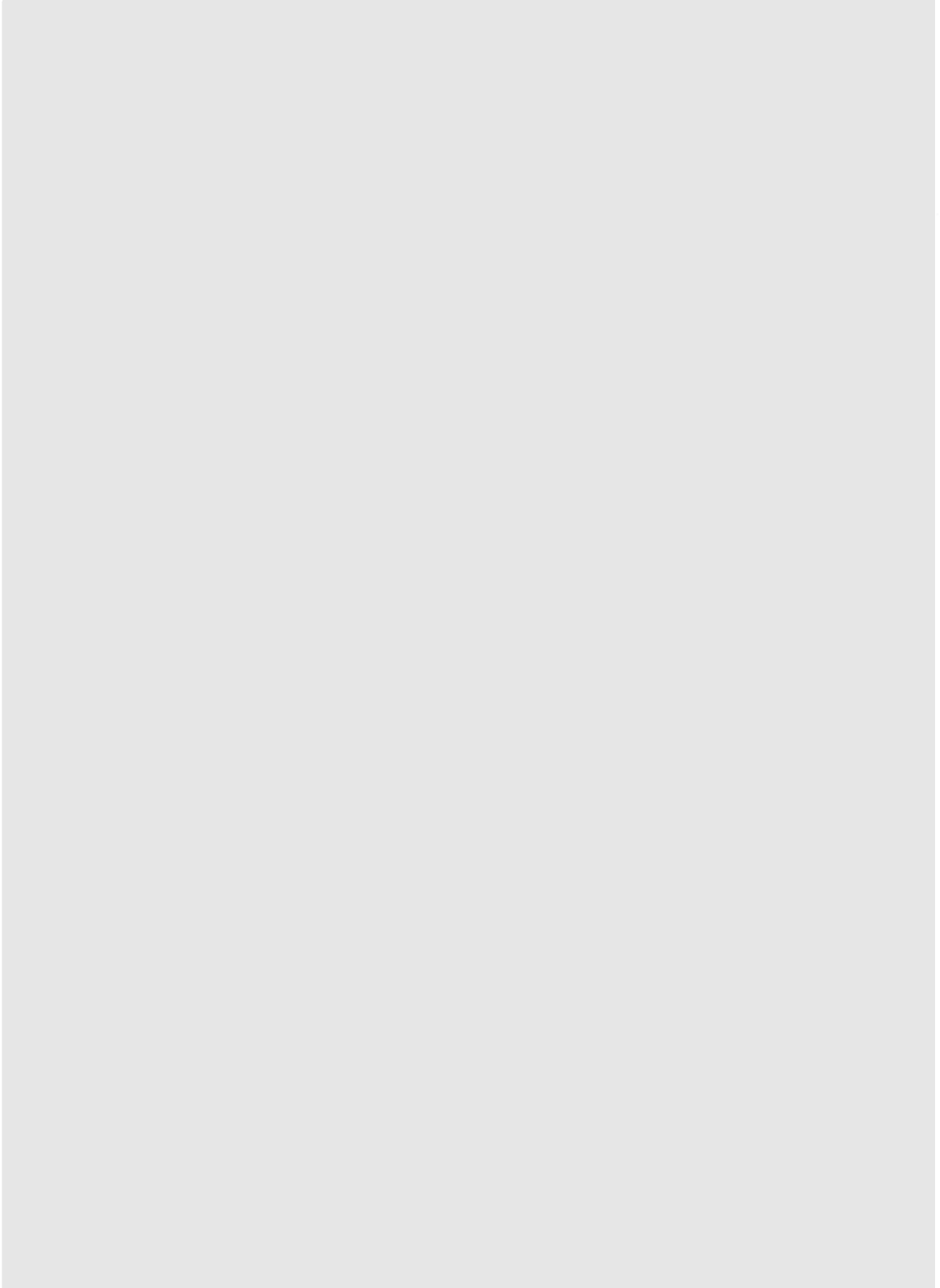
	購入	寄贈	計
和書	54冊	14冊	68冊
洋書	51冊	7冊	58冊
計	105冊	21冊	126冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)

石橋美術館

	購入	寄贈	計
和書	66冊	51冊	117冊
洋書	0冊	0冊	0冊
計	66冊	51冊	117冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)



ピエール・スーラージュ

《絵画25-5-69》

1969年

油彩・カンヴァス

72.9×54.1×3.7cm

ブリヂストン美術館

外洋210

作品の状態

画面のほぼ全体に、毛布のような細かい赤色の毛が付着している。

毛の付着は黒色絵具部分に顕著に確認でき、その一部は絵具に埋没している (fig.1, 2)。

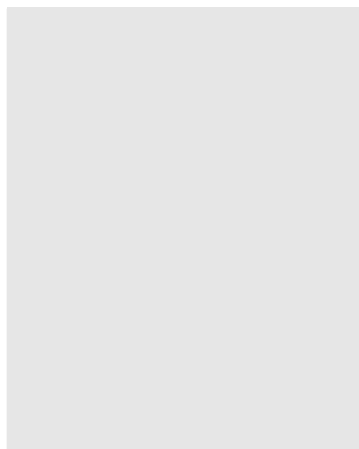


fig.1 処置前 斜光線図

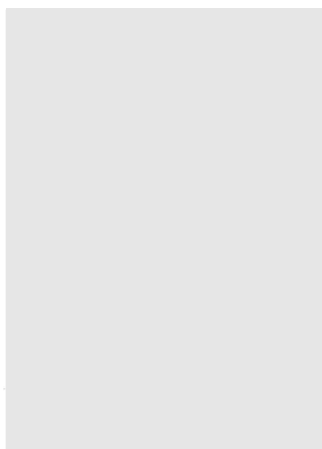


fig.2 処置前 毛の付着、一部絵具に埋没している

油彩作品は一度表面が乾燥固化しても、内部までの完全な固化には時間がかかる。また、温度の上昇により粘性が戻る場合がある。本作品は絵具の伸びの良さ、透明感や光沢を持たせるよう意識して制作されており、温度の上昇で粘性が戻りやすい性質を持っている。紫外線を照射すると、画面の有色部分である黒と茶色部分が蛍光する。またワニスを刷毛で塗布したと思われるムラが確認できる。黒色部は部分的に光沢を失い黒色の質感が冴えない。黒色部分に絵具層の欠損があり、白色の地がのぞいている。画面が完全に乾ききっていない状態で何かに触れ、欠損したと考えられる。メディウムの粘りにより、欠損部分の絵具は丸みを帯びて安定している。

右下にサインがある。木枠は中棧のある日の字型の物で、楔がついている。木枠は画面側にかまぼこ状の木材を追加し、画布が木枠に当たらないようにしてある。

画布の張りは良好。

処置方針

美観回復を目的とした処置を行う。毛くずを除去し、絵具層欠損部分には充填、補彩を行う。必要に応じてニス塗布し質感と発色を調整する。

外観の処置に際して、以前の所有者が購入時に使用した状態写真のコピーを入手し仕上げの参考とした。

処置内容

- ・ 作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・ 水で画面の毛を除去、絵具に埋まって除去できない部分はピンセットおよびはさみで可能な限り除去した。
- ・ 絵具層の欠損部分に充填を行い(fig.3)、水彩絵の具で補彩を施した。除去しきれない毛は視覚的に軽減するために補彩を行った。
- ・ 黒色絵具の光沢のむらを天然樹脂ワニスで調整した(fig.4)。
- ・ 処置後の写真撮影および報告書を作成。

(石井 亨)

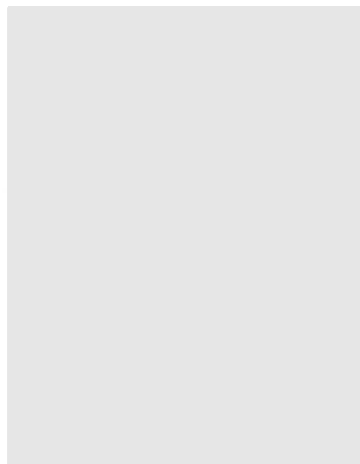


fig.3 毛の除去および充填整形後
(斜光線図)

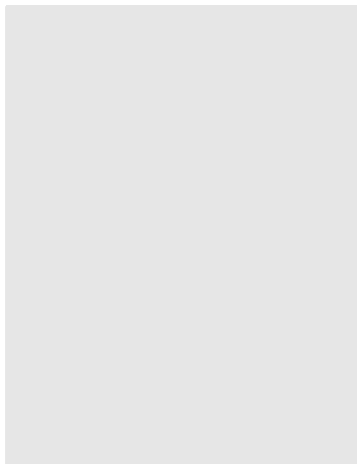


fig.4 処置後 全図

和田英作

《チューリップ》

1927年

油彩・カンヴァス

80.7×65.2×2.3cm

石橋美術館

日洋65

作品の状態

作品は2003年4月26日に人為的な損傷を受けた。当時は作品額にグレージングが施されていないため、物理的な力が直接画面に作用し、画布の変形、絵具層の亀裂(亀裂の一部は絵具層の剥落を伴う)といった損傷を受けた。これらの損傷には翌日(4月27日)に応急的な処置を行ったが、2年を経過し額装も改善されたことから修復処置を施す事とした(fig.1)。

作品は員数5本の日字型の木枠に張られており、各組み手に楔穴はあるが楔は無い。画布は平織の亜麻布で白色油性塗料による地塗層が施された既



fig.1 処置前 額装全図

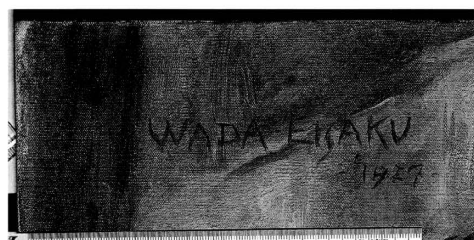


fig.2 サインおよび年記

製品である。画布には若干の変形が見られるが概ね良好な状態となっている。絵具層には木枠の当りに沿って微細な剥落が生じている。剥落部の周囲は応急的な接着補強処置によって絵具層の固着は良好に保たれていた。画面表面には汚れが付着しており、また絵具層の劣化による変色も観察される。この変色は額の刃先で隠れていた部分では目立たないことから、付着した汚れが絵具層に吸着したものとも考えられる。

画面左上に油絵具によるサインと年記がある(fig.2)。

処置方針

以前の応急的な処置を補完することを目的とした処置を行う。同時に汚損した画面を洗浄し美観的な処置を行い、極薄くワニス塗布し絵具層の発色と艶を調整する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・水で画面の汚損を除去、その後ミネラルスピリットとエタノールの混合液にて油性の汚れを除去した(fig.3,4)。
- ・絵具層の欠損部分に充填を行い(fig.5)、水彩絵の具で補彩を施した。
- ・天然樹脂ワニス(マスティック樹脂)を軽く塗布し、絵具層の艶を調整した(fig.6)。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成。

(石井 亨)



fig.3 変色部(処置前)



fig.4 変色部処置後



fig.5 絵具層欠損部充填後



fig.6 絵具層欠損部処置後

青木 繁

《天平時代》

1904年

油彩・カンヴァス

45.3×75.5×2.2cm

ブリヂストン美術館

日洋91

作品の状態

画布が格子状のパネルに貼り付けられている。この処置は額装の際に額縁屋によって行われ、画布の張りしろはこの時に除去されたと考えられる。

画布全体に天地方向に走る亀裂があり、パネルに貼り付けられる以前に、木枠から画布をはずして巻いた状態で保管した時期があると考えられる。

絵具層には擦り傷、一部剥落を伴う引っ掻き傷、当たり傷、浮き上がり、剥落（一部の剥落は地塗層を伴う）が点在している。この損傷部には補彩が施されている部分がある。画面に向かい左下は地塗層から剥落しているが、露出した麻布の上にわずかに絵具が乗っているのが確認でき（fig.2）、作者が長期間にわたり手を入れていた可能性も考えられる。パネルに貼り付けられた当時から絵具層には同様の損傷があったと考えられるが、その一部は浮き上がるなど、当時の状態からは変化

している。

ワニスには光沢にムラがあり、やや変色している。ワニス層にも擦り傷、引っ掻き傷がある。表面は埃汚れのようなざらつきがある。

処置方針

絵具層の浮き上がり部に剥落止めを行う。

画面の汚れを除去する。

ワニスに変色があり、過去の修復で塗布されたものなので除去し、再塗布する。

絵具層の擦り傷、引っ掻き傷、剥落部分は美観回復のため充填、補彩する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がり部分を修復用接着剤 BEVA D-8にて接着した。
- ・水で画面の汚れを除去後、エタノールとミネラルスピリットでワニスを除去した。
- ・絵具層および地塗り層の欠損部分に充填を行い、水彩絵の具で補彩を施した（fig.3, 4）。
- ・天然樹脂ワニスを塗布した（fig.5）。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成。

（石井 亨）

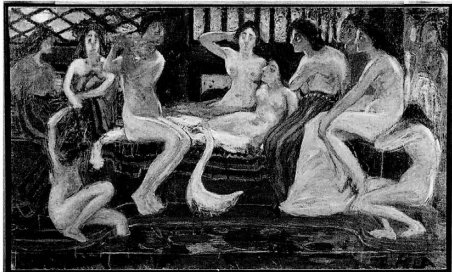


fig.1 処置前 全図

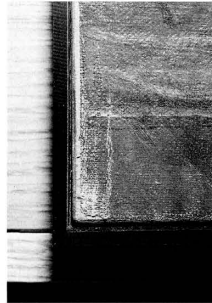


fig.2 地塗の剥落 露出した麻布の上に朱色の絵具が乗っている

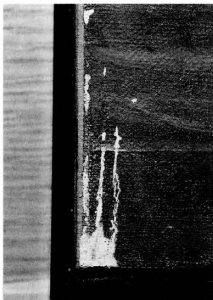


fig.3 充填整形後

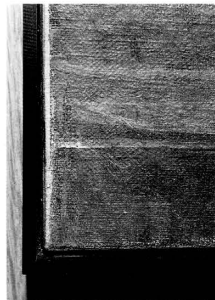


fig.4 補彩後

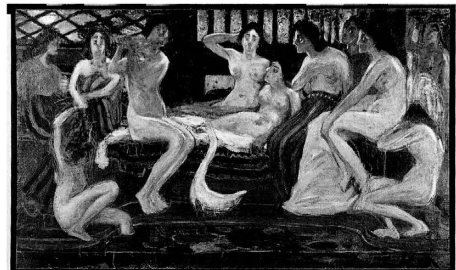


fig.5 処置後 全図

青木 繁

《秋》

1904年

水彩・襖布

44.5×44.5×1.0cm

石橋美術館

日洋107

作品の状態

支持体は紙に目の粗い寒冷紗を貼り付けた襖紙で、これを格子状の棧に袋張りされている。地塗り層はない。3cmほどの大きさに寒冷紗が紙から浮き上がっている部分が数カ所確認できる。支持体が著しく変色しており茶褐色に変色している(fig.1, 2)。

側面は12カ所を釘で留めてあり、釘錆によるシミがある。棧の裏面には格子状の模様のある和紙

が貼られている。和紙は一部破れがある(fig.3)。

処置方針

支持体の浮き上がりを接着する。支持体が濡れ色になりにくい接着剤を選択し、染みにならないよう最小限に使用する。

画面全体の清掃を行う。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・支持体の浮き上がりの接着剤としてメチルセルロースを使用し、水分により水染みが生じないように接着した。
- ・プラスチック消しゴムの粉末で画面全体を軽くクリーニングした(fig.4)。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成(fig.5, 6)。

(石井 亨)



fig.1 処置前 全図



fig.2 処置前 斜光線図

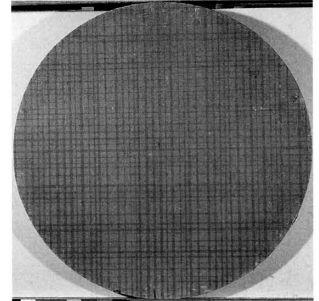


fig.3 処置前 裏面図



fig.4 画面のクリーニング



fig.5 処置後 全図

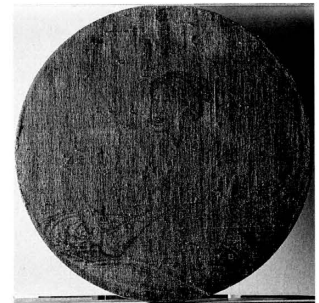


fig.6 処置後 斜光線図

安井曾太郎

《薔薇》

1932年

油彩・カンヴァス

63.2×52.0×2.0cm

日洋143

作品の状態

木枠は楔付きの日の字型で、裏面左辺の木枠には上方に出品票が貼付され住所、氏名、画題が墨書されている。この出品票のすぐ下には白チョークで「特」の記入がある (fig.2)。

画布張り代には釘穴があり、張り直しの痕跡がある。

画面左下、サイン付近に張り直し時の目安にしたのか、絵具層の上に鉛筆によるアタリ線が引か

れている (fig.3)。画布がゆるみ木枠に当たったことで画布に木枠の跡があり、絵具層には亀裂が生じている。しかしながら現状では画布の張りは良好である。画面右下に画布のふくらみがあり、木枠との間に異物が挟まっている。

ワニスは刷毛で厚く塗布され、光沢がある。背景の黒色部分は強めにワニス塗布されているように見える。この背景部分にはもやがかかったように白濁している部分 (fig.4) があり、天然樹脂ワニスに経年による劣化・変質が生じたものと考えられる。黒色部分を中心に、傷が発生した跡が点在している。画面に向かい右辺上部に長さ20mm程の引掻き傷があり、この傷は絵具層にも達している (fig.5)。画面周囲には額擦れがある。

画面表面にざらつきがあり、埃汚れが付着している (fig.1)。



fig.1 処置前 全図

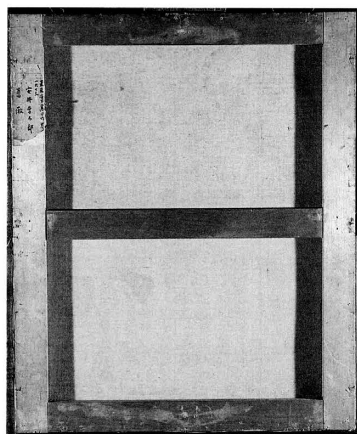


fig.2 処置前 裏面図

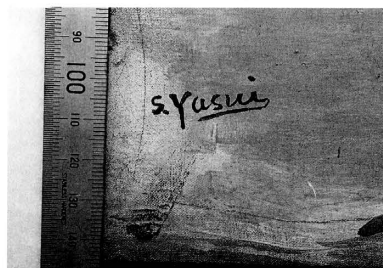


fig.3 鉛筆によるアタリ線が残る



fig.4 ワニスの白濁



fig.5 ワニス表面から絵具層に達する傷

処置方針

第一に、背景黒色部分に顕著なワニスの変質を改善する。ワニスには刷毛による意図が感じられる筆触が認められることから、このワニスは作者が塗布したものと考えられる。同時にワニス塗布が単に画面保護として為されたとだけ考えることに疑問が感じられる。よって今回の処置では変質ワニスの除去は行わず、部分的な介入にとどめることとする。通常の塗布方法ではワニスを一部だけ変更することは困難であり、ペッテンコッファー法[※]による部分的な修正を行う。

画面の埃汚れを除去する。擦り傷などで絵具層の欠損した部分には補彩を行う。

木枠と画布の間にある異物を除去し裏面を清掃する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・画面全体を水で湿した綿棒でクリーニングした(fig.6)。
- ・裏面を清掃し、木枠と画布の間の異物を除去した。異物は木片であった。
- ・変質したワニス部分に内側をアルコールで湿した箱を乗せ、蒸気で蒸すことでワニス表面の変質を改善した(ペッテンコッファー法)(fig.7)。
- ・擦り傷などで絵具の欠損した部分に水彩絵具で補彩を行った。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成(fig.8)。(石井 亨)

※館報47号(1998年度) pp.93-95参照



fig.6 画面のクリーニング

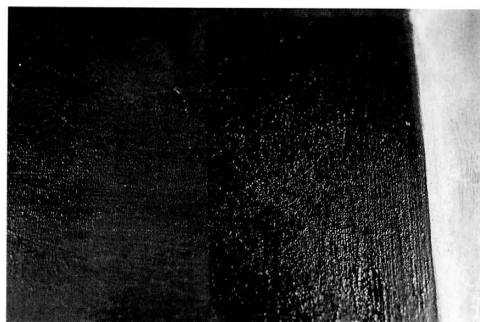


fig.7 ワニス表面の変質を改善(右が処置後)



fig.8 処置後 全図

安井曾太郎

《玉蟲先生像》

1944年

油彩・カンヴァス

47.5×39.3×2.0cm

石橋美術館

日洋144

作品の状態

木枠は員数5本の日の字型で、楔穴があるが、楔はない。1978年安井曾太郎展出品票の貼付がある。画布の張りは緩い。木枠、画布ともに裏面全体に埃汚れがある。画布の下辺張りしろに下塗りとしての衣服の描画が続いており、仕上げの前に構図の変更が行われたと考えられる。同部分は張

りしろに釘穴があり、張り直しの痕跡がある(fig.4)。画面に向かい右下、サイン付近に画布のふくらみがあり、木枠との間に異物が挟まっている。画布が木枠に当って生じた画布の変形が人物周囲と中央にある。同部分は絵具層の亀裂および浮き上がりがあるが(fig.3)、以前に接着を試みた形跡がある。画面に向かい左側背景部分に、絵具層の浮き上がりがある。背景に変色した補彩があり、紫外線を照射し蛍光反応を観察したところ、背景と人物の肌色にワニスの上からの補彩が点在していた(fig.2)。美術館には修復記録は存在せず、1960年に入手する以前の処置と考えられる。画面周囲に地塗り層からの剥落がある。ワニスはやや変色がある(fig.1)。



fig.1 処置前 全図



fig.2 処置前 紫外線蛍光写真



fig.3 絵具層の浮き上がり

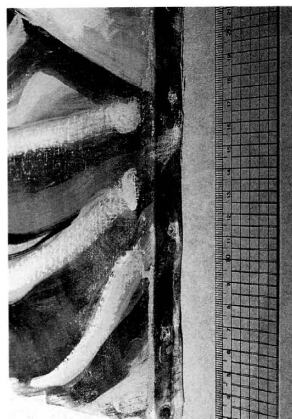


fig.4 下辺張りしろ部分の描画と張り直しの痕跡

処置方針

絵具層の浮き上がりを接着し、絵具層および地塗り層の欠損部分に充填、補彩を施す。画布に適切な張力をあたえ画布のゆるみに起因する損傷を予防する。

画面の埃汚れを除去する。変色した補彩は除去し、必要があれば補彩する。

木枠と画布の間にある異物を除去し、裏面を清掃する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層、地塗り層の浮き上がりを修復用接着剤 BEVA D-8で接着した。
- ・裏面を清掃し、木枠と画布の間の異物を除去した。電気コードなどを固定するステーブルが入っていた。画布の異物により変形した部分は

画布裏面を軽く湿し、画面側からシリコンシート越しに電気鋺で加温し修正した。

- ・エタノールとミネラルスピリットの混合液を用いて、補彩を除去した。補彩の変色が絵具層に染みをつくっており、これは軽減することができなかった。
- ・エタノールとミネラルスピリットの混合液を用い、ワニス除去した。ワニスにはワックスのような成分が含まれていた。
- ・楔を新調し、画布の張りの調整をした。
- ・絵具層、地塗り層の欠損部分に膠と胡粉で出来た塑型材を充填し(fig.5)、水彩絵具で補彩を行った(fig.6)。補彩絵具により変色した部分は鑑賞上の妨げにはならない程度なので補彩は行わなかった。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成(fig.7, 8)。(坂井史恵)



fig.5 充填整形後



fig.6 補彩後

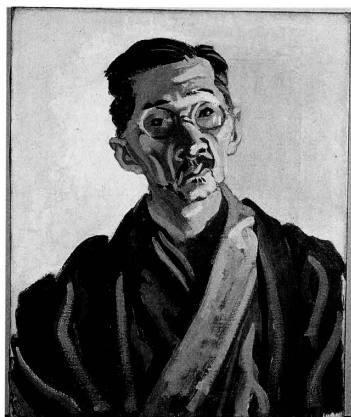


fig.7 処置後 全図

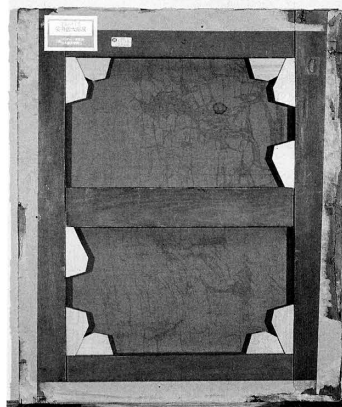


fig.8 処置後 裏面図

安井曾太郎

《桜》

1946年

油彩・カンヴァス

60.5×55.0×2.1cm

ブリヂストン美術館

日洋145

作品の状態

木枠は口の字型で、左上に出品票が貼付けられている。画布の張りは良好。画面右上角の画布は1cm²程欠損しており、欠損部分の周囲は焦げ茶色に変色している (fig.2)。画面中央画布の穴には応急的に穴の掛け接ぎがしてある。穴周囲の絵具層は地塗りごと剥落している。

下辺張り代には2cmほどの折り込まれた描画部分がある (fig.1)。同部分の絵具層は地塗りからの浮き上がりとし剥落が著しい。画面全体を下方にずらし、上辺から2cmの幅で空を追加、加筆してある。地塗層のない部分への加筆なので、見た目に多少の違和感がある。画面上方、白色部分に絵具層の浮き上がりがある (fig.3)。

額のグレージングはアクリル、裏面は応急的な改善が為されている。

処置方針

貸し出しに際し安全に輸送できる状態にする。絵具層の剥落部周辺を固定し、画布の穴をふさぎ、額装の改善を行う。

ほかに、画面の埃汚れの除去、絵具の欠損した部分の充填、補彩、裏面の清掃を行う。

額のグレージングは低反射ガラスに変更する。

額は作品に対し明色の金箔が使用されており画面がより暗く見えているので、額の明度を調整する。本額と類似した形状の額に裂を貼って安井が使用した額を例に、模様などを追加する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層、地塗り層の浮き上がりを修復用接着剤 BEVA D-8 で接着した (fig.4)。
- ・画面全体を水で湿した綿棒でクリーニングした。
- ・右上角の画布の欠損部分に、端をそいだ麻布を用意し裏面から当て、シート状の修復用接着剤 BEVA で接着し補強した (fig.5)。
- ・絵具層の剥落部分に膠と胡粉でできた塑型剤を充填した後、水彩絵具で補彩した。
- ・裏面を清掃した。
- ・軽くワニスを塗布し、発色の調整をした。



fig.1 処置前 下辺張りしろの描画



fig.2 画布の欠損

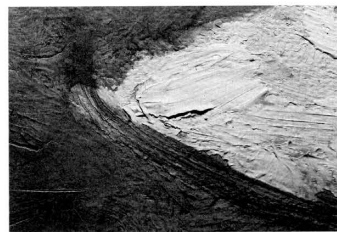


fig.3 絵具層の浮き上がり



fig.4 絵具層の浮き上がりを接着後



fig.5 画布欠損部分の補修後

・グレージングを低反射合わせガラスにし、これに伴う額の構造の改造(アルミフレームの入れ子装着, ドロアシの追加, 裏面の裏板の交換)を行った。額に模様を入れ, 全体にいぶし, 落ち着いた色味にした(fig.6)。これらの作業は並木木工所に依頼した。

・処置後の写真撮影および報告書を作成。

(坂井史恵)

関根正二

《子供》

1919年

油彩・カンヴァス

61.1×45.8×2.2cm

ブリヂストン美術館

日洋178

作品の状態

木枠は中棧のある日の字型で, 比較的新しい楔がついている。画布は再利用されており, 下層に別の図柄が描かれている(fig.1)。

人物の鼻下に鉛筆による落書きがある(fig.2)。人物の両袖部分に古い損傷があり朱色絵具による充填を兼ねた補彩があるが, 経年によって変色し色が合わなくなっている。このうち, 右袖部分の画布には破れがあり, 破れた穴を塞ぐ絵具が裏面からも観察できる。左袖部分に5mmほどの地塗り層からの欠損がある。ワニスは厚く塗布され, 光沢がある。ワニスは絵具層の亀裂の形に沿うように裏面画布に染みこんでいる。従って, このワニスは後補のものと考えられる。

処置方針

人物鼻下の落書きはワニス下にあるので, 少なくとも該当部分のワニスは除去する必要がある。



fig.6 処置後 額装全図

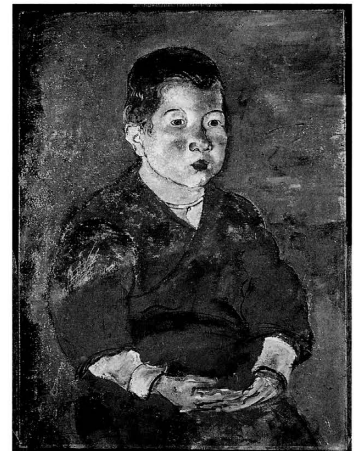


fig.1 処置前 全図

このワニスは落書き後に塗布されたものであり、作者によるものである可能性はない。

画布の穴は塞ぎ、旧補彩を軽減する。絵具の欠損部分には充填，補彩を行う。

ワニスを再塗布し，光沢と発色を調整する。

処置内容

- ・ 作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・ 鼻下のワニスをミネラルスピリットで除去し，落書き部分をプラスチック消しゴムの粉で除去した(fig.3)。
- ・ ミネラルスピリットで画面全体のワニスを軽減した。

- ・ 変色した旧補彩の内，画面より高さのある部分や，はみ出している部分をメスで削った(fig.4)。
- ・ 画布の穴に補強として麻糸をほぐした繊維をあて，修復用接着剤 BEVA D-8で接着した。
- ・ 絵具層の欠損および充填の不十分な部分に膠と胡粉でできた塑型剤を充填した。
- ・ 充填した部分と変色した旧補彩部分に水彩絵具で補彩を行った。
- ・ マスチック樹脂によるワニスを軽く塗布し，発色の調整をした(fig.5)。
- ・ 処置後の写真撮影および報告書を作成。

(石井 亨)

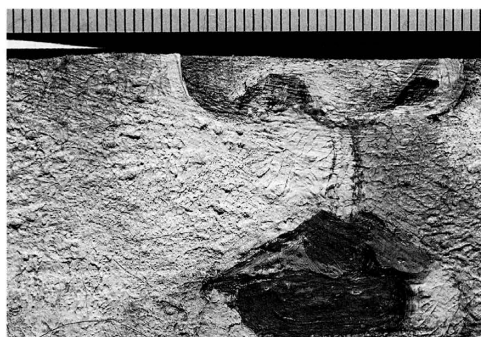


fig.2 処置前 人物鼻下の鉛筆による落書き



fig.3 鉛筆による落書きを除去



fig.4 補彩を軽減する



fig.5 処置後 全図

安井曾太郎

《安倍能成君像》

1955年

油彩・カンヴァス

66.9×47.0cm

ブリヂストン美術館

日洋217

作品の状態

木枠は中棧を含む日の字型で、楔は揃っている。

画布の張りがゆるく、画面に対し水平方向に波打ち状の変形がある (fig.1)。

絵具層には作者の描画技法に起因する細かい縮緬皺が広範囲に見られる。

画面右上に絵具層表層の剥落がある。画面周囲には額に当たり生じた絵具の凹み、摩耗、剥落および擦れ汚れがある (fig.2)。

額のグレージングは3mm厚の亚克力板が使用されており、反射と歪みが目立つ。額は金箔を押し付けたもので、幅の広く平滑な面に特徴がある。



fig.1 処置前 斜光線図

処置方針

貸し出しに際し安全に輸送できる状態にする。

絵具層の剥落周囲を接着剤で固定する。

画布に適切な張力をあたえ画布のゆるみに起因する損傷を予防する。

画面の埃汚れを除去する。周囲の汚れを軽減し、擦り傷は必要があれば補彩する。

額のグレージングは低反射ガラスに変更する。

額は作品に対し明色の金箔が使用されており画面がより暗く見えているので、額の明度を調整する。安井の作品には本額と類似した形状の額に裂を貼って使用したのものが、これを参考に模様などを追加する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がりを修復用接着剤 BEVA D-8 で接着した。
- ・ドライクリーニングの後、精製水で画面を洗浄し汚損を除去した (fig.3)。

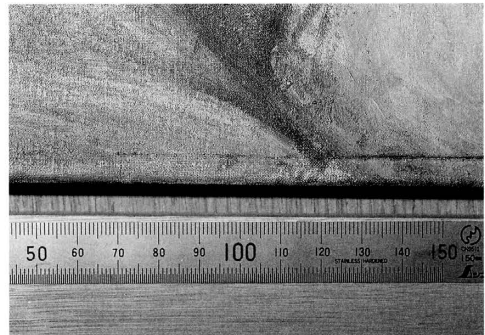


fig.2 処置前 画面周囲の擦れ汚れ

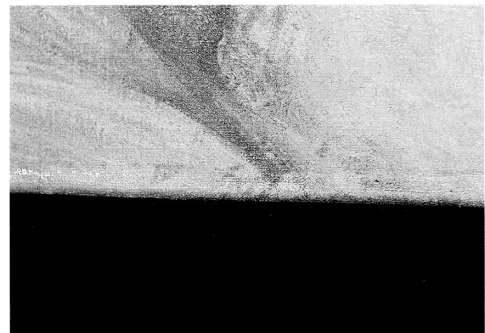


fig.3 汚れを除去後

- ・ 楔を調整し、画布の波打ち変形を改善した。変形の強い部分は裏面画布から変形部分を軽く湿し修正した。
- ・ 絵具層の剥落部分に水彩絵具で補彩をした。
- ・ グレージングを低反射合わせガラスにし、それに伴い入れ子部分の改造と裏面の補強を行った。
- ・ 額に模様を入れ、全体にいぶし、落ち着いた色味にした(fig.4)。額への作業は並木木工所に依頼した。
- ・ 処置後の写真撮影および報告書を作成。

(坂井史恵)

満谷国四郎

《瀬戸内海風景》

1928年

油彩・カンヴァス

37.9×45.5×2.2cm

石橋美術館

日洋234

作品の状態

木枠は中棧を含む日の字型で、楔穴はあるが楔はない。右木枠に文房堂のラベル貼付、中棧に墨書で「満谷国四郎氏作」、左木枠に墨書で「九段安田蔵」と記入がある。画布にたるみがあり、木枠当たりがある(fig.1)。画布裏面は冠水跡がある。画布に埃汚れの付着が著しい。白色の地塗りが施された既製の画布を使用している。地塗り塗料は水溶性である。下辺に画布のふくらみがあり、木枠との間に異物が挟まっている。画面は、周囲の額に隠れていた部分を除き、埃汚れなどの吸着が著しい(fig.2)。画面下方に1cmほどの地塗層からの剥落(fig.3)があるほか、粉状に絵具層の細かい剥落が点在している。引っ掻き傷、擦り傷がある。画面右下にサインと年記がある。絵具層は油分が少なく、白亜化が進行しており、ワニスは塗布されていない。

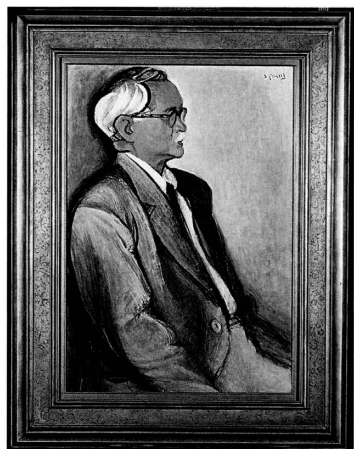


fig.4 処置後 額装全図

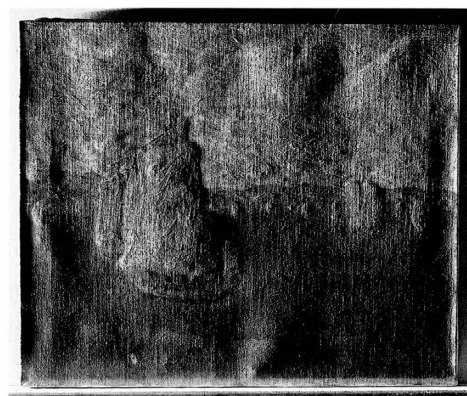


fig.1 処置前 斜光線図

処置方針

画面、裏面の汚れを除去する。画面は地塗りが水溶性であること、絵具層が粉状で脆いことから、水を使用せず乾式で除去する。

絵具層の剥落周囲を接着剤で固定する。

画布と木枠の間の異物を除去する。

画布に適切な張力をあたえ、画布のゆるみに起因する損傷を予防する。

擦り傷は必要があれば補彩する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・プラスチック消しゴムの粉で画面の汚れを清掃した。汚れは絵具層に入り込んでおり、多少

軽減した程度の除去となった。

- ・絵具層の浮き上がりをチョウザメ膠で接着した。
- ・画布と木枠の間の異物を除去した。
- ・画布裏面の清掃をした。
- ・タックス間の画布を引き、ステンレスのステーブルで固定し画布の張りを調整した。ステーブルからの錆や押し跡を避けるための緩衝材として、中性紙ボードを画布とステーブルの間に挟んだ(fig.4)。
- ・地塗り層、絵具層の剥落部分に胡粉と膠で出来た塑型材を充填し成形した後、水彩絵具で補彩をした。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成(fig.5)。

(石井 亨)

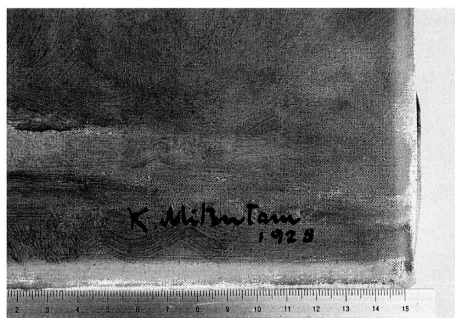


fig.2 処置前 画面は埃汚れの吸着が著しい

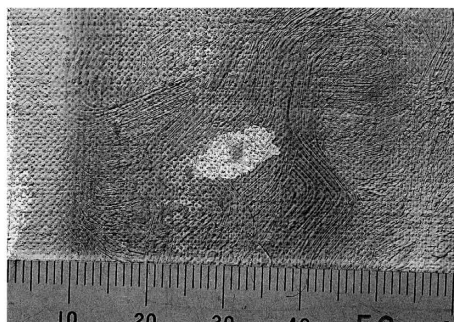


fig.3 地塗りからの剥落

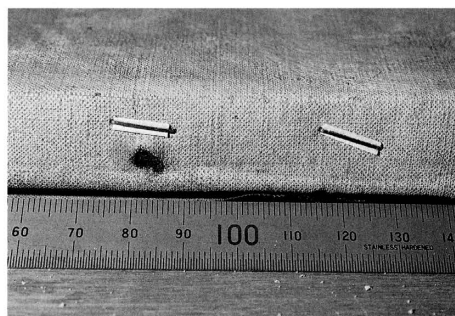


fig.4 画布張りを調整しステーブルで固定

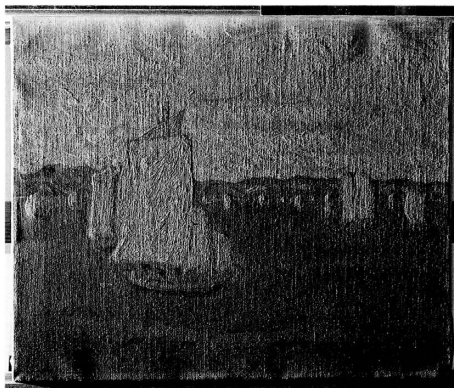


fig.5 処置後 斜光線図

海老原喜之助

《青年像》

1944年

油彩・カンヴァス

50.2×44.2×2.4cm

石橋美術館

日洋286

作品の状態

作品は裏面を格子状にした木製パネルに張り込まれている。画布の張りしろ周辺の地塗り層には剥落があるが、ワックスの含浸により固定されている。上辺のタックスは錆に覆われている。以前の接着処置と考えられるワックスが画面全体に入り画布はパネル面に接着されているが、画面中央

などには画布とパネルを接着しているワックスが効かなくなり、画布が浮いている部分がある (fig.2)。人物周辺には絵具層の浮き上がりおよび剥落がある。画面全体に補彩が点在しており、主に絵具層の亀裂、浮き上がりおよび剥落部分に対して行われている。一部の補彩は変色しているように見える。画面周囲の広い範囲には人物周辺の補彩とは異なる筆致で薄く塗布されている部分も認められた。薄く塗布されている部分は他の部分より古く見え、紫外線を照射し蛍光反応を観察すると、この2種類の補彩の反応は異なっていた (fig.3)。画面右下に署名がある。画面はワックス成分が表面に残りややマットな質感がありくすんでいる (fig.1)。

額のグレージングはガラス。グレージングは白

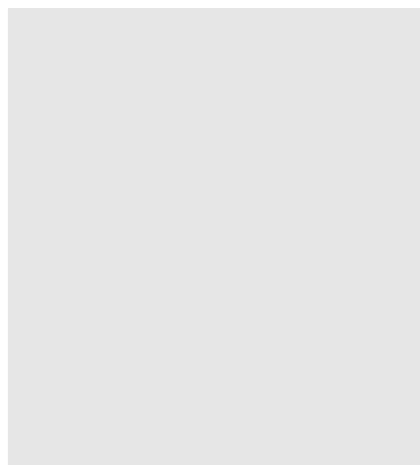


fig.1 処置前 全図

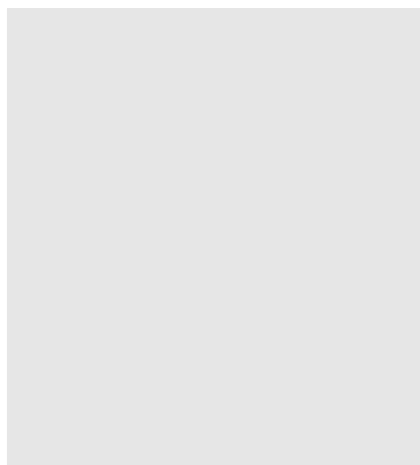


fig.2 処置前 斜光線図

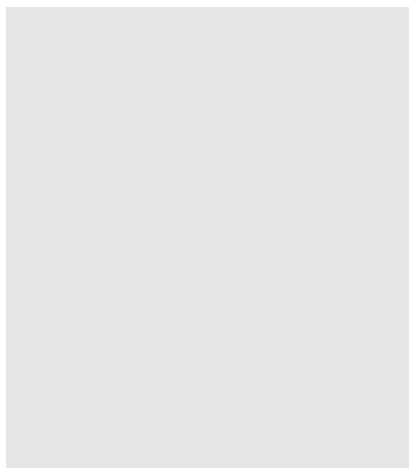


fig.3 処置前 紫外線蛍光写真

色の麻布を貼った幅広の入れ子で押さえられている。額は明るい金色のルイ16世様式風で、外側に縄目模様、内縁に玉模様が施されている。額色は明色の金色。応急的に紙の裏板が付いている。作品と額はT字金具で固定されている。

処置方針

絵具層の浮き上がりおよび剥落を接着剤で固定する。

画面を軽く洗浄する。

色調の合っていない補彩は可能な限り除去する。周囲にある薄い塗りは、筆致の様子が作品と似ており加筆の可能性も考えられること、除去をしても肯定的な結果になることは考えにくいことから、このまま残すこととする。

画布とパネル間の浮き上がりを接着する。

絵具層の剥落部分に充填後、補彩をする。

額のグレージングは低反射ガラスに変更する。これに伴い額の構造を改善する。額の金箔が明るすぎるので、作品の色調が沈んで見える。これを解消するため額に塗装を加え明度を調整する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がり部分を、作品に残るワックスを利用しシリコンシート越しに電気鋺で加温

し接着した。接着しきれない部分には BEVA D-8 を塗布しシリコンシート越しに電気鋺で加温し接着した。

- ・画布の浮き上がり部分は、作品裏面に残る既存のワックスを利用した。シリコンシート越しに鋺と小型アイロンで加温しワックスを溶かしパネルに再接着した。
- ・消しゴム粉によるドライクリーニングの後、画面上に残る汚損したワックス等をミネラルスピリットで除去し、画面を洗浄した。
- ・変色し色の合わなくなった補彩をエタノールで除去、軽減した。
- ・絵具層欠損部分に胡粉と膠で出来た塑型材を充填し整形した。
- ・画面にダンマルワニスを軽く塗布し発色と光沢を調整した。
- ・水彩絵具で充填部分に補彩をした。
- ・グレージングを低反射合わせガラスにし、これに伴う額構造の改善(ステンレス製補強フレームの装着, ドロアシの追加, 裏面の裏板の交換)を行った。額表は額の金色を生かしながら全体に焦げ茶色を塗布し落ち着いた色味にし、あわせて入れ子を箔押ししたものに交換した(fig.4)。これらの作業は並木木工所に依頼した。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成。

(坂井史恵)

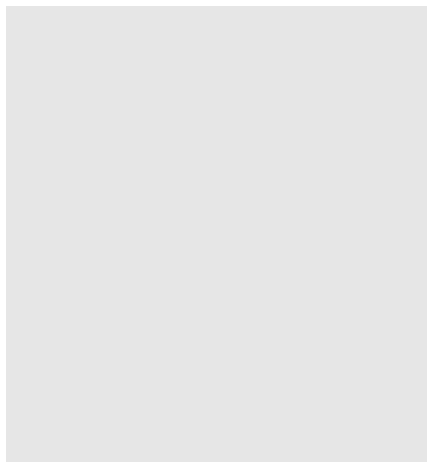


fig.4 処置後 額装全図

坂本繁二郎

《牛》

1920年

油彩・カンヴァス

71.2×116.9×2.4cm

石橋美術館

日洋301

作品の状態

木枠は中棧が2本ある目の字型で、右木枠に草人社のラベルが貼付けられている。楔穴はあるが、楔は5箇所を残し欠落している。作品は画面部分で切り取られており、亜麻布で裏打ちされた後、木枠に張り込まれている。切り取られた画面は木枠の寸法よりも切り取られた画面は小さい。画布の折れ跡などが目立つ。画面に絵具層の浮き上がりや剥落が点在している。剥落部分の多くは白色地塗り又はキャンバスが露出しており、目立つ。画面中央より右、木の幹部分の絵具層には長さ3cmほどのテント状の浮き上がりがある。額の刃先にあたる部分の絵具層(補彩または補筆を含む)には、強く押されて生じた極端な潰れや盛り上がり

などの変形がある。また、額からはずす際に生じた額の一部と考えられる木片が付着しているほか、裏打ち布と画布の境目を隠すように塗られていた絵具層の一部が剥落している (fig.2)。

絵具層の浮き上がりや剥落部分の上から油絵具を用いて補彩された箇所が多い。特に、上辺や左辺の裏打ち布が広く露出する部分は絵具層の損傷部分とともに油絵具で幅広く帯状に塗り込められている。ワニスが塗布され、半光沢の質感となっている (fig.1)。

処置方針

絵具層の浮き上がりおよび剥落を接着剤で固定する。

付着した木片は除去する。

補彩部分は色調が画面に馴染んでおり坂本作品としての違和感はないことからそのまま残すこととする。

絵具層剥落部分に充填後、補彩をする。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がり部分に修復用接着剤 BEVA D-8を用いシリコンシート越しに電気鍍で加温し接着した。
- ・画面に付着した木片を除去した。
- ・絵具層、地塗り層欠損部分に胡粉と膠で出来た塑型材を充填し整形した後 (fig.3)、水彩絵具で補彩した (fig.4)。
- ・処置後の写真撮影 (35mmカラーネガフィルムのみ) および報告書を作成。

(坂井史恵)

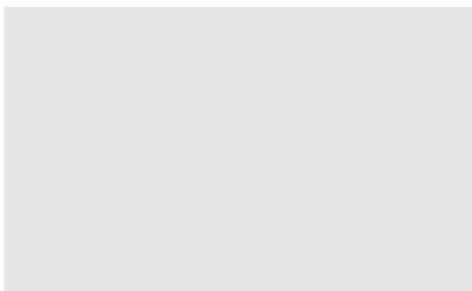


fig.1 処置前 全図

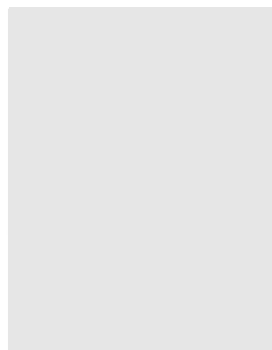


fig.2 処置前 絵具層が剥落し、裏打ち布が露出している

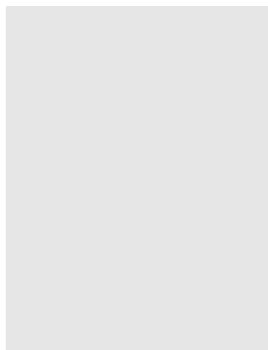


fig.3 充填整形後

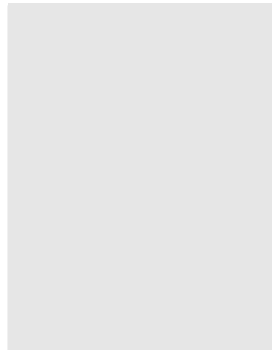


fig.4 補彩後

岡田三郎助

《富士山》

1918年

油彩・板

21.4×26.8×0.3cm

石橋美術館

日洋522

作品の状態

合板の支持体の表裏両面に水溶性の白色地塗り層が刷毛で厚く塗布されている。支持体の合板には裏面に向かい反りがある。裏面には冠水跡や乾性油またはワニスが染みこみ黄変した部分がある。焦茶色の絵具による署名がある (fig.1, 2)。

画面は周囲に額擦れおよび地塗り層からの絵具層の欠損がある (fig.3)。全体に、埃汚れや虫糞によりくすんでいる。支持体に油分が吸収され艶消しの画面になっている。

処置方針

絵具層の剥落部分を接着剤で強化する。

画面の洗浄および付着物を除去する。

現状ではつや消しの画面となっているが、描画時には艶があったと考えられるので、保護ワニスによる艶の調整を行う。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層、地塗り層の剥落部分を修復用接着剤 BEVA D-8 を使用し強化した。
- ・画面全体を水で湿した綿棒でクリーニングした。
- ・虫糞など付着物は、メスで掻き取った。
- ・絵具層欠損部分に膠と胡粉による塑型材を充填し整形した後、水彩絵具で補彩を行った (fig.4)。
- ・マスチックワニスを塗布し光沢の調整をした。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成 (fig.5)。

(石井 亨)



fig.1 処置前 全図

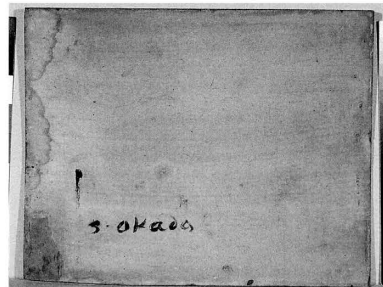


fig.2 処置前 裏面図

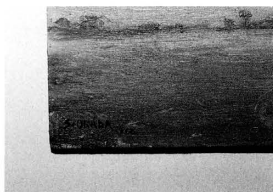


fig.3 絵具層の剥落



fig.4 画面洗浄，絵具層欠損部に充填，補彩後

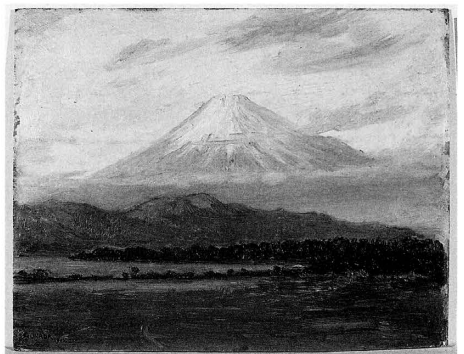
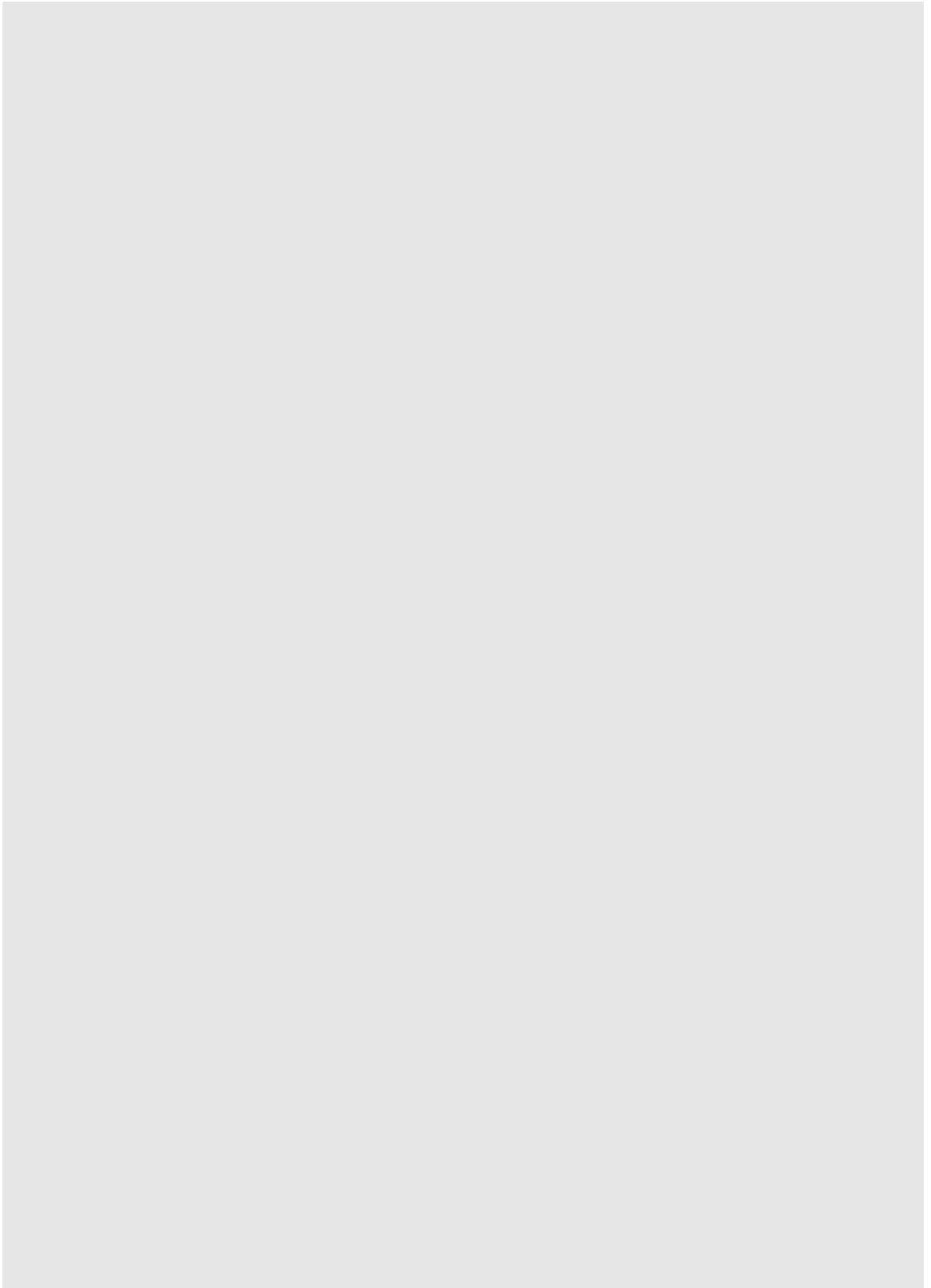


fig.5 処置後 全図



坂本繁二郎

《町裏》

1904年

油彩・カンヴァス

80.3×60.8×2.0cm

石橋美術館

寄託作品

作品の状態

木枠は中棧一本を含む日の字型で、楔穴はあるが楔は無い。張りしろには張り込み時の画布の破れ、釘錆による画布の腐食がある。画布は張り直されており、釘穴が多く、張りしろは脆弱になっている。張り直し時に画面の構図がずれ、上辺張りしろに1cmほど画面が回っている。既製の地塗りを施した画布が使用され、地塗りの塗料は明灰色または白色。画面に対し横方向に、画布を木枠からはずし巻いて保管した際に生じる画布の変形を伴う亀裂が多数存在する。画布中央よりやや下に、横一列に並ぶように画布には小さな穴が開いている。

絵具層は画布の折れ(巻きじわ)による絵具層の亀裂が多い。人物の顔周辺に絵具層の剥落が目立つ(fig.2)。画面上方に画布の折れによる絵具層の浮き上がりや剥落がある。そのほか、擦れによる絵具層の損傷が多い。

ワニスは塗布されているが、だいぶ光沢が退けている(fig.1)。

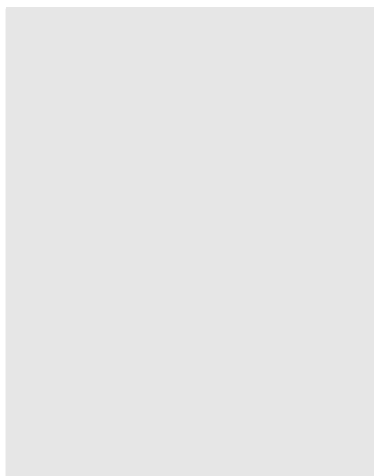


fig.1 処置前 全図

額のグレージングにはガラスが使用されている。ベニヤ板の裏板をねじ止めし、紙張りテープで目止めが施されていた痕跡がある。

処置方針

絵具層の剥落防止と美観上の回復を主な目的とする。

絵具層の浮き上がり部分を接着。

画布裏面の清掃。

画布の穴を繕い、画布の変形を修正(木枠からはずし、変形修正)。

画面全体の洗浄、ワニスの除去。

画布張りしろの補強および木枠の補修後、張り直し。

絵具層および地塗り層の欠損部分に充填、補彩を行う。

額のグレージングを低反射アクリルに変更、これに伴い、裏面のドロアシの改善を行う。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がり部分を修復用接着剤 BEVA D-8で接着した。
- ・画布裏面を清掃した。
- ・画布穴の繕いをした。

- ・木枠から画布をはずした後、仮枠に水張りテープで張り、湿した紙が乾く際に収縮する力を利用して画布の変形修正を行った。
- ・画面を水で湿した綿棒で清掃した後、エタノールをミネラルスピリットで希釈した溶剤でワニスを除去した。
- ・木枠の釘穴を木材で充填し補修した。画布張りしろ補強のため、片側を薄くそいだ亜麻布を用意し、シート状の修復用接着剤 BEVA D-8で張りしろの裏面に接着した。画布を木枠に張り込んだ。その際、張りしろの釘穴の位置にステンレス製のタックスを打ち込み、画布とタックスの間に緩衝材としてシリコンシートを挟み込んだ。また、張りの調整としてタックスの間にステンレス製のステーブルを打ち、固定した。画布とステーブルの間には緩衝材として中性紙ボードを挟み込んだ。
- ・絵具層の欠損した部分に膠と胡粉による塑型材を充填した後(fig.3)、水彩絵具で補彩した(fig.4)。
- ・ダンマルワニスを塗布し、画面の光沢と発色を調整した。
- ・額のグレージングを低反射アクリルに変更した。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成。

(石井 亨)

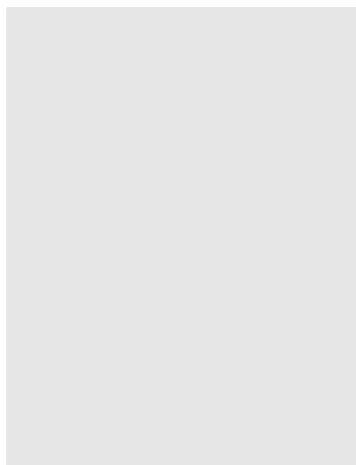


fig.2 処置前 絵具層の剥落

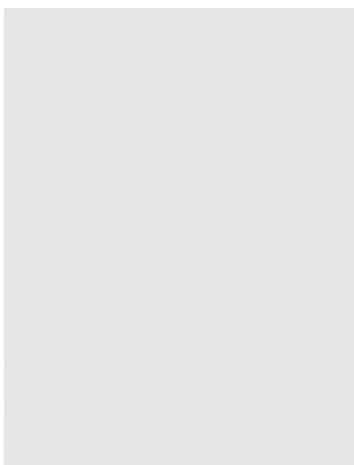


fig.3 充填整形後

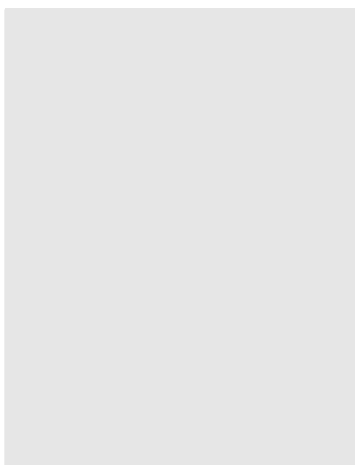


fig.4 補彩後

坂本繁二郎

《新聞》

1910年

油彩・カンヴァス

80.4×61.0×2.3cm

石橋美術館

寄託作品

作品の状態

木枠は中棧一本を含む日の字型で、楔穴はあるが楔は無い。張り代に釘穴があり、張り直した様子がある。既製の白色地塗りが施されている。左上に画布の折れがある。画面に対し横方向に画布の変形を伴う亀裂が平行に多数存在することから、以前画布を木枠からはずし、巻いて保管していたことがあったと考えられる。画布中央より下方に2×10mm程の画布の破れがある。

画面には主に画布の折れに起因する絵具層の剥落、擦れや当たりによる絵具層の剥落が点在している。人物袖部分に絵具の変質または結晶の析出があり、光沢は無く白濁している。

ワニス層に絵具の剥落片が混じっている。ワニスは絵具層の固着が弱くなってから塗布されたもので、塗布の際に剥落した絵具片がワニスの中に移動し、そのまま固定されたと考えられる(fig.1)。

額のグレージングはガラスで、画面側に徴跡がある。裏面裏板に紙を貼ったベニヤ板を取り付けている。吊り金具は3cm程の小さなもので、二重に使用し強度を保たせようとしている。

処置方針

絵具層の剥落防止と美観上の回復を主な目的とする。

絵具層の浮き上がり部分を接着。

画布の穴を繕う。

画面全体の洗浄，ワニスの除去。

絵具層および地塗り層の欠損部分に充填，補彩を行う。

額のグレージングを低反射アクリルに変更，これに伴い，裏面のドロアシの改善を行う。吊り金具は適した強度のあるものに交換する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がり部分を修復用接着剤 BEVA D-8で接着した。
- ・画布裏面を清掃した。
- ・画面を水で湿した綿棒で清掃した後，ミネラルスピリットで軽く洗浄した。
- ・画布穴の繕いをした。
- ・絵具層の欠損した部分に，膠と胡粉による塑型材を充填した後(fig.2)，水彩絵具で補彩した。
- ・ダンマルワニスを塗布し，画面の光沢と発色を調整した(fig.3)。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成。

(坂井史恵)

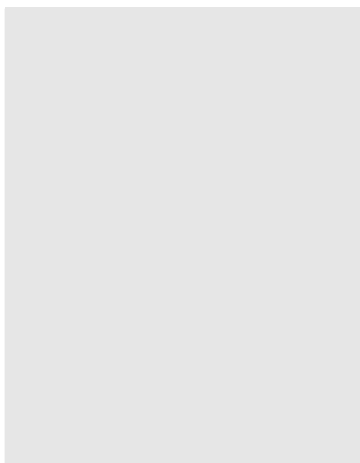


fig.1 処置前 全図

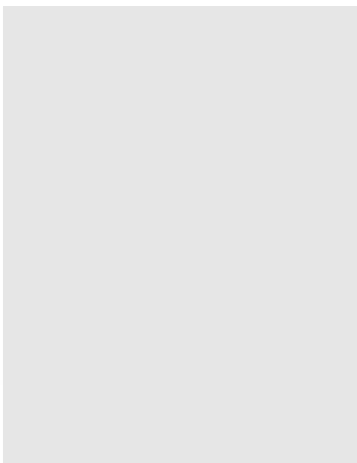


fig.2 充填整形後

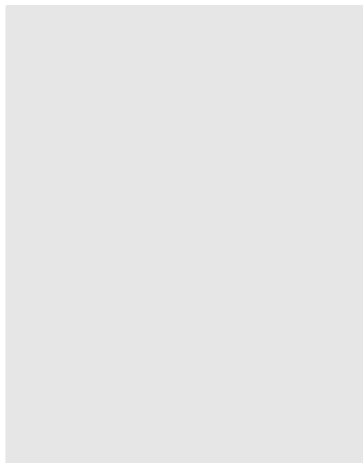


fig.3 処置後 全図

坂本繁二郎

《婦人像》

1922-68年

油彩・カンヴァス

81.4×65.2×2.3cm

石橋美術館

寄託作品

作品の状態

木枠は中棧一本を含む日の字型で、楔穴は四隅にある。楔は3本欠損し5本残っている。木枠は裏面にやや反る変形がある。画布裏面全体に水染みのようなものがある。張りしろに釘穴があり、張り直した痕跡がある。画布は張りが緩く、作品移動時に画布が大きく揺れる。画布には隅じわや部分的な変形がある。画面右下に画布のふくらみがあり、木枠との間に異物が挟まっている。

画面には広い範囲に絵具層の浮き上がりおよび剥落が点在している (fig.1)。それらの多くには油絵具によって塗り直すように補彩がある。この補彩は人物の顔とその周囲に顕著に確認できる (fig.2)。補彩後さらに剥落の進行した部分もある。額内側に絵具層の段差がそのまま残っており、画面に凹凸が生じている。

ワニスは存在しない。

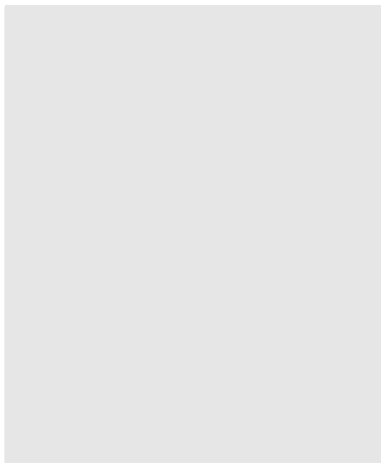


fig.1 処置前 斜光線図

処置方針

絵具層の剥落が進行することを防ぐため、絵具層の浮き上がりの接着および画布の張りを調整する。

補彩部分は作者による加筆である可能性が高いので、色調は下層に残る制作時のものと必ずしも調和しているわけではないが、このまま残すこととする。

今回行う美観的な補修は、絵具層が欠損し、補彩(加筆)の無い地塗り又は画布が露出している部分にのみ行う。

木枠と画布の間にある異物を除去し裏面を清掃する。

処置内容

- ・作品の状態調査および処置前の状態写真撮影。
- ・絵具層の浮き上がり部分を修復用接着剤 BEVA D-8で接着した。
- ・木枠と画布の間の異物を除去した。異物は木くずと埃くずであった。
- ・欠損部分の楔を新調し、画布の張りを調整した。
- ・絵具層の欠損した部分に膠と胡粉による塑型材を充填後 (fig.3)、水彩絵具で補彩した (fig.4)。
- ・処置後の写真撮影および報告書を作成。

(石井 亨)

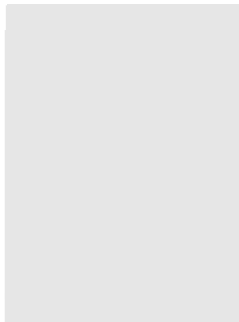


fig.2 処置前 絵具層の剥落

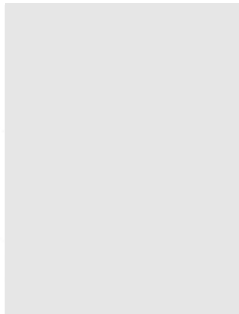


fig.3 充填整形後

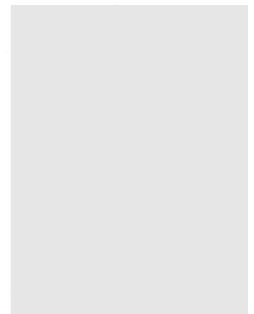


fig.4 補彩後

外版40

アンリ・ド・トゥルーズ=ロート
レック

『レスタンブ・オリジナル』第1
年次のための表紙》1893年

リトグラフ・紙

584×833mm 厚さ約0.15mm

本紙状態

本紙は不規則な矩形。4辺ともやや歪みのある切断痕あり。

中央に垂直の二つ折りの跡(表が山)。

左辺中央の折れ。この折れに沿って水平方向の波打ちあり。裏面のハترون紙の貼りつけが原因。

左辺と右辺に斜めの折れあり。

表全体に経年による軽度の変色あり。旧ウインドウマットからの露出部にマットバーンあり。

裏面全体に経年による軽度の変色あり。左辺, 旧ウインドウマットからの露出部に変色顕著。左辺際

に沿って変色顕著。両面にフォクシング状のもの点在。一部裏面から表への貫通あり。裏面のフォクシングには中央に茶色の核あり。UV 灯下では UV 吸収、濃い紫～黒に見える。

裏面に粘着テープ痕, 茶色に変色し表側に浸透。その他, 2ヶ所にフィルモプラスト P, 旧ヒンジ(ハترون紙と接着剤による), 上辺と下辺に数ヶ所と右辺に沿って多数, 上辺に旧ヒンジ(和紙と接着剤による)4ヶ所。

処置方針

旧ヒンジ除去 フォクシング処置
テープ粘着剤除去 フラットニング 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジをメス, 水分などを用いて除去した。

②フォクシング処置

裏面のフォクシングの核をメスで

除去した。

③テープ粘着剤除去

サクシオンプレートとアセトンで粘着剤を極力除去した。

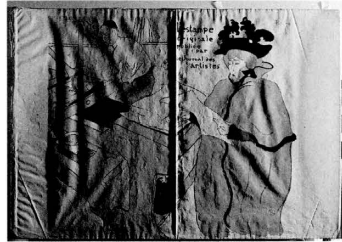
④フラットニング

本紙裏面4辺に和紙マージンをメチルセルロースで付け, 全体を軽く湿らせた後, 仮張りした。

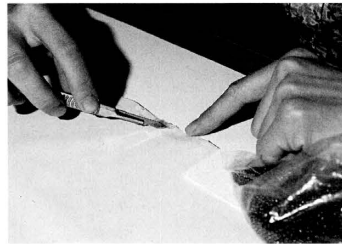
仮張りからはずした後, 和紙マージンを除去した。

⑤新ヒンジ

裏面周囲に適宜, 和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。



処置前 本紙表(斜光)



テープ粘着剤除去中

外版56

モーリス・ドニ

《慈愛》1893年

リトグラフ・紙

588×417mm 厚さ約0.15mm

本紙状態

両面全体に変色有り。部分的に変色の度合いが異なり, 変色の境界は比較的明解。

表周辺部スレ汚れ多し。

上辺, 下辺に水平方向の波うちあり。右下に折れあり。

右辺に折れあり, これは印刷時に

できたものと思われる。

裏面6ヶ所に旧ヒンジ, 各隅にある4つのヒンジの影響が表側に見られる。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版115

アンドレ・マッソン

《木の葉の上の男女》1954年

エッチング・紙

503×385mm 厚さ約0.32-0.33mm

本紙状態

画面サイズとプレートマークは同寸法。

表右下隅にテープ粘着剤と思われる付着あり。粘着剤は茶色に変色している。

本紙右辺, 左辺に波打ち, 水平方向に折れ2本あり。

画面裏面には変色(インクやけ)がみられる。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジあり。

処置方針

旧ヒンジ除去 テープ粘着剤除去

新ヒンジ

処置内容

①テープ粘着剤除去

表右下隅の粘着剤をアセトンとサクシオンプレートを用いて除去したが, 一部繊維の変色が残った。

②旧ヒンジ除去

裏面上辺2ヶ所の旧ヒンジを水分を与えて除去した。

③新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版119

マリノ・マリーニ

《二人の軽業師と馬》1955年
リトグラフ・紙

662×506mm 厚さ約0.38mm

本紙状態

表, 旧ウィンドウマットからの露出部に変色あり。

裏面全体に変色顕著。

裏面上辺両端, 左辺中央, 下辺右に旧ヒンジ付着。

処置方針

旧ヒンジ除去 洗淨 部分漂白
フラットニング 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②洗淨

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)で3回洗淨した。

③部分漂白

画面周辺の変色部に水酸化カルシウム水溶液(pH 10-11)を筆で与えて乾燥させた。

過酸化水素水(4%水溶液)にアンモニアを加えてpH 9に調整したもので変色部を漂白した後, ②と同様の水溶液で1回洗淨し自然乾燥させた。

④フラットニング

本紙をゴアテックスを用いて軽く湿らせ, 吸い取り紙の間に挟み加圧して乾燥させた。

⑤新ヒンジ

裏面上辺および下辺に和紙とメチルセルロースで適宜ヒンジを付けた。

外版123

マリノ・マリーニ

《二人の騎手》1956年
リトグラフ・紙

665×503mm 厚さ約0.37-0.38mm

本紙状態

本紙全体に波打ちあり。

両面全体に変色有り。特に裏面の変色は著しい。表下辺にマットバーンあり。

表下辺右に破れの補修あり。補修後目立つ。

表右下に鉛筆によると思われる線あり。

裏面4隅に旧ヒンジを剥がした際の水染みや表面欠損が見られる。裏面左辺に黒いスレ汚れあり。

処置方針

旧ヒンジ除去 旧補修部再処置
新ヒンジ

処置内容

①補修部処置

表下辺右の旧補修をはがし, 和紙とメチルセルロースで再補修した。

②旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

③新ヒンジ

裏面周辺に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版147

パプロ・ピカソ

《画室にて》1965年

アクアチント, エッチング, ドライポイント・紙

393×522mm 厚さ約0.43-0.5mm

本紙状態

画面とプレートマークは同寸法。プレートマーク内に平面変形が顕著。

表全体に軽い変色あり。4辺の際に沿って非常に濃い変色, 旧ウィンドウマットからの露出部にやや変色あり。裏面のヒンジ部分に対応する部分には変色があまり見られない。

裏面全体に顕著な変色有り。左下隅に変色の無い部分がある。

裏面上辺に旧ヒンジ付着。

処置方針

旧ヒンジ除去 洗淨 フラットニング 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。除去跡の変色は周りより薄かった。

②洗淨

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)にて3回洗淨後自然乾燥。

③フラットニング

本紙を軽く湿らせ吸い取り紙の間に挟み軽く加圧して平らにした。

④新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版152-2

オシップ・ザツキン

《ロダンに捧ぐ》1967年

石版・紙

560×758mm 厚さ約0.38-0.39mm

本紙状態

表, 旧ウィンドウマットからの露出部に沿ってマットバーンあり。

表上辺2ヶ所, 下辺1ヶ所に旧ヒンジあり。ヒンジによる部分変形が見られる。

裏面に表のインクの一部分が浸透し変色している。

本紙に押し跡がみられる。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

表3ヶ所の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面周囲に適宜和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版152-5

アンリ=ジョルジュ・アダム

《ロダンに捧ぐ》1967年

銅版・紙

761×567mm 厚さ約0.4mm

本紙状態

イメージの形状に沿ったプレートマークあり。

上辺と下辺に波打ちあり。

左辺と右辺に沿って折れ多数あり。

表, 旧ウィンドウマットからの露出部に軽度の変色有り。

表上辺2ヶ所, 下辺1ヶ所に旧ヒンジ付着。

裏面には表のインクによる変色あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

表3ヶ所の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面周囲10ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版160-48

マリノ・マリーニ

《二人の道化と馬》1960年

リトグラフ・紙

761×569mm 厚さ約0.35mm

本紙状態

表, 旧ウィンドウマットからの露出部に沿ってマットバーンあり。

表上辺2ヶ所, 左辺1ヶ所に旧ヒンジ付着。

表の赤いインクの一部分が裏面に浸透している。

裏面にスレ汚れあり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

表の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面周囲に沿って10ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版178

エドヴァルト・ムンク

《病める少女》1894年

ドライポイント・紙

597×441mm 厚さ約0.42-0.45mm

本紙状態

本紙四隅の角が裁断されている。プレートマーク内に平面変形あり。

上辺および下辺に沿って2本の折れあり。

本紙両面全体に変色あり。

旧ウィンドウマットからの露出部周辺に沿ってマットバーンあり。

マットとの接触部にも変色あり。両面数ヶ所に小さな茶色い点状のフォクシングあり。これらフォクシングに貫通は見られない。

表上辺左と裏面上辺中央にテープ粘着剤の付着あり。粘着剤は黄色に変色している。

裏面にスレ汚れあり。一部平面変形の形状に沿っている汚れが見られる。

処置方針

ドライクリーニング テープ粘着剤除去 旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①ドライクリーニング

裏面の汚れを練りゴムとプラスチック消しゴム(Staedtler社製, Mars plastic)でクリーニングしたが, ほとんど除去できなかった。

②旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

③テープ粘着剤除去

表上辺左と裏面上辺中央のテープ粘着剤をアセトンとサクシオンプレートを用いて除去した。

④新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版196-26

シャルル・モーラン

《パン2-1 母と子》

ソフトグランドエッチング・紙

365×275mm 厚さ約0.18-0.22mm

本紙状態

本紙に軽い平面変形あり。

本紙両面全体に変色あり。表上辺と右辺(裏面上辺と右辺)に変色が著しい。

両面とも旧ウィンドウマットからの露出部に変色あり。特に裏面の変色は顕著。

表, 画面およびマージン部にネガティブフォクシング(周辺部に比して白い部分)が数ヶ所見られる。

ネガティブフォクシングには貫通がみられるが, 裏面の面積のほうが小さい。

表右下に茶色の変色2ヶ所あり。一部変色が裏面に貫通している。

表左下に小さな濃い茶色の変色1ヶ所あり。裏面に貫通している。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジ付着あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 洗浄 フラットニング 補彩 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②洗浄

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)で3回洗浄した後自然乾燥。

③フラットニング

ゴアテックスを用いて本紙を軽く湿らせ, 吸い取り紙の間に挟み加圧して平らにした。

④補彩

画面中央の白く抜けた部分に色鉛筆で補彩をした。

⑤新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版196-34

ヴィルヘルム・フォルツ

《パン2-3 サロメ》

リトグラフ・紙

376×282mm 厚さ約0.17-0.18mm

本紙状態

両面全体に経年による変色あり。

両面とも旧ウィンドウマットからの露出部に変色顕著。裏面は左下斜めに特に変色程度の著しい部分がある。

上辺と右辺の一部、下辺に沿って著しい変色(こげ茶色)があり、裏面にも同様に見られる。

表下辺左に濃い茶色の変色部あり。

裏面上辺に旧ヒンジあり。

処置方針

旧ヒンジ除去 洗浄 フラットニング 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②洗浄

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)で3回洗浄した後自然乾燥。

③フラットニング

本紙に軽く湿りを与え、吸い取り紙の間に挟み加圧して平らにした。

④新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版196-61

モーリス・ドニ

《パン3-3 母と子》1897年頃

リトグラフ・紙

369×279mm 厚さ約0.19mm

本紙状態

本紙に軽い平面変形あり。画面裏面に水平方向の縞状のおうとつが見られる。

両面全体に変色あり。

表、旧ウィンドウマットからの露出部に薄い変色あり。

裏面、旧ウィンドウマットからの露出部に対応する部分に変色顕著。裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジ(和紙)あり。右辺に沿って製本時に付けられたヒンジ付着。

裏面に2ヶ所黒い汚れあり。

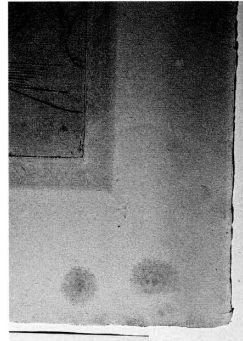
処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①ヒンジ

旧ヒンジ(和紙)はマウントから切断せずに剥離できたため、そのまま再使用した。



処置前 茶色の変色



処置前 ネガティブフォクシング

外版196-78

ペーター・ペーレンス

《パン4-2 無題(接吻する二つの頭部)》1897年

木版・紙

372×274mm 厚さ約0.12-0.13mm

本紙状態

本紙に軽い平面変形あり。

画面に規則的な水平方向のおうとつが見られる。

両面全体に変色あり。裏面のほうが変色顕著。

表上辺に沿って埃汚れあり。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジ付着。

裏面のpHは5(酸性)であった。

処置方針

旧ヒンジ除去 洗浄 フラットニング 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②洗浄

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)で2回洗浄した後自然乾燥。

③フラットニング

本紙をゴアテックスを用いて軽く湿らせ、吸い取り紙の間に挟んで加圧して平らにした。

④新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版219

ルイ・アंकタン

《騎士と乞食》1893年

リトグラフ・紙

418×563mm 厚さ約0.13-0.14mm

本紙状態

本紙両面全体に変色あり。

裏面上辺に旧ヒンジ付着。

裏面右下、表面が毛羽立っている。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面上辺の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版245

ベン・シャーン

《リルケ『マルテの手記』より一行の詩のために…8 思いがけぬ邂逅》1968年

リトグラフ・紙

573×451mm 厚さ約0.45-0.47mm

本紙状態

マット無し、本紙をはさんでいた中性紙は全体に変色している。下辺に平面変形(波うち)あり。本紙両面全体に軽度の変色あり。表数ヶ所にフォクシングあり。表下部に長期隣接していた他の作品からのインクの色移りが見られる。表のインクの一部が裏面に浸透している。

処置方針

新ヒンジ

処置内容

①新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所、下辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版246

ベン・シャーン

《リルケ『マルテの手記』より一行の詩のために…9 遠くから近づいてくるのが見える別離》

1968年

リトグラフ・紙

574×450mm 厚さ約0.25-0.35mm

本紙状態

マット無し、本紙をはさんでいた中性紙は全体に変色している。本紙表には旧ウィンドウマットからの露出部に変色あり。両面数ヶ所に薄い茶色のフォクシングが見られるが、貫通しているものは少ない。裏面全体的に変色があるが、周辺部は軽度。裏面には表のインクの一部が浸透

しており、変色が著しい。

裏面上辺中央と下辺中央にセロテープを剥がした痕跡あり。表面欠損の周辺に沿って粘着剤の付着が見られる。

処置方針

粘着剤除去 フォクシング処置

新ヒンジ

処置内容

①粘着剤除去

裏面の粘着剤をメスで除去した。

②フォクシング処置(部分漂白)

目立つフォクシングのみアンモニア水溶液(pH 10)、続いて炭酸水素カルシウム水溶液(0.1%)を塗布した。乾燥後過酸化水素水5%水溶液(アンモニアでpH 9に調整したもの)を用いて部分漂白を行った。

漂白後炭酸水素カルシウム水溶液(0.1%)を塗布した。

③新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所、下辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版248

ベン・シャーン

《リルケ『マルテの手記』より一行の詩のために…11 心を悲しませてしまった両親のこと》

1968年

リトグラフ・紙

573×449mm 厚さ約0.37mm

本紙状態

マット無し、本紙をはさんでいた中性紙は全体に変色している。下辺と右辺に平面変形(波うち)あり。本紙表には旧ウィンドウマットからの露出部に変色あり。裏面全体的に変色があるが、周辺部は軽度。裏面下辺中央にセロテープを剥がした痕跡あり。表面欠損とその周

辺に沿って粘着剤の付着が見られる。

両面とも上辺中央は水じみ状の薄い茶色の変色が見られる。表のほうに変色が濃い。裏面には一部に表面欠損を伴う。

表下部に長期隣接していた作品からのインクの色移りが見られる。表のインクの一部が裏面に浸透している。

処置方針

粘着剤除去 新ヒンジ

処置内容

①粘着剤除去

裏面中央の粘着剤をメスで除去した。水染み状の変色はエチルアルコールとサクシオンプレートで軽減した。

②新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所、下辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版254

ベン・シャーン

《リルケ『マルテの手記』より一行の詩のために…17 愛に満ちたあまたの夜の回想》1968年

リトグラフ・紙

572×448mm 厚さ約0.39-0.4mm

本紙状態

マット無し、本紙をはさんでいた中性紙は全体に変色している。下辺と右辺に平面変形(波うち)あり。本紙表には旧ウィンドウマットからの露出部に変色あり。左側の人物の頬に両面に貫通するフォクシングあり。表下部に長期隣接していた作品からのインクの色移りが見られる。裏面全体的に変色があるが、周辺部は軽度。表のインクの一部が裏面に浸透し

ている。

裏面上辺中央，下辺中央にセロテープを剥がした痕跡(粘着剤の付着)が見られる。粘着剤は薄い茶色に変色しているがベタつきは無い。

処置方針

粘着剤除去 フォクシング処置

新ヒンジ

処置内容

①粘着剤除去

裏面の粘着剤をプラスチック消しゴム(Staedtler社製，Mars plastic)とメスで極力除去した。

②フォクシング処置

目立つフォクシングのみアンモニア水溶液(pH 10)，続いて炭酸水素カルシウム水溶液(0.1%)を塗布した。乾燥後過酸化水素水5%水溶液(アンモニアでpH 9に調整したもの)を用いて部分漂白を行った。

漂白後炭酸水素カルシウム水溶液(0.1%)を塗布した。

③新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所，下辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版270

ヘンリー・ムア

《『生誕80年記念版画集』柱を背にすわる二つの人体》1976年

リトグラフ・紙

467×359mm 厚さ約0.37mm

本紙状態

本紙表，旧ウインドウマットからの露出部にやや変色あり。

本紙裏面に表のインクによる変色あり。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジあり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版272

ヘンリー・ムア

《『生誕80年記念版画集』波を背景にした母と子Ⅰ(ハードグレー)》

1976年

リトグラフ・紙

410×534mm 厚さ約0.42-0.43mm

本紙状態

本紙表，旧ウインドウマットに沿ってマットバーンあり。

画面のインクの成分が一部裏面に浸透している。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジ(和紙)の付着あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面上辺2ヶ所の旧ヒンジを除去した。

②新ヒンジ

裏面に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版273

ヘンリー・ムア

《『生誕80年記念版画集』波を背景にした母と子Ⅱ(イエロー)》

1976年

リトグラフ・紙

410×534mm 厚さ約0.4mm

本紙状態

本紙表旧ウインドウマットに沿ってマットバーンあり。

画面のインクの成分が一部裏面に浸透している。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジ(和紙)の付着あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版274

ヘンリー・ムア

《『生誕80年記念版画集』波を背景にした母と子Ⅲ(ソフトグレー)》

1976年

リトグラフ・紙

410×534mm 厚さ約0.39-0.4mm

本紙状態

本紙表旧ウインドウマットに沿ってマットバーンあり。

画面のインクの成分が一部裏面に浸透している。

裏面上辺2ヶ所に旧ヒンジ(和紙)の付着あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面上辺2ヶ所の旧ヒンジを除去した。

②新ヒンジ

裏面に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版285

シャルル・ポール・ルヌワール

《踊り子と母親》

リトグラフ・紙

593×497mm 厚さ約0.40-0.42mm

本紙状態

概ね良好

裏面上辺3ヶ所に旧ヒンジあり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面上辺3ヶ所の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版300

ピエール=オーギュスト・ルノワール
《水浴の少女たち》

エッチング・紙

587×428mm 厚さ約0.3-0.32mm

本紙状態

本紙両面全体に著しい変色あり。両面とも薄いこげ茶色のフォクシングが点在。おそらく裏面から表に貫通したもの。裏面のフォクシングには中央に黒い核状のものが見られる。

表左上に破れあり。

裏面上辺4ヶ所、左辺2ヶ所に旧ヒンジ付着。

裏面左辺に一部表面欠損、破れ(裏面右)を伴う。

裏面上辺2ヶ所に粘着テープ付着。粘着剤の一部に変色あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 テープ粘着剤除去
フォクシング処置 補修 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②テープ粘着剤除去

裏面のテープ粘着剤をサクシオンプレートとアセトンを用いて極力除去した。

③フォクシング処置

裏面のフォクシング中央の黒い核状のものをメスで除去した。

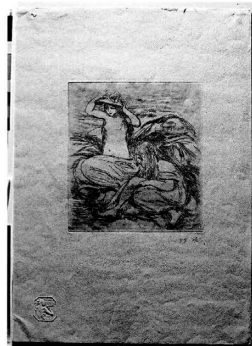
③補修

表左上の破れを裏面からメチルセルロースで補修した。

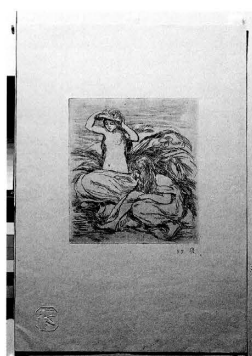
④新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセ

ルロースでヒンジを付けた。



処置前 本紙表(斜光)



処置後 本紙表(斜光)

外版321

フェリックス・ヴァロットン
《信頼する人》1895年

木版・紙

252×319mm 厚さ約0.13-0.15mm

本紙状態

表、旧ウィンドウマットからの露出部に変色あり。

裏面上辺4ヶ所に旧ヒンジの付着あり。両端にはヒンジによる部分引きつれ、折れが見られる。

裏面全体にスレ汚れ点在。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①旧ヒンジ除去

裏面の旧ヒンジに水分を与えて除去した。

②新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版390

ジョン・マーチン

《『聖書』より 人間の墮落》

メゾチント、エッチング・紙

296×432mm 厚さ約0.18mm

本紙状態

本紙両面マージン部に薄い斑状のフォクシング多数あり。フォクシングは表のほうがやや濃く、裏面に貫通している。

両面ともスレ汚れ多し。

右上隅に小さな折れあり。

本紙のpHは約7, フォクシング部はpH 6-7でフォクシングの無い部分との差はほとんど見られなかった。

紫外線灯下で、フォクシングは薄い黄色の蛍光を発して見える。

処置方針

ドライクリーニング 洗浄 フォクシング処置 フラットニング
新ヒンジ

処置内容

①ドライクリーニング

スレ汚れに対して、プラスチック消しゴム(Staedtler社製, Mars plastic)で軽減を試みたが、ほとんど効果はなかった。

②洗浄

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)を用いて2回洗浄。

③フォクシング処置(部分漂白)

表マージンのフォクシングに水酸化カルシウム水溶液(pH 10)を筆で与えて乾燥させた。

過酸化水素水(4%水溶液)にアンモニアを加えてpH 9に調整したものでフォクシングを漂白した後再度②と同様の水溶液で洗浄した。

④フラットニング

ゴアテックスを用いて本紙を軽く湿らせ、吸い取り紙の間に挟み加

圧して平らにした。

⑤新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版391

ジョン・マーチン

《『聖書』より 神の裁き》

メゾチント, エッチング・紙

296×433mm 厚さ約0.25-0.32mm

本紙状態

マット無し

上辺に冊子の綴じからはずされた際の破れ, 欠損あり。

本紙両面全体に軽度の変色, 上辺以外の周辺部に変色目立つ。

裏面は表よりやや変色が濃い。

表左マージンに黒い擦れ汚れ多く, 画面左下隅に擦れあり。

裏面にインクの油分による軽度の変色, 左下に不定形の茶色の変色あり。

処置方針

新ヒンジ

処置内容

①新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

外版392

ジョン・マーチン

《『聖書』より 楽園追放》

メゾチント, エッチング・紙

296×433mm 厚さ約0.25mm

本紙状態

マット無し

上辺に冊子の綴じからはずされた際の破れ, 欠損あり。

本紙両面全体に軽度の変色, 軽度の擦れ汚れ, 両面とも薄い茶色のフォクシングが点在する。

裏面にインクの油分による軽度の変色あり。

処置方針

新ヒンジ

処置内容

①新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

日版14-4

吉原英雄

《彼と彼女》1969年

石版・紙

679×500mm 厚さ約0.32-0.33mm

本紙状態

裏面左上隅に茶色の紙片付着あり。収納されていた際に包材として用いられていた合紙に一部の色(水色, 緑)との接触による変色(黄色)が見られた。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①裏面左上隅の茶色の紙片を湿らせて除去した。

②新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

日版14-5

吉原英雄

《Finger B》1969年

石版 銅版混合・紙

622×443mm 厚さ約0.39-0.4mm

本紙状態

ブーツの形状にエンボス(プレートマーク)あり。

表4辺に沿って茶色の紙片(水張りテープ)付着あり。

裏面左上隅に茶色の紙片(水張りテープ)付着あり。

処置方針

旧ヒンジ除去 新ヒンジ

処置内容

①裏面左上隅の茶色の紙片を湿らせて除去した。

②新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

日版117

伊原宇三郎

《二人の裸婦》

リトグラフ・紙

462×308mm 厚さ約0.18-0.19mm

本紙状態

左辺, 右辺が表側に浮き上がる傾向あり。

表上部に埃汚れ顕著。

表右辺上部などに茶色の点状のフォクシング, 付着物あり。

左上隅に折れあり。

裏面全体に黒いスレ汚れ顕著, 表上辺中央, 下辺に黒い指紋複数あり。

処置方針

ドライクリーニング 新ヒンジ

処置内容

①ドライクリーニング

両面の埃汚れを練りゴムとプラスチック消しゴム(Staedtler社製, Mars plastic)で適宜用いて除去した。裏面のスレ汚れは除去できなかった。

②新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

日版118

伊原宇三郎

《二人の裸婦》

リトグラフ・紙

309×462mm 厚さ約0.18-0.2mm

本紙状態

左辺, 右辺が表側に浮き上がる傾向あり。

表左半分に埃汚れ顕著。

両面全体に薄い赤茶色の点状のフォクシングが見られる。特に表左半分に目立つ。

フォクシングは紫外線灯下での肉眼観察では濃い茶色に見える。

本紙のpHは6-7, フォクシング部分のpHは4-5で酸性。

裏面全体に黒いスレ汚れあり、特に下辺中央にインク付着とスレが目立つ。

裏面上辺中央に小さな付着物あり。

処置方針

ドライクリーニング 洗淨 フォクシング処置 フラットニング
新ヒンジ

処置内容

①ドライクリーニング

練りゴムで埃汚れを除去した。

②洗淨

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)
2回洗淨後自然乾燥させた。

③フォクシング処置(部分漂白)

表の目立つフォクシングに水酸化カルシウム水溶液(pH 10-11)を筆で与えて乾燥させた。

過酸化水素水(4%水溶液にアンモニアを加えて pH 9に調整したものでフォクシングを漂白した後

②と同様の水溶液で1回洗淨し自然乾燥させた。

④フラットニング

本紙をゴアテックスを用いて軽く湿らせ、吸い取り紙の間に挟み加圧して乾燥させた。

日版120

伊原宇三郎

《母と子》

リトグラフ・紙

586×433mm

本紙状態

表左辺下、右辺下部に埃汚れ顕著。

裏面全体にスレ汚れあり。

両面に一部、数ヶ所に小さな茶色のフォクシングがある。

処置方針

ドライクリーニング 新ヒンジ

処置内容

①ドライクリーニング

練りゴムを用いてドライクリーニングを行った。

②新ヒンジ

裏面上辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

日版131

小磯良平

《二人》1954年

リトグラフ・紙

643×458mm 厚さ約0.38-0.39mm

処置内容

本紙に水平方向の波うち顕著。過去に丸められていた可能性あり。

表、旧ウィンドウマットからの露出部周辺にマットバーンあり。マットバーンの外側(マットに覆われていた部分)に変色有り。

裏面全体に変色顕著。矩形の形状に変色の度合いが異なる。

裏面左辺と下辺に旧ヒンジ付着。

処置方針

ドライクリーニング 洗淨 部分漂白 フラットニング 新ヒンジ

処置内容

①ドライクリーニング

練りゴムで埃汚れを除去した。

②洗淨

水酸化カルシウム水溶液(pH 8-9)
3回洗淨。

洗淨後自然乾燥させた。

③部分漂白

表のマットバーンとその外側に水酸化カルシウム水溶液(pH 10-11)を筆で与えて乾燥させた。

過酸化水素水(5%水溶液にアンモニアを加えて pH 9に調整したもので変色部分を漂白した後②と同様の水溶液で1回洗淨し自然乾燥させた。

④フラットニング

本紙をゴアテックスを用いて軽く湿らせ、吸い取り紙の間に挟み加圧して乾燥させた。

⑤新ヒンジ

裏面上辺3ヶ所および下辺2ヶ所に和紙とメチルセルロースでヒンジを付けた。

《古今和歌集卷第一断簡 高野切》

平安時代(推定:11世紀中頃)

紙本墨書・掛幅装

石橋美術館

日書44

概要

1 本幅および本紙の特徴

本幅は、料紙[ガンピ紙に全面キラ砂子、一様に装飾、解装時寸法26.2×48.8cm]一紙に、古今和歌集卷第一春歌上末尾の詞書を含む五首(藤原定家筆伊達本古今集において第62から第66)の歌が書写された、古今和歌集断簡の掛幅装(大和表装)であった。

この写本は、詞書、作者、歌、のそれぞれ三段の異なる書き出し位置により構成されており、歌一首につき二行書きが基本的な書写様式であった。

本紙は書風および文字の大きさなどから、筆者が巻末尾に及んで興に乗って書写されたと推測される部分で、一首を三行書きされた歌が二首掲載されていた。特に、本紙九行目から十一行目の三行が特徴的な書き振りであった。

本幅では、この三行書き部を中心に据え仕立てられたことが推測された。卷子装から掛軸装への改装に際し、文字配列および左右の余白などが考慮され、巻物が裁断、そして裁断本紙の‘袖’‘奥’のそれぞれの一行を擦り消しされたことが推測された。

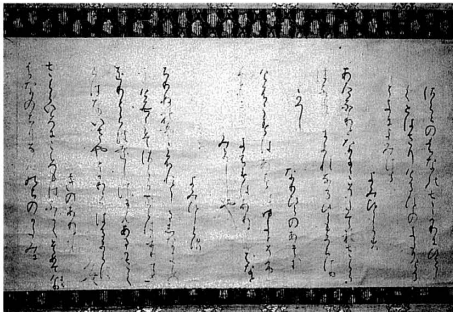


fig.1 修理前

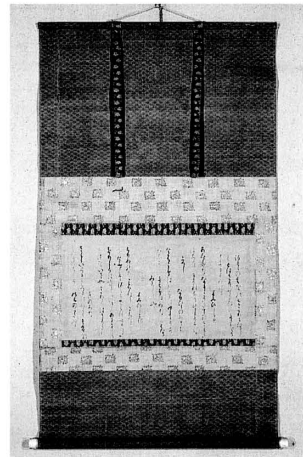


fig.2 修理前

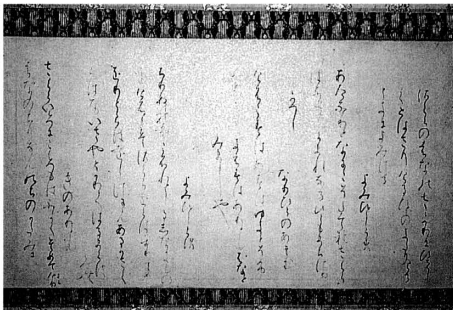


fig.3 修理後

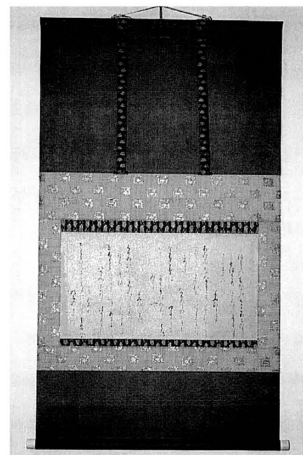


fig.4 修理後

この擦り消し部は、それらの書き出し位置の痕跡から、袖側には歌、奥側には詞書の一部があったことが推測された。さらに、透過撮影写真による観察から、元来あった墨書の濃淡および書写内容の一部が推測できるものと考えられた(fig.5)。また、残留墨などの調査として赤外写真撮影による調査も試みたが新たな知見は得られなかった。

他方、本紙本文最終行と奥側の擦り消し行の間には、針状のものを用いて引かれたと推測される線状の傷が認められたが、これは軸装への改装に際して本文区間設定のため、‘当り’が付けられた痕跡であることが推測された(fig.6)。

表具裂は、一文字、風帯、中、上下とも紗織裂が配されていた。中、上下の裂には花文の地模様があり、一風、中の裂は縫いが施された所謂‘竹屋町’であった。特に中の裂は糸が細く、繊細な風合いを持った地であった(fig.7)。

全ての裂が地透けであったことから、表具の配色構成はそれぞれの部位に施された肌裏紙の染色

により調整され、一風には濃茶、中には淡茶、および上下には墨色が施されていた。肌裏紙は、やや厚みのあるコウゾ紙であった。

総裏紙の一文字部に濃い茶の色移りが認められたことから、特に、一文字・風帯の肌裏紙には、色止まりの悪い染料がほどこされたことが推測された(fig.8)。

本紙の肌裏紙は、淡茶に染色され、喰い裂きが施されたコウゾ紙二紙が継ぎ合わされていた。この継ぎ合せ部は本紙表面に投影され、本紙中央部十行目と十一行目の間に、黒く陰影として認められた(fig.9)。加えて、本紙料紙には明瞭な糸目があり、この糸目の透けにより肌裏紙の色味が界線状にやや黒く投影していた。

本紙天地には、‘折れ’が施されていた。特に、地の折れは、七厘半の出であった。これは一文字付廻に当たって、本文第二十行目最末文字が、本紙料紙端にごく近いための処置と考えられた(fig.10)。

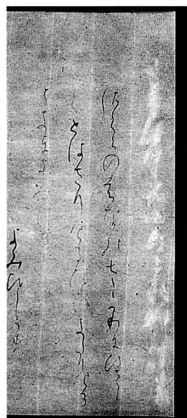


fig.5 巻頭文字部

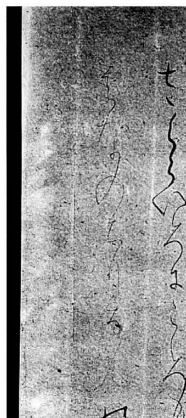


fig.6 巻末擦消部



fig.7 表具裂・中(肌裏除去後)

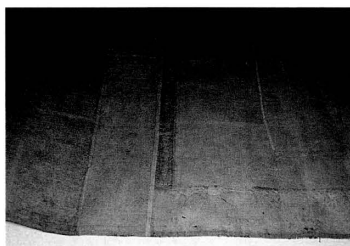


fig.8 一文字部染色シミ

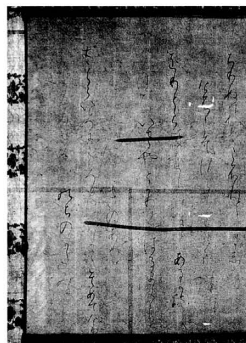


fig.9 修理前透過



fig.10 総裏除去、付廻解体後

掛幅装としての大きな特徴は、上下および中に増裏紙が施されて厚く、本紙、一文字および柱部においては薄く仕立てられていたことであった。

2 修理前の状態

本掛軸は、全体に汚れた印象を与えていた。これは、本幅がある時期掛けたまゝの状態が続いたこと、上記の各肌裏紙に施された色止まりの悪い染料が総裏打ちなど仕立て時に移動したこと、および掛軸全体に骨董味を出す為の古色付け染料の経年変化、などがおもな原因として推測された。(また、本紙がやや赤茶味のある色合いであったことは、上記の起因によると推測された。)

掛軸は、全体的に脆弱化していた。特に、裂の劣化が著しく、裂継ぎ部、折り曲げ部および巻き擦れ部において裂の剥落が認められた。また、中の一部においては裏打ちの浮きが認められた(fig.11)。

掛軸自体の硬化が著しく、掛軸全面に認められた折れ、特に本紙における縦横の折れ、本紙中央部に認められた巻き取り収納時における紐による縦皺損傷、裂の剥落、および軸の巻戻りなども、これに起因することが推測された(fig.12)。

上、中(上)、一文字(上)および本紙に目立った虫喰穴が認められた。これは、虫穴のパターンから掛軸巻き取り収納時に損傷されたことが推測された(fig.13)。一方、上裂八双部に認められた大部の虫喰穴は、この部位の仕立て時に施された糊が誘因となったことが推測された(fig.14)。

本紙には、上記の収納時の紐による折皺損以外に、皺が二箇所認められたが、これは肌裏打ちの下手際によるものと考えられた(fig.15)。

本紙は、キラ砂子装飾紙に墨をもって書写されたものであるが、その書写におけるキラ粒子上に墨は載っていない状態であった。これらは、後世の仕立て作業時においてキラ砂子粒子が移動し



fig.11 裂損傷

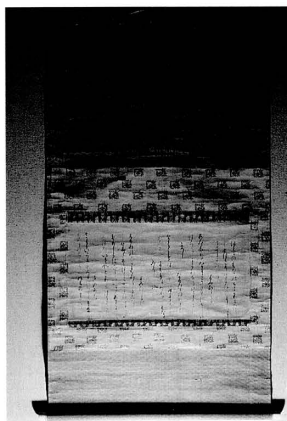


fig.12 修理前(下斜光)

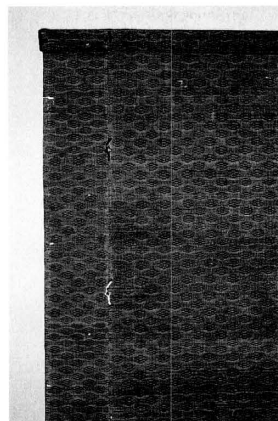


fig.13 修理前 虫穴(上)

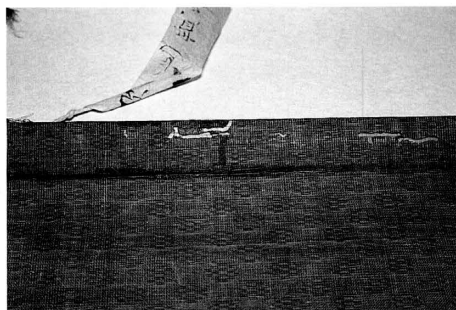


fig.14 修理前 裂損傷(上)

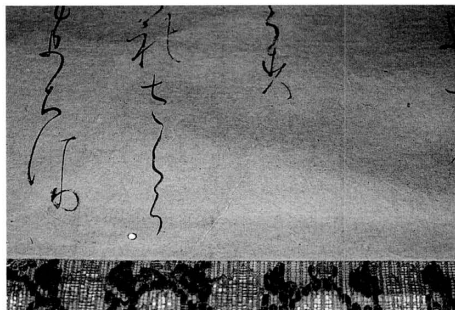


fig.15 修理前 本紙シワ

たことによる可能性が推測されたが、光学顕微鏡による観察から、これらは墨とびであり、書写時においてすでに生じていたものと認められた。さらにこのことは、堅牢度テストによる結果、現在本紙上に残る粒子はある一定の堅牢度を示していたことから裏付けられた。

3 修理方針

今回の修理のポイントは、作業時における掛軸自体の汚れから来る各部位の汚染の防止、繊細な雰囲気をもったキラ装飾料紙の本紙、および脆弱な紗織り地を持つ表具裂の修理時における取扱い、およびこの元使い裂による掛軸の仕上がりであった。

上記のように、肌裏紙や古色付けなどに使用された染料は、色止まりが不安定であったことが推測され、加えて経年の汚れが解装時の水の使用により本紙などを汚染させる事が推測された。このことから、修理前における調査を綿密に行い、水の使用量などを配慮の上、各工程を進めることと

した。

本紙料紙は、今修理における調査ではガンピ由来の繊維を持つ紙で、全面一様にキラ砂子が装飾されていた。この基底料紙は、一般には‘白麻紙’との認識があるなど特別な印象を与える料紙であることを尊重し、修理においてはこの‘白麻紙’の印象を損なわない配慮が求められた。

そのため、設計前調査においては、キラ砂子の定着が本紙修理の最大の注意点であったが、この基底料紙の変化を最小限に抑えるという意図から、修理時における水使用量を最小限に抑えた。さらに、風合いを損なわないために、全面に一括的な剥落止を施すなどといった、料紙への直接的処置を今回は避けることとした。そのため、各工程後において、キラ砂子そのものについて後追い調査を設定するなど、漸次的な確認を伴いつつ作業を進行した(fig.16, 17)。

キラ砂子の後追い調査は、特徴的な形を持ったキラ粒子二十個に着目し、修理前、クリーニング後、修理後の三段階において実体顕微鏡を用いた



fig.16 フラッシュ光使用によるキラ調査(修理前)

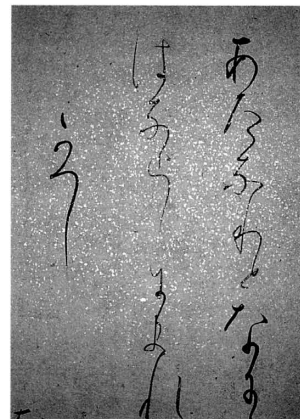


fig.17 フラッシュ光使用によるキラ調査(修理後)

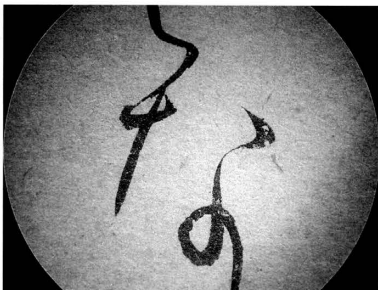


fig.18 キラ砂子後追い調査(修理後)



fig.19 キラ砂子後追い調査(修理後)

デジタル撮影を行った(fig.18, 19)。

また、今修理において表具裂は全て再用としたことから、本掛軸の持つ総体的雰囲気や温存することに配慮した。これらは、本紙および表具裂への補修、新肌裏紙の選定と染色への部分的な配慮であるのみならず、修理後の全体の仕上がりなど全容の姿を想定しつつ、各工程において、それぞれの選択、作業を行った。

各部位に施した補紙、補絹は、可能な限り本体の質・色合いに近づけた。

本紙中央部に認められた紐が原因と考えられた折れ皺は、その損傷形態より肌裏打ちにともない、ある程度平坦に伸びる事が推測されたが、前の装訂の不手際から生じたと考えられた深い皺は、無理なく可能な範囲で伸ばすこととした。

4 作業工程

1)原状把握

目視および実体顕微鏡による調査を行った。

また、修理前原状について写真撮影およびキラ調査デジタル撮影を行った。

2)装訂の解装

解装に先立ち本紙の墨書・キラ、および縫紗の色糸・金糸に対しパッチテストを行い、加湿に耐えられることを調査確認した。その後、裏面から湿り気を与え、総裏紙を除去し、裂地をはずし解装した(fig.20, 21)。

3)本紙クリーニング

本紙の墨書およびキラに対しパッチテストを行い、加湿に耐えられることを確認、本紙表面より噴霧器を用いてクリーニングを行った。その後、本紙表面のすべての墨書にウサギ膠(Rabbit Skin Glue M. GRUMBACHER, Inc)1%水溶液にて剥落止めを施した。キラ調査デジタル撮影を行った。



fig.20 総裏紙除去解装1

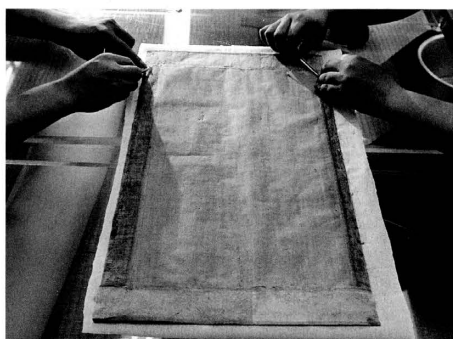


fig.21 装裏紙除去解装2



fig.22 肌裏紙除去(中)



fig.23 肌裏紙除去(上)

4) 肌裏除去

本紙の肌裏紙を除去した(fig.22, 23)。

5) 本紙の紙質調査

本紙の紙質調査を高知県立紙産業技術センターで行った(fig.24)。また、自社工房において、簾の目および糸目間隔、坪量(面積、重量、および平均厚さ)を測定した。

6) 補修

紙質調査の結果および石橋美術館の指導により、本紙に合わせ補紙を選定、染色、これを用いて欠損箇所を補修した。

7) 肌裏打ち

薄美濃紙(五箇宮本製)を用いて新糊で肌裏打を施した。

8) 増裏

薄口美栖紙(上窪製)を用いて古糊で増裏打を施した(fig.25)。

9) 表装裂調整

石橋美術館の指導により、表装裂の補絹を施し、各部位に染め分けした薄口美濃紙(五箇宮本製)にて肌裏打、美栖紙(上窪製)にて増裏打を施した(fig.26)。

10) 付廻し

本紙と裂の付廻しを行った(fig.27)。

11) 総裏打

宇陀紙を用いて古糊で総裏打を施した。その後、表・裏二回の仮張り、乾燥を行った(fig.28, 29)。

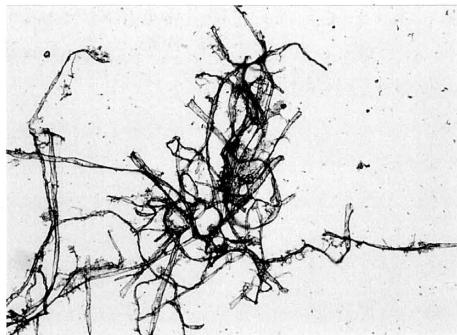


fig.24 料紙繊維拡大写真(無染)

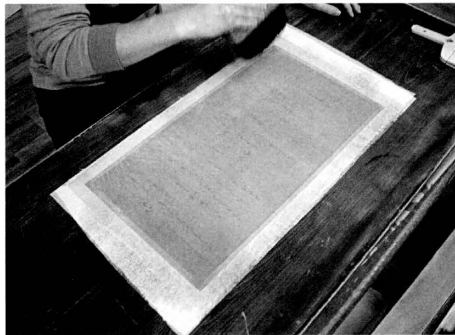


fig.25 増裏紙打ち



fig.26 新肌裏紙打ち



fig.27 付廻し

12)仕上げ
上巻絹、軸木(上下一組)、紐、包裂を新調し、掛幅装に仕立てた。

13)保存箱の新調
桐材太巻芯、桐屋郎箱、桐黒塗台指紐付外箱を新調した。これに掛幅を包裂に包み、納入した。また箱には裂製覆(自社選定)を新調した。

14)修理後の確認、記録
修理後の写真撮影およびキラ調査デジタル撮影を行った。

5 修理過程における新知見

- 1)本紙料紙は、ガンビ繊維由来の紙(高知県立紙産業技術センター調査)であった。
- 2)本紙料紙は、寸法;26.2×48.6cm 平均厚さ;0.0704mm 重量;7.0g 糸目;2.7cmであった。
- 3)本紙料紙には明瞭な糸目があり、この糸目の透けにより肌裏紙の色味が界線状にやや黒く投影していた。
- 4)キラ粒子による墨線の部分的抜けの大部分は、書写時においてすでに形成されたものであったことが認められた。
- 5)本紙擦り消し部は、袖側は歌、奥側は詞書の一部で、書写内容もおおよそ推測できるものと考えた。

- 6)肌裏紙除去時において、本紙料紙は、柔軟性が保たれていた。このことより本紙料紙の経年による紙質劣化が少ないことが認められた。
- 7)キラ砂子の定着は、ある一定の堅牢度を示していた。
- 8)本紙の肌裏紙は、淡茶に染色され、喰い裂きが施されたコウゾ紙二紙が継ぎ合わされていた。この継ぎ合せ部は本紙表面に投影され、本紙中央部十行目と十一行目の間に、黒く陰影として認められた。
- 9)中の裂には花文の地模様があり、糸が細く、繊細な風合いを持っていた。
- 10)肌裏紙は、やや厚味のあるコウゾ紙であった。
- 11)表具の配色構成は、それぞれの部位に施された肌裏紙の染色により調整され、一風には濃茶、中には淡茶、および上下には墨色が施されていた。
- 12)本紙天地には、'折れ'が施されていた。特に、地の折れは、七厘半の出であった。これは一文字付廻に当たって、本文第二十行目最末文字が、本紙料紙端にごく近いための処置と考えられた。
- 13)掛軸は、上下および中に増裏紙が施されて厚く、本紙、一文字および柱部においては薄く仕立てられていた。



fig.28 総裏紙打ち



fig.29 仮張

6 仕様

	修理前	修理後
一文字風帯	茶地藍唐草胴入唐花文縫紗金入	(元使い)
中廻	白地角二花文縫紗金入	(元使い)
上下	茶地小花文紗	(元使い)
肌裏紙	楮紙	薄美濃紙(五箇宮本製)
増裏紙	楮紙	薄美栖紙(上窪製)
総裏紙	楮紙	宇陀紙(福西製)
軸	牙軸	(元使い)
箱	二重箱	桐屋郎箱, 桐黒塗台指紐付外箱(前田製)

7 寸法

単位はすべてセンチメートル(cm)で示した。

		修理前	修理後
総寸法	縦	100.7	101.7
	横	59.5	59.7
本紙	縦	25.8	26.0
	横	48.2	48.5
一文字	上	2.9	2.9
	下	1.7	1.7
中廻	上	11.7	11.7
	下	5.9	5.9
柱		5.5	5.5
上		36.8	36.7
下		16.5	16.5
風帯	幅	2.3	2.3
軸	径	2.4	2.4

(株式会社 光影堂 虻川真人)

「歿後50年 安井曾太郎展」

宮城県美術館 / 2005年4月16日－6月5日

茨城県近代美術館 / 2005年6月11日－7月24日

三重県立美術館 / 2005年8月6日－9月25日

- 1) 安井曾太郎《薔薇》(日洋143) 茨城県近代美術館
- 2) 安井曾太郎《桜》(日洋145) 三重県立美術館
- 3) 安井曾太郎《安倍能成君像》(日洋217) 三重県立美術館
- 4) 安井曾太郎《風景》(日洋459) 宮城県美術館
- 5) 安井曾太郎《F夫人像》(SF 23) 宮城県美術館, 三重県立美術館

『文藝春秋』表紙絵より:

- 6) 安井曾太郎《金魚》(BY 26) 宮城県美術館
- 7) 安井曾太郎《室内》(BY 36) 宮城県美術館
- 8) 安井曾太郎《早春》(BY 39) 宮城県美術館
- 9) 安井曾太郎《湘南電車にて》(BY 52) 三重県立美術館
- 10) 安井曾太郎《栗》(BY 60) 三重県立美術館
- 11) 安井曾太郎《ピアノ》(BY 66) 三重県立美術館

「描かれた禁断の果実 りんごの秘密 デューラーからセザンヌ, 劉生へ」展

ひろしま美術館 / 2005年4月23日－6月5日

藤田嗣治《猫のいる静物》(日洋131)

Gauguin and Impressionism

Ordrupgaard, Copenhagen / August 30 – November 20, 2005

ポール・ゴーガン《馬の頭部のある静物》(外洋168)

「佐伯祐三展 芸術家への道」展

練馬区立美術館 / 2005年9月10日－10月23日

佐伯祐三《テラスの広告》(日洋174)

Henri Rousseau: Jungles in Paris

Tate Modern, London / November 3, 2005 – February 5, 2006

アンリ・ルソー《イヴリー河岸》(外洋43)

「幻想のコレクション 芝川照吉 劉生，達吉，柏亭らを支えたもう一つの美術史」展
渋谷区立松濤美術館 / 2005年12月6日－2006年1月29日

浅井忠《縫物》(日洋4)

「歿後50年 安井曾太郎展」

宮城県美術館 / 2005年4月16日－6月5日

三重県立美術館 / 2005年8月6日－9月25日

- 1) 安井曾太郎《水浴裸婦》(日洋142) ※宮城県美術館
 - 2) 安井曾太郎《玉蟲先生像》(日洋144) ※宮城県美術館
 - 3) 安井曾太郎《水車小屋》(日洋460) ※三重県立美術館
 - 4) 安井曾太郎《レモンとメロン》(日洋268) ※三重県立美術館
-

「描かれた禁断の果実 りんごの秘密 デューラーからセザンヌ、劉生へ」展

ひろしま美術館 / 2005年4月23日－6月5日

- 1) 坂本繁二郎《林檎・蜜柑・柿》(日洋216)
 - 2) 古賀春江《静物》(日洋302)
 - 3) 梅原龍三郎《静物(りんごと梨)》(日洋270)
 - 4) 安井曾太郎《りんご》(日洋265)
-

「野口小蘗と近代南画—明治の宮廷画家—」展

山梨県立美術館 / 2005年4月23日－6月5日

野口小蘗《谿山疊翠図》(日書17)

「明代絵画と雪舟」展

根津美術館 / 2005年7月2日－8月14日

- 1) 雪舟《四季山水図(春)》(日書1)
 - 2) 雪舟《四季山水図(夏)》(日書2)
 - 3) 雪舟《四季山水図(秋)》(日書3)
 - 4) 雪舟《四季山水図(冬)》(日書4)
-

「大名茶陶 高取焼」展

福岡市美術館 / 2005年9月15日－10月30日

根津美術館 / 2005年11月13日－12月11日

《高取焼肩衝茶入》(陶器263)

「佐伯祐三 芸術家への道」展

練馬区立美術館 / 2005年9月10日－10月23日

和歌山県立近代美術館 / 2005年11月3日－12月11日

- 1) 佐伯祐三《休息(鉄道工夫)》(日洋188) ※練馬区立美術館
 - 2) 佐伯祐三《靴屋(コルドヌリ)》(日洋173) ※和歌山県立近代美術館
-

「秀吉と城」展

佐賀県立名護屋城博物館 / 2005年10月14日－11月20日

豊臣秀吉《書簡》(日書48)

「幻想のコレクション 芝川照吉 劉生，達吉，柏亭らを支えたもう一つの美術史」展

渋谷区立松濤美術館 / 2005年12月6日－2006年1月29日

- 1) 青木繁《光明皇后》(日洋102)
- 2) 青木繁《丘に立つ三人》(日洋93)
- 3) 青木繁《秋の夜》(日洋88)

〈展覧会カタログ〉

「筑後と九州の画家たち 新収蔵品紹介をかねて」(新春企画展)

本文：

新収蔵作品の紹介(2000年-2004年)

坂本繁二郎似顔絵カット原画10点(2003年寄贈受入)

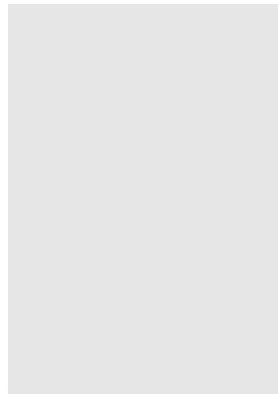
図版(カラー22図, モノクロ10図, 作家肖像8図)

編集：植野健造(石橋財団石橋美術館)

制作：エムツー

発行：石橋財団石橋美術館(2005年1月)

30.0×21.0cm 8 p



「印象派と20世紀の巨匠たち—モネ、ルノワールからピカソまで [前期]」
(拡大常設展)

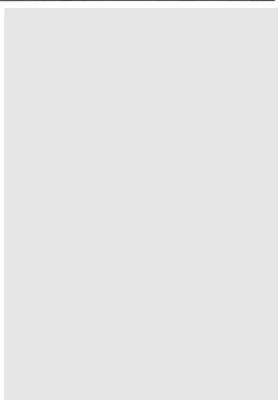
The Impressionists and 20th-century masters: from Monet and Renoir
to Picasso

出品目録

図版(カラー1図)

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館(2005年1月)

30.0cm×21.0cm 8 p



「印象派と20世紀の巨匠たち—モネ、ルノワールからピカソまで [後期]」
(拡大常設展)

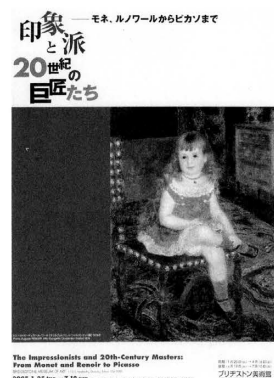
The Impressionists and 20th-century masters: from Monet and Renoir
to Picasso

出品目録

図版(カラー1図)

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館(2005年4月)

30.0cm×21.0cm 8 p



「名作ものがたり 青木繁《海の幸》の100年」(コーナー展示)

本文：

1記録された画像

2名作の誕生《海の幸》と制作地・布良

3青木繁と《海の幸》イメージの広がり

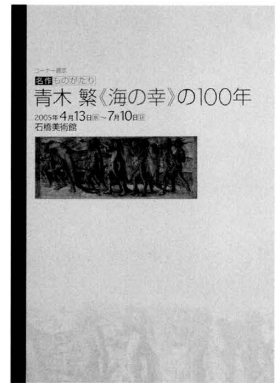
青木繁《海の幸》関連略年表

図版(カラー24図, モノクロ4図)

執筆：石井亨, 植野健造, 森山秀子

編集・発行：石橋財団石橋美術館(2005年4月)

30.0×21.0cm 8p



「絵のなかのふたり シャガールから鬚嘯まで」(コーナー展示)

Two by two Pairs, couples, and lovers in art

本文(英文併記)：

1. 恋人たち(Lovers)

2. ふたりの物語(Two people and their stories)

3. 母と子(Mother and child)

4. アトリエの作家とモデル(The artist and his model in the studio)

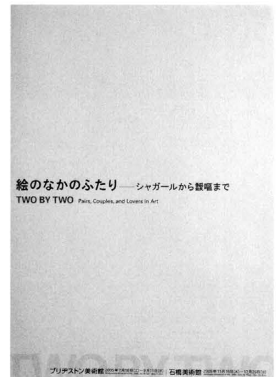
5. ペア(Pairs)

出品目録

図版(カラー16図)

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館, 石橋財団石橋美術館(2005年7月)

30.0×21.0cm 8p



「琉球の美」(特別展)

The beauty of the Ryukyus

本文：

「もの」から 琉球という王国／平間理香(p.6-11)

「ひと」から 鎌倉芳太郎先生と沖縄／宮城篤正(p.74-78)

陶器

王家の衣裳

紅型・織物

漆器

出品目録

図版(カラー63図, モノクロ8図)

監修：宮城篤正

編集：平間理香(石橋財団石橋美術館)

アートディレクション：柴村毅彦

デザイン：最上志乃, 菅原顕隆, 野口昌芳

制作：イメージゲート

発行・著作：石橋財団石橋美術館(2005年8月)

26.0×18.0cm 89 p

ISBN 4-901834-01-0



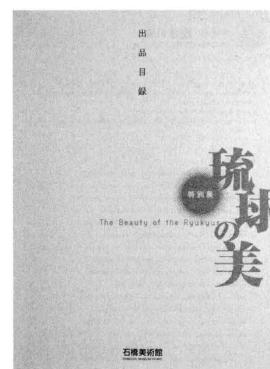
「琉球の美」(特別展)

The beauty of the Ryukyus

出品目録

発行：石橋財団石橋美術館(2005年8月)

24.0×17.0cm 二つ折り



「水彩の力、素描の力」(コーナー展示)

Power of watercolor, power of drawing

本文(英文併記)：

1. 身体の構造(The human anatomy)
2. 運動する身体(The body in motion)
3. 女性のイメージ(Images of woman)
4. 空間のなかの身体(The body in space)
5. それぞれの風景(Landscapes of their own)

出品目録

図版(カラー10図)

編集・発行：石橋財団石橋美術館(2005年9月)

30.0×21.0cm 8p



「青木繁—《海の幸》100年」(特集展示)

Aoki Shigeru : A Good Catch (Art focus)

本文(英文併記)：

- I. 青木繁の画業(Aoki's oeuvre)
- II. 《海の幸》を巡って—記録された画像(Images related to A Good Catch)

出品リスト

青木繁《海の幸》関連略年表(Brief chronology of Aoki Shigeru and A Good Catch)

図版(カラー16図, モノクロ3図, 参考4図)

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館(2005年9月)

30.0cm×21.0cm 8p



印象派と20世紀の美術

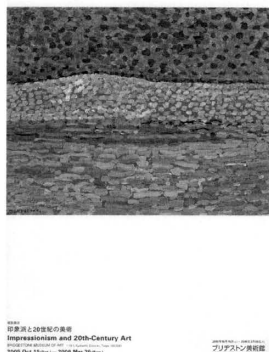
Impressionism and 20th-century art

出品目録

図版(カラー1図)

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館(2005年10月)

30.0cm×21.0cm 8p



〈その他の刊行物〉

「小中学生のための石橋美術館ガイド2—わっく・わあく・アートワーク」

編集・発行：石橋財団石橋美術館（2005年3月）

21.0×15.2cm 二つ折りパンフレット，カード10枚差込(図版共)



「青木繁《海の幸》」（美術研究作品資料第3冊）

Aoki Shigeru, *A Good Catch* (Artwork Archive for Art Studies, volume III)

本文：

《海の幸》誕生まで / 田中淳(p.42-51)

名作ものがたり：青木繁《海の幸》の100年 / 植野健造(p.52-58)

デジタル画像の制作について / 城野誠治(p.59)

《海の幸》再考：ものとしての絵画 / 石井亨(p.60-66)

資料：

白馬会第9回展出品時の批評 / 森山秀子編

附：蒲原有明「海の幸」の改作の変遷

青木繁《海の幸》関連年表 / 植野健造編

青木繁《海の幸》展覧会歴

石橋コレクション巡回展での出品歴

青木繁年表 / 植野健造編

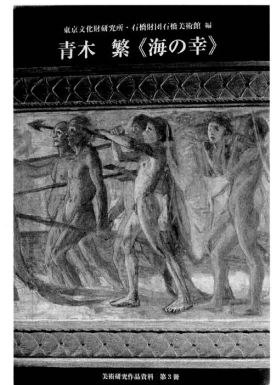
青木繁文献 / 森山秀子編

図版(カラー31図)

編集：石橋財団石橋美術館，東京文化財研究所美術部

発行：石橋財団石橋美術館（2005年4月）

38.0×26.0cm 108 p



「夏休み子どもプログラム2005 みんなでさがそう、にてるところ、ちがうところ」

図版(カラー10図)

編集：後藤純子（石橋財団石橋美術館）

デザイン：エムツー

発行：石橋財団石橋美術館(2005年6月)

30.0×21.0cm 二つ折りパンフレット、ワークシート1枚差込



「館報」53号(2004年度)

Annual report of Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art

内容：

設立趣旨、機構・運営

展覧会(特別展, 特集展示, 拡大常設展, コーナー展示, テーマ展示)

教育普及(講座, 見学解説, ファミリープログラム, インターンシップ, 実習生受入など)

入場者数(2004年度)

新収蔵作品(作品1点)

新収図書

修復記録

藤田嗣治《横たわる女と猫》/ 坂井史恵(p.52-55)

早川銈太郎《戦場の図》/ 坂井史恵(p.56-57)

レンブラント・ファン・レイン《聖母の死》/ 坂本雅美(p.58-60)

レンブラント・ファン・レイン《帽子と襟巻を着けた暗い顔のレンブラント》/ 坂本雅美(p.64-65)

レンブラント・ファン・レイン《版画商クレメント・デ・ヨンゲ》/ 坂本雅美(p.66-67)

レンブラント・ファン・レイン《説教するキリスト》/ 坂本雅美(p.68-69)

紙本作品の修復について / 石井亨(p.70)

シャルル=フランソワ・ドービニー《牧羊場・朝》他74点 / 坂本雅美(p.71-88)

作品貸出記録

刊行物一覧

研究報告

Ishibashi Shojiro and Japanese art collectors between and after the Two World Wars / Miyazaki Katsumi(p.102-109)

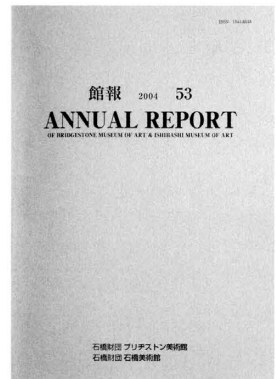
美術館案内

石橋財団職員

編集・発行：石橋財団ブリヂストン美術館, 石橋財団石橋美術館(2005年11月)

制作：モリモト印刷

26×18.5cm 112 p ISSN 1341-8548



松田諦晶と古賀春江—松田資料をもとに

森山秀子

はじめに

石橋美術館は、松田諦晶が残した下記の資料を一括所蔵・保管している¹⁾。

I スケッチブック80冊

II 日記36冊

III 手帳24冊

IV 写真帖29冊

V 書簡151通

VI 来目会関連資料11件

VII ノート9件

VIII 新聞切り抜き40件

IX 絵葉書

X その他(メモ、草稿など)29件

この松田資料は、今までに刊行された古賀春江に関する著作や展覧会カタログ²⁾でも紹介されてきたものであるが、ここで改めてこの資料のなかから、古賀春江に関する資料を抜き出し、両者の交友に目を向けながら紹介を試みたい。松田の資料は、古賀の事績を跡づけるうえでも貴重な資料である。

松田諦晶(本名実, 1886-1961)は、久留米市の生まれ。森三美の画塾で学んだことはあるが、ほとんど独学で洋画を学んだ。太平洋画会展には明治44(1911)年の第9回展から、二科展には大正3(1914)年の第1回展から入選していたが、大正10(1921)年を最後に中央の展覧会から遠ざかってしまう。彼に対する坂本繁二郎の期待も大きく、坂本から自作の批評をしてもらっていた時期もある³⁾。大正2(1913)年、洋画団体「来目会」⁴⁾の立ち上げに関わり、さらに昭和6(1931)年には久留米洋画研究所を開設、久留米の地で多くの後進を育てた。

古賀春江(1895-1933)は、はじめ松田に洋画を学び、その後、太平洋画会研究所、日本水彩画会研究所に学んだ。まるで松田と入れ替わるかのように、大正11(1922)年の第9回二科展で二科賞を受賞、以後二科会を主な活動の場とした。

松田と古賀の出会いは、明治43(1910)年頃、古賀が松田に絵を習い始めたのが最初だったようである⁵⁾。古賀15歳、松田は24歳だった。それ以降、二人の交友は、昭和8(1933)年の古賀没年まで続

くことになる。

1 写生旅行

二人はともに写生に出かけることもあった。以下の松田にあてた古賀の葉書は、古賀が松田と写生に行くことを楽しみにしていたこと、彼が技術面だけでなく精神面でも画家として成長していく上で、松田を慕っていたことを裏付けるものである。

一緒にゑかきに行けたらと思つてゐる 駄目な願だらうか 私の中では今百万の兵が関の声をあげてゐるやうだ この秋はうんと描きたい ミッチリと落ち付いてスケッチでなくミッチリとやりたいと思つてゐる 一緒にゑかきに行けたらどんなに嬉しからうと思つてゐる。(書簡1-13) 1919年9月18日消印松田宛古賀春江書簡) (fig.1)

二人の写生旅行については、残された資料や作品から明らかにできるものだけでも以下の5件をあげることができる。()内は各事項の典拠となる松田資料である。

①1914年7月 柳川(スケッチブック26, 日記4)

古賀は、1912(明治45)年の夏、画家を志して上



fig.1 古賀より松田にあてた葉書
1919年9月18日消印

京するが、その後もたびたび帰郷する機会があった。1914(大正3)年の帰郷の折には、松田とともに水郷・柳川(柳河)へ出かけた(柳川は詩人・北原白秋の生誕地でもある)。幸運なことに、その時のスケッチブックが両者ともに残っている(fig.2-7)。さらに松田の〈スケッチブック26〉には、以下のような松田探宛書簡の写しがあり、柳川での二人の行動をたどることができる。

最早其日の午後には古賀君と二人紅や白い花咲く蓮池の葉渡る風に吹かれ乍Mさんの話やカチューシャの歌等を唄って…(中略)明日もまた行きます 古賀君が沖の端を描いてみますから

私も描き度いと思つてみますから…七月十八日 一四年

私が柳河へ来て最早五日になる 古賀君はかなり大きい絵を二枚描いた そして、もう柳河が

厭に成つたと云つて今朝久留米に帰つた…(中略)私は一寸さびしくなりました エナジーが足りないのか私はまだ絵筆を握る気にならない かわりに未、柳河が厭にもなりません…二一・七・一九一四

また、同様の文面の写しは同じく松田の〈日記4〉にもある。以上の書簡写しから、二人が柳川に行ったのは、1914年7月17日であること、そして古賀はすでに作品を2枚仕上げ、7月21日には久留米に戻ったことがわかる。2005年度新収蔵作品《柳川風景》(fig.8)は、その時の一点と推測できる。一方、松田は、古賀が久留米に帰った後、やっと制作欲が高まり、《柳河町裏》(fig.9)という30号の油絵を制作、8月16日に久留米に戻った。彼はその作品を第1回二科展に出品、みごと入選を果たすことになる。

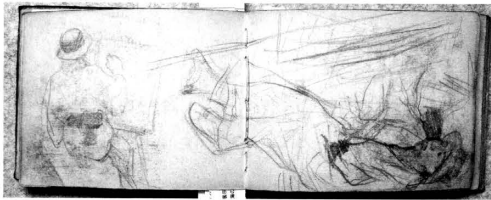


fig.2 松田スケッチブック 1914年

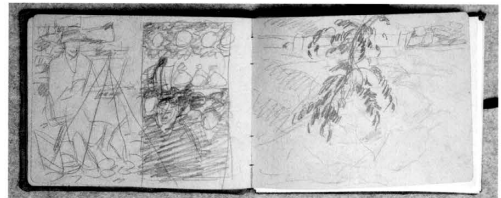


fig.5 古賀スケッチブック 1914年



fig.3 松田スケッチブック 1914年



fig.6 古賀スケッチブック 1914年



fig.4 松田スケッチブック 1914年

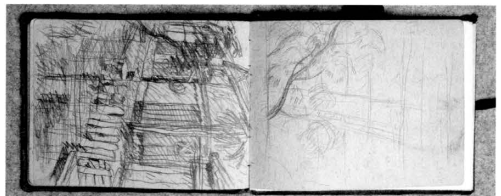


fig.7 古賀スケッチブック 1914年

②1920年6-8月 ともに代々幡の竹藪を描く(日記6)

1919(大正8)年9月、松田は上京した。彼の東京での生活は、途中何度かの帰郷をはさみ、1923年5月まで断続的に続く⁹⁾。この頃の松田は本格的な画業への道を模索していたのであろうか。松田と古賀の交友もまたこの間が最も濃密であったことが推測できる。松田日記の中に古賀に関する記述を数えると、1920年の〈日記6〉で52件、1921年の〈日記7〉で24件にもなる。二人はこの間頻繁に往き来し、手紙をやりとりした。

1920(大正9)年6月20日、松田上京、さっそく翌21日、古賀が松田を訪問したこと、東京での二人の往来は、8月12日に松田が東京を発つまで続くこと、この間、二人で代々幡(渋谷区)の竹藪を描きに行ったことなどが〈日記6〉に記録されている。

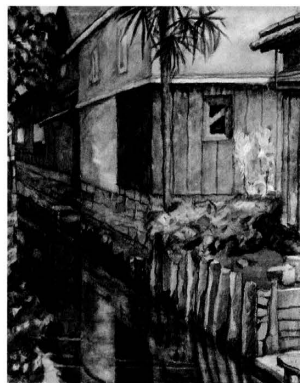


fig.8 古賀春江《柳川風景》
水彩・紙 1914年

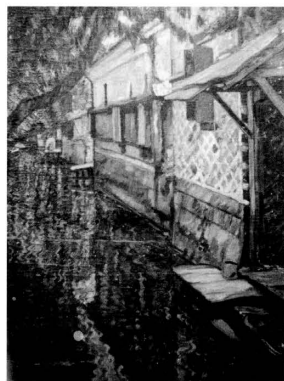


fig.9 松田諦晶《柳河町裏》
油彩・カンヴァス 1914年

春江君来る 十時頃なり それより代々幡村付近へ出かけ春江君は藪を十号にかく 自分も明日より描くことに定む 二時帰宅 中食 六時迄春江君ゐる 雨ふり出す渋谷駅迄春江さんをおくり…(6月23日)

午後春江君来る 共に代々幡村へ出かく 二人共藪を描きはじむ 春江君は水彩十二号大に描く 自分は二十号人物形に初じむ…六時頃春江君帰る(6月24日)

といった具合である。古賀の現存する数点の竹藪を描いた水彩画は、この頃の制作になるものと思われる。

以上2件について、注目すべきことは、同じ場所で作成するにしても、古賀は水彩で、松田は油



fig.10 松田スケッチブック 1922年

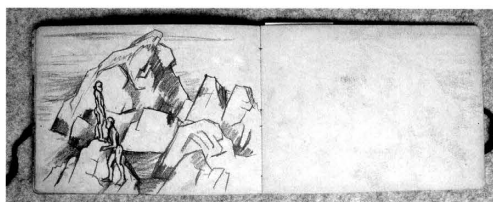


fig.11 松田スケッチブック 1922年

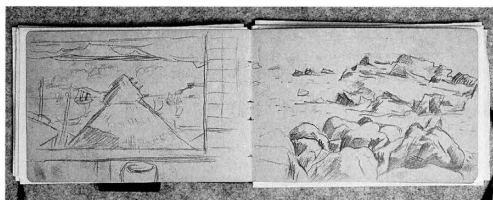


fig.12 古賀スケッチブック 1922年

彩で制作した点である。

③1922年7月末-8月初旬 筑前鐘崎(スケッチブック49)

1922(大正11)年7月末から翌月初旬まで、松田と古賀は、筑前鐘崎(福岡県宗像市鐘崎)に出かけた。この時のスケッチブックがともに残っており、しかもその中には、同じ時同じ場所からスケッチしたと思われるものがある(fig.10-12)。古賀は旅館の2階から見たスケッチをもとにはほぼ同構図の《二階より》(fig.13)を油彩で制作し、以前から制作にかかっていた《埋葬》とともに第9回二科展に出品、二科賞を受賞することになる。一方、松田は、松の木の間に見える藁葺き屋根の家を描いた(fig.14)。

④1923年8月 筑前奈多海岸(来目会日誌)

〈来目会日誌〉には、会の活動とともに会員の動向も記録されている。古賀春江に関する事績を拾ってみると、たとえば以下のような記録が見ら

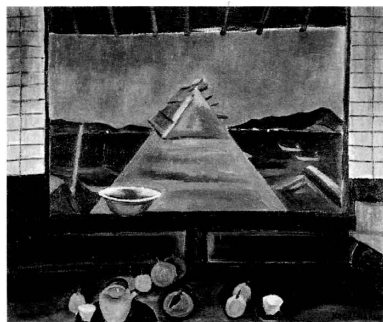


fig.13 古賀春江《二階より》
油彩・カンヴァス 1922年



fig.14 松田諦品《鐘ヶ岬風景(藁家と松)》
油彩・カンヴァス 1922年

れる。

大正拾壹年九月

古賀春江, 二科に「埋葬」「二階から」の二点入選する。

中川紀元「埋葬」をむきになって賞める。

大正拾壹年十月九日

(展覧会追記)…第三日目(八日)に古賀春江の帰省も嬉しかった。

大正拾貳年八月一日-八日

一日より八日間粕屋郡奈多へ写生に赴く

来会者 松田, 小松, 古賀春夫妻, 執行, 牛島, 吉武, 三島, 野田, 高橋,

八日午後奈多より帰来

この記録により、1923(大正12)年8月1日から8日まで、松田と古賀らは、筑前奈多海岸(福岡市東区奈多)へ写生に出かけたことがわかる。松田については、この時のスケッチブック(スケッチブック57)が残るとともに、この時の制作になると思われる作品も数点残っているが、古賀については、この時の成果物と特定できるものはない。

⑤1924年2月 久留米市御井町にて写生(写真帖大正 No.6)

松田は晩年、自作のアルバムを作り、タイトルや制作日など各作品についてのメモも残した。それによって、ほとんどの松田作品は、制作時期と場所が特定できるのである。

1924(大正13)年、松田と古賀は久留米市御井町で一緒に写生する機会があったようである。というのも、府中市美術館所蔵の古賀の《風景》



fig.15 古賀春江《風景》油彩・カンヴァス
1924年 府中市美術館蔵

(fig.15)と松田の写真帖に残る作品(fig.16)は、同じ場所を描いたものであることが明らかだからである。松田の写真帖に残るその作品は、松田自身の筆跡で「御井町風景」というタイトルが付けられ、1924年2月の日付となっている。しかも同じページには、「写生する古賀春江」という作品の写真(fig.17)が貼られており、その場に古賀がいたことはまちがいない。

1922年以降、古賀は本格的に油彩画を制作し始める。松田と古賀の作風は、この頃(1922-24年頃)最も相似しているため、後年、松田の作品に古賀の署名が入られることもあった。

2 古賀の死の前後

松田と古賀の交友は、昭和に入ってから変化したように見える。松田の日記が、1922(大正11)年から1930(昭和5)年までを欠いているため、書簡も松田のもとに残されたものがすべてとは言えないことが予想されるため、断言はさげなければならないが、二人の手紙のやりとりも減り、ましてやともに写生に出かけることはなくなったようで

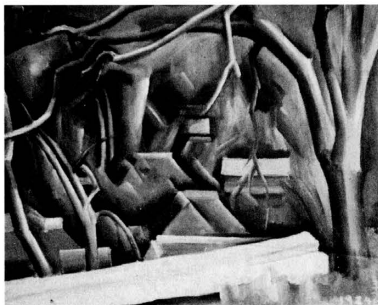


fig.16 松田諦晶《御井町風景》油彩
1924年〈写真帖大正No.6〉より



fig.17 松田諦晶《写生スル古賀春江》油彩
1924年〈写真帖大正No.6〉より

ある。古賀から松田に宛てた書簡は、1926(大正15)年6月までは、年に数通の頻度であったのが、その後は1927年3月31日消印の葉書(書簡1-41)が残っているだけである。古賀自身の帰省の機会が減ったこと、それぞれが多忙になったこと、絵画に関する考え方、取り組み方が違ってきたことに起因すると思われる。上記昭和に入ってから古賀の葉書とは、来目会展に出品する作品を松田宛に送るので、枠に張って出品してくれ、という依頼の葉書である。二人の関係は、師弟関係から友人関係へと明らかに変わっていた。

松田は、「古賀春江の面影」⁹⁾という回想文で以下のように記している。

昭和六年から二ヶ年間全く彼と会えなかった私は昭和八年七月初め突然彼の細君より長文の音信に接した。(暇乞いに行くと云って春江が帰郷の途につきました。着きましたら入院療養するよう説得願います。前後畧)。これと同時に愛犬に曳かれ乍ら彼が私の眼前に夢遊病者さながらの姿で忽然と現れたのである。一焦点のぼやけた瞳差、物怖する如く右顧左顧し乍ら語る支離滅裂で意味をなさぬ言葉一。私は惘然自史唯暗涙に咽ぶのみであった…。

二人の交友は、少なくとも2年間絶たれていたことが、上記回想よりわかる。その間、古賀の肉体も精神も急速に蝕まれていたのである。

1933(昭和8)年7月5日、古賀は帰郷した。帰省中はまるで昔を思い出したかのように、たびたび松田のもとを訪れたことが、〈日記10〉よりわかる。以下該当部分を抜粋する。

午前八時古賀春江君来る今朝四時帰米せしとの事 午前十時停車場へ犬(連れて来たブル愛犬)を取りに行くとして帰る。兄さん病気通知により帰つたとの事…古賀春江君来り一時頃迄雑談(7月5日)

午前八時半古賀春江君坂本氏訪問の途中一寸立寄る(7月8日)

午前六時十三分古賀春江上京す 停車場迄見送り六時半帰宅(7月14日)

上記〈日記10〉では、古賀の10日間の久留米滞在中に、二人が会ったという記録を6件見つけることができる。また、松田のもとには、彼の回想文にあるような7月10日付の好江夫人から松田に宛てた書簡(書簡1-46)が残されている。しかも、その書簡には、古賀から好江夫人に宛てた手紙(お金を無心する内容のもの)も同封されている。もはやその筆跡はひどく乱れ、判読しにくい箇所もある。そのような身内の恥をさらしてもかまわないほど、好江夫人は松田のことを信頼し、またそれほど古賀の病的な行動を持ってあましていたことが推測できよう。

8月7日消印の好江夫人から松田に宛てた書簡(書簡1-47)では、古賀の帰京後の病状などが報告されている。その書簡によると、古賀は8月1日に帝大病院島蘭内科に入院、駄々をこねてはみなを手こずらせていることなどが報告されている。「他に話していただきませぬやうと申してもいつか分かる事でせうが恥多い日々をやるせなく感じてゐます」と記されている。その後松田は古賀危篤、死亡の報を東京の友人より受けとることになる。その記録もまた〈日記10〉に見ることができる。

今日午後東京佐野敏一より入院中の古賀春江危篤の通知来る(9月9日)

午後四時古賀春江死亡通知報報来る(9月10日)

好江夫人は、古賀の死後も松田を頼りとし、その交友は、好江夫人が亡くなる1949(昭和24)年ま

で続く。

3 古賀没後

古賀没後、松田の日記に残る古賀関連の記録を以下にあげる。

1933(昭和8)年10月28日 古賀春江葬儀(松田は弔辞を読む):〈日記10〉

1934(昭和9)年12月1日-3日 第23回来日会展にて古賀春江遺作展開催(好江夫人奔走、松田も尽力):〈日記11〉

同12月3日 古賀《文化は人間を妨害する》を久留米市役所に、50号の作品を明善校にそれぞれ寄付:〈日記11〉

同12月10日 好江夫人、古賀の水彩画持参、日吉校及び男子高等学校へ寄付する作品を選定:〈日記11〉

《文化は人間を妨害する》(fig.18)は、現在所在不明、明善校、日吉校、男子高等学校など古賀ゆかりの学校へ寄付された作品については現時点では残念ながらどのような作品であったか不明である。

1944(昭和19)年5月15日 善福寺境内に古賀春江供養塔建立(東京在住の高田力蔵とともに奔走):〈日記18〉〈日記19〉〈日記20〉

この古賀春江供養塔(fig.19)建立に関しては、1942年12月にその動きが始まったことが松田の日



fig.18 古賀春江《文化は人間を妨害する》
油彩 1933年



fig.19 古賀春江供養塔 久留米市善福寺境内

記よりわかる。完成までの高田力蔵とのやりとりが日記に記されている。

4 松田旧蔵の古賀作品

松田は、古賀春江の作品を4点所蔵していたことが日記からわかる。それらの作品を晩年手放す際、作品の受け渡しに関する記録が〈日記36〉に記されているのである。その作品とは、《裸婦》(F50号)、《梅》(版画)、《房州波太風景》(水彩ワットマン半切)、《竹藪》(水彩)である。

《裸婦》(fig.20)は、1927(昭和2)年4月の第11回来目会展出品作、上記の同年3月31日消印の葉書(書簡1-41)で、古賀が松田に作品を送るから枠に張り額に入れて出品してほしいと頼んだ作品である。《梅》(fig.21)は、1924(大正13)年の第11回日本水彩画展出品作にもとづき木版画にしたもので、古賀の百箇日の返礼として配られた。〈日記10〉に「寺町古賀より便手紙を持ち来る帰途立寄り呉れとの事 帰途寄る故春江君百カ日の返礼に春江君水彩画木版一枚を貰ひ…」とあるものである(1933年12月19日)。《竹藪》(fig.22)は、1920(大正9)年6月、代々幡の藪をとともに描いた頃の思い出の作である。

おわりに

松田と古賀に関する資料として、以上の他にも、古賀が《サーカスの景》を制作する際、参考にし

たと思われる絵葉書を忘れてはならない。「独逸ハーゲンバック動物園・世界最大の猛獣大サーカス図実景」と書かれたその絵葉書は10枚残り、うち6枚に絵の具が付着している。古賀の絶筆《サーカスの景》は、それらの絵葉書のなかの動物を組み合わせて制作されたものである⁸⁾。その絵葉書がどういう経緯で松田のもとに残されたのか、死を目の前にした古賀が松田に渡したもののなのか、あるいは、もともと松田が所有していたものを古賀が借りたのか、不明である。いずれにせよ、これらの絵葉書は、《サーカスの景》の制作過程を明らかにしてくれるだけでなく、松田と古賀の交友の深さをうかがわせる大変貴重な資料である。

残された松田資料は、松田と古賀という二人の画家の交友記録として読むことも可能である。古賀ははじめ、松田のことを兄のように慕い、絵以外の私生活についても松田にいろいろな相談をもちかけていた。松田もまた古賀のことを常に気に留めていた。そのような関係は、生涯変わらなかったものの、古賀が中央画壇で認められるようになると、二人の関係は微妙に変わってきたこと、師弟関係から友人関係へと変わっていったこともわかる。その資料はまた、古賀の没後は、松田をはじめ好江夫人や高田力蔵ら故人をよく知る人たちによる、古賀顕彰の記録でもある。



fig.20 古賀春江《裸婦》
油彩・カンヴァス 1927年

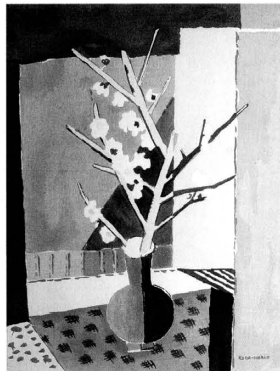


fig.21 古賀春江《梅》木版画



fig.22 古賀春江《竹やぶ》水彩・紙 1920年

註：

1) 詳細は、『生誕百年記念松田諦晶展』カタログ(1985年、石橋美術館)巻末の「松田諦晶資料」を参照。
この報告で紹介する松田資料を以下に列記する。

I スケッチブック

〈スケッチブック26〉1914年5月15日～10月16日

〈スケッチブック49〉1922年7月～11月

〈スケッチブック57〉1923年4月～9月頃

II 日記

〈日記4〉1913年1月1日～1914年12月29日

〈日記6〉1920年

〈日記7〉1921年

〈日記10〉1933年

〈日記11〉1934年

〈日記18〉1942年

〈日記19〉1943年

〈日記20〉1944年

〈日記36〉1959年8月1日～1960年, 1961年

IV 写真帖

〈写真帖大正 No.6〉1923年, 1924年

V 書簡

〈書簡1-13〉1919年9月18日消印古賀春江より松田宛書簡(葉書)

〈書簡1-23〉1923年5月3日付古賀春江より松田宛書簡(葉書)

〈書簡1-41〉1927年3月31日消印古賀春江より松田宛書簡(葉書)

〈書簡1-46〉1933年7月10日付古賀好江より松田宛書簡(封書)

〈書簡1-47〉1933年8月7日消印古賀好江より松田宛書簡(封書)

VI 来目会関連資料

〈来目会日誌〉1922-28年

2) 『古賀春江回顧展』(展覧会カタログ), 福岡県文化会館, 1975(昭和50)年11月

古川智次編『近代の美術 第36号 古賀春江』至文堂, 1976(昭和51)年9月1日

『写実と空想』中央公論美術出版, 1984(昭和59)年10月

『古賀春江—前衛画家の歩み』(展覧会カタログ), 石橋美術館/ブリヂストン美術館, 1986(昭和61)年4月

『古賀春江 創作の原点—作品と資料でさぐる』(展覧会カタログ), ブリヂストン美術館/石橋美術館, 2001(平成13)年4月

なお, 松田資料の書簡151件のうち, 古賀関連のもの

は49件あり, 古賀自身の書簡は, 上記『写実と空想』ですべて紹介されている。

3) 坂本繁二郎と松田諦晶との関係については, 「松田諦晶と坂本繁二郎—松田資料をもとに」(『館報』52号)を参照。

4) 1913(大正2)年, 武田弥一郎, 松本豊太(松濤), 東原経治, 大野米次郎, 古川潤二, 松田の6名が協議し発足した久留米の洋画団体。1922(大正11)年, 「来目洋画会」から「来目会」と改称。1914年の第1回展から1953(昭和28)年の第39回展まで開催, その後久留米市総合美術展に継承される。

5) 『古賀春江回顧展』(展覧会カタログ)の「年譜」による。

6) 松田日記は, 1922(大正11)年から1930(昭和5)年までの分がなく, その間の彼に関するくわしい消息がつかめない。1923年5月3日付, 古賀から松田に宛てた葉書(書簡1-23)では, 住所が東京市外中渋谷となっている。

7) 『櫺』5号(1958年8月)所収

8) くわしくは, 『近代の美術 第36号 古賀春江』(至文堂, 1976年), 『古賀春江 創作の原点—作品と資料でさぐる』(展覧会カタログ, ブリヂストン美術館/石橋美術館, 2001年)などを参照。

ブリヂストン美術館

所在地 東京都中央区京橋1-10-1(〒104-0031)
TEL (03) 3563-0241
URL <http://www.bridgestone-museum.gr.jp>
開館時間 午前10時～午後8時(火～土)
午前10時～午後6時(日・祝)
休館 毎月曜日 年末年始
入場料 個人:
一般 800円 シニア(65歳以上) 600円
大・高生 500円 中学生以下無料
団体(15名以上):
一般 600円 シニア(65歳以上) 500円
大・高生 400円 中学生以下無料
なお、特別展の場合は変更することがある。

Bridgestone Museum of Art

Address 10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo
104-0031, Japan
Phone: +81 (3) 3563-0241
URL <http://www.bridgestone-museum.gr.jp>
Hours 10:00 to 20:00 (Tuesday-Saturday)
10:00 to 18:00 (Sundays and national holidays)
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥800; Seniors 65 or older ¥600;
Students ¥500; Children under 15 free
Group (15 or more):
Adults ¥600; Seniors 65 or older ¥500;
Students ¥500; Children under 15 free
Different fees will be charged during special
exhibitions.

石橋美術館

所在地 福岡県久留米市野中町1015(〒839-0862)
TEL (0942)39-1131
URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>
開館時間 午前10時～午後5時
休館 毎月曜日 年末年始
入場料 個人:
一般 500円 シニア(65歳以上) 300円
大・高生 300円 中学生以下無料
団体(15名以上):
一般 400円 シニア(65歳以上) 200円
大・高生 200円 中学生以下無料
なお、特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art

Address 1015, Nonaka-machi, Kurume-shi,
Fukuoka-ken 839-0862, Japan
Phone: +81 (942) 39-1131
URL <http://www.ishibashi-museum.gr.jp>
Hours 10:00 to 17:00
Closed on Mondays, New year holidays
Admission Individual:
Adults ¥500; Seniors 65 or older ¥300
Students ¥300, Children under 15 free
Group (15 or more):
Adults ¥400; Seniors 65 or older ¥200
Students ¥200, Children under 15 free
Different fees will be charged during special
exhibitions.

(2006年12月現在)

石橋財団職員

常務理事	中山 暁
常務理事	富山 秀男
美術品保存管理課長	石井 亨
	坂井 史恵

事務局

事務局長	遠藤 長夫
	森田麻利子
	鈴木 弥生
	石黒 経子
	土屋 益子

ブリヂストン美術館

館長	富山 秀男	学芸課	学芸課長	福士 理
部長	遠藤 長夫		主任学芸員	貝塚 健
主任研究員	宮崎 克己			塚田美香子
事務部 事務課長	荒井 桂			中村 節子
	中村 邦子			塩島 明美
	金森 大輔			田所 夏子
	石川 久子			
	小原田鶴子			
	久野 朝子			

石橋美術館

館長	平野 実	学芸課	学芸課長	森山 秀子
顧問	田内 正宏		主任学芸員	植野 健造
事務部 事務部長	郷原 耕亮			後藤 純子
	富松 弘美			平間 理香
	原 朋子			
	河野 何奈			
	平島たか子			

2005年12月31日現在

